

- |      |               |       |               |
|------|---------------|-------|---------------|
| I    | 太田遺跡(第18次調査)  | XIII  | 久宝寺遺跡(第88次調査) |
| II   | 太田川遺跡(第4次調査)  | XIV   | 郡川遺跡(第15次調査)  |
| III  | 恩智遺跡(第32次調査)  | XV    | 郡川遺跡(第16次調査)  |
| IV   | 恩智遺跡(第33次調査)  | XVI   | 郡川遺跡(第17次調査)  |
| V    | 恩智遺跡(第34次調査)  | XVII  | 郡川遺跡(第18次調査)  |
| VI   | 恩智遺跡(第35次調査)  |       | 高安古墳群(第8次調査)  |
| VII  | 恩智遺跡(第36次調査)  | XVIII | 郡川遺跡(第19次調査)  |
| VIII | 恩智遺跡(第38次調査)  | XIX   | 郡川遺跡(第20次調査)  |
| IX   | 恩智遺跡(第39次調査)  | XX    | 郡川遺跡(第21次調査)  |
| X    | 楽音寺遺跡(第5次調査)  | XXI   | 水越遺跡(第16次調査)  |
| XI   | 木の本遺跡(第27次調査) | XXII  | 水越遺跡(第18次調査)  |
| XII  | 木の本遺跡(第28次調査) | XXIII | 弓削遺跡(第19次調査)  |

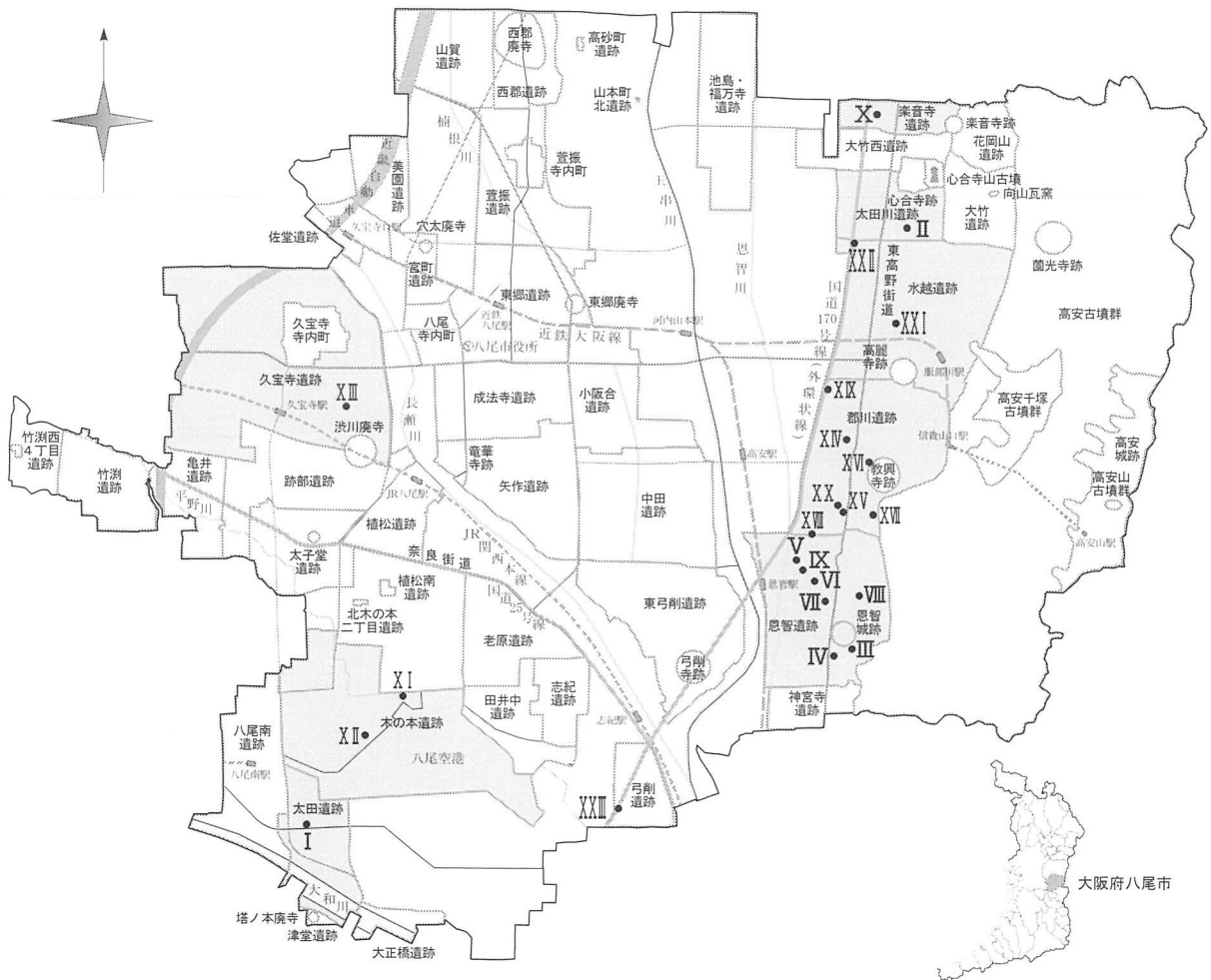
下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2015年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

- |      |               |       |               |
|------|---------------|-------|---------------|
| I    | 太田遺跡(第18次調査)  | XIII  | 久宝寺遺跡(第88次調査) |
| II   | 太田川遺跡(第4次調査)  | XIV   | 郡川遺跡(第15次調査)  |
| III  | 恩智遺跡(第32次調査)  | XV    | 郡川遺跡(第16次調査)  |
| IV   | 恩智遺跡(第33次調査)  | XVI   | 郡川遺跡(第17次調査)  |
| V    | 恩智遺跡(第34次調査)  | XVII  | 郡川遺跡(第18次調査)  |
| VI   | 恩智遺跡(第35次調査)  |       | 高安古墳群(第8次調査)  |
| VII  | 恩智遺跡(第36次調査)  | XVIII | 郡川遺跡(第19次調査)  |
| VIII | 恩智遺跡(第38次調査)  | XIX   | 郡川遺跡(第20次調査)  |
| IX   | 恩智遺跡(第39次調査)  | XX    | 郡川遺跡(第21次調査)  |
| X    | 楽音寺遺跡(第5次調査)  | XXI   | 水越遺跡(第16次調査)  |
| XI   | 木の本遺跡(第27次調査) | XXII  | 水越遺跡(第18次調査)  |
| XII  | 木の本遺跡(第28次調査) | XXIII | 弓削遺跡(第19次調査)  |

下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



2015年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

# は し が き

八尾市は、大阪府の中央部東に位置し、西は上町台地、東は生駒山地、南は羽曳野丘陵に囲まれた山麓・丘陵先端から平野部にかけて立地しています。山麓や丘陵先端部には、古くは旧石器時代に遡り得る人々の生活の痕跡が点在しています。また、平野部では古大和川水系の河川が運び続ける土砂が厚く堆積しており、その中に弥生時代以降の生活の跡が連続と積み重なっています。

このような先人達の残した財産―埋蔵文化財―は、市民が共有すべき財産であるといっても過言ではありません。しかし、市民生活の利便性や豊かさを追求するための開発工事は、一方ではこのような共有財産を破壊することが前提となってしまいます。そこで私どもは、開発工事によって破壊される埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存・研究に努めているところであります。

本書は、市民生活に密接にかかわる公共下水道工事に伴う発掘調査の報告をまとめたもので、平成25・26年度に行った10遺跡23件の調査成果が収録されています。いずれも小規模な調査ではありますが、縄文時代後期以降、中近世に至るまでの遺構や遺物が検出されています。本書が地域史、ひいては日本史解明の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、多くの関係諸機関および地元の皆様方に、多大な御協力をいただきましたことを心から厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

理事長 西 浦 昭 夫

## 序

1. 本書は、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が平成25・26年度に実施した八尾市下水道工事に伴う発掘調査の成果報告を収録したもので、内訳は次表のとおりである。
1. 本書で報告する発掘調査業務は、八尾市教育委員会と八尾市、及び当調査研究会の三者により締結した協定に基づくもので、八尾市教育委員会からの埋蔵文化財発掘調査指示書により当調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 本書作成の業務は、八尾市と当調査研究会で交した覚書に基づき、各現地調査終了後に着手し、平成27年3月をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、目次のとおりである。
1. 本書の執筆は各調査担当者が行い、全体の構成・編集は坪田真一が行った。
1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1地形図(平成8年7月発行)・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』(平成24年度版)をもとに作成した。
1. 本書で用いた標高の基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は座標北(国土座標第VI系〔日本測地系〕)を示している。
1. 遺物実測図の断面表示は、須恵器が黒、その他を白とした。
1. 土色については、一部の調査を除き『新版標準土色帖』1997年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1. 各調査に際しては、写真・実測図を、後世への記録として多数作成した。各方面での幅広い活用を希望する。

調査一覧	
平成25年度	平成26年度
Ⅲ 恩智遺跡第32次調査(O J 2013-32)	I 太田遺跡第18次調査(O O T 2014-18)
Ⅳ 郡川遺跡第15次調査(K R 2013-15)	Ⅱ 太田川遺跡第4次調査(O T G 2014-4)
	Ⅳ 恩智遺跡第33次調査(O J 2014-33)
	Ⅴ 恩智遺跡第34次調査(O J 2014-34)
	Ⅵ 恩智遺跡第35次調査(O J 2014-35)
	Ⅶ 恩智遺跡第36次調査(O J 2014-36)
	Ⅷ 恩智遺跡第38次調査(O J 2014-38)
	Ⅸ 恩智遺跡第39次調査(O J 2014-39)
	X 楽音寺遺跡第5次調査(G O 2014-5)
	XⅠ 木の本遺跡第27次調査(S K 2014-27)
	XⅡ 木の本遺跡第28次調査(S K 2014-28)
	XⅢ 久宝寺遺跡第88次調査(K H 2014-88)
	XⅤ 郡川遺跡第16次調査(K R 2014-16)
	XⅥ 郡川遺跡第17次調査(K R 2014-17)
	XⅦ 郡川遺跡第18次調査(K R 2014-18) 高安古墳群第8次調査(T 2014-8)
	XⅧ 郡川遺跡第19次調査(K R 2014-19)
	XⅨ 郡川遺跡第20次調査(K R 2014-20)
	XX 郡川遺跡第21次調査(K R 2014-21)
	XⅪ 水越遺跡第16次調査(M K 2014-16)
	XⅫ 水越遺跡第18次調査(M K 2014-18)
	XⅬ 弓削遺跡第19次調査(Y G E 2014-19)

# 目 次

はしがき

序

I	太田遺跡第18次調査(OOT2014-18) .....	1
II	太田川遺跡第4次調査(OTG2014-4) .....	5
III	恩智遺跡第32次調査(OJ2013-32) .....	15
IV	恩智遺跡第33次調査(OJ2014-33) .....	23
V	恩智遺跡第34次調査(OJ2014-34) .....	29
VI	恩智遺跡第35次調査(OJ2014-35) .....	35
VII	恩智遺跡第36次調査(OJ2014-36) .....	41
VIII	恩智遺跡第38次調査(OJ2014-38) .....	49
IX	恩智遺跡第39次調査(OJ2014-39) .....	53
X	楽音寺遺跡第5次調査(GO2014-5) .....	57
XI	木の本遺跡第27次調査(SK2014-27) .....	61
XII	木の本遺跡第28次調査(SK2014-28) .....	65
XIII	久宝寺遺跡第88次調査(KH2014-88) .....	71
XIV	郡川遺跡第15次調査(KR2013-15) .....	77
XV	郡川遺跡第16次調査(KR2014-16) .....	83
XVI	郡川遺跡第17次調査(KR2014-17) .....	87
XVII	郡川遺跡第18次調査(KR2014-18)・高安古墳群第8次調査(T2014-8) .....	91
XVIII	郡川遺跡第19次調査(KR2014-19) .....	97
XIX	郡川遺跡第20次調査(KR2014-20) .....	101
XX	郡川遺跡第21次調査(KR2014-21) .....	105
XXI	水越遺跡第16次調査(MK2014-16) .....	109
XXII	水越遺跡第18次調査(MK2014-18) .....	115
XXIII	弓削遺跡第19次調査(YGE2014-19) .....	119

報告書抄録

I 太田遺跡第18次調査(〇〇T2014-18)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市太田新町三丁目地内で実施した下水道工事(25-205工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する太田遺跡第18次調査(OOT2014-18)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年11月13日(外業実働1日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約4.0㎡である。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	1
2. 調査概要	2
1) 調査の方法と経過	2
2) 基本層序	2
3) 検出遺構と出土遺物	2
3. まとめ	2



# I 太田遺跡第18次調査(OOT 2014-18)

## 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部に位置する。今回報告する太田遺跡は、本市の南部、現在の行政区画では、太田三・四・九丁目、太田新町一・三丁目の東西約0.5km、南北約1.3kmがその範囲とされている。地形的には、南から延びる羽曳野丘陵の先端部と、その北側に広がる旧大和川が形成した沖積地上に跨って立地する遺跡である。現地表面高を見ると、遺跡南端が最も高く標高13.0m前後、北西端が最も低く標高10.5mで、比高差は約2.5mを測る。概ね南から北に緩やかに傾斜する地形を有している。

今回の調査地は、太田遺跡のほぼ中央に位置する。周辺では、本地の南西約40mで行われた大阪府教育委員会の調査において、旧石器時代の石器が多量に出土したほか、南西約50mの当研究会による第8次調査地では、旧石器時代～鎌倉時代の遺構、遺物が検出された。第8次調査を概説すると、旧石器時代については、T.P.+9.2m前後においてサヌカイト製のナイフ形石器などが出土した。縄文時代前期以前については、T.P.+9.3～9.5m付近より凹基無茎式石鏃が出土した。弥生時代前期は、当地が河川域に位置したことが明らかになった。弥生時代後期については、遺構が希薄であることから、当地が当該期の居住域からは外れた地域であった可能性が高い。なお、本地の西約300mで実施された大阪府文化財センターの調査において竪穴住居が検出されており、この付近に当該期の居住域が展開していたことが判明している。古墳時代前～中期については、土坑や溝が検出されたが、弥生時代後期同様、積極的に居住域であったとは言い難い。これ以降は、作土層をはじめ、耕作に関連する溝などを検出しており、本地一帯が生産域として機能していたことが明らかになった。



第1図 調査地周辺図

本遺跡の周辺には、西側に旧石器時代～中世にかけての複合遺跡である八尾南遺跡が展開するほか、北側には木の本遺跡、東側には大正橋遺跡などの弥生時代以降の複合遺跡が存在する。さらに南側には、現大和川を挟んで津堂遺跡(弥生時代～中世)が存在する。

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市太田新町三丁目地内で実施した下水道工事(25-205工区)に伴う調査で、当調査研究会が太田遺跡内で行った第18次調査(OOT2014-18)にあたる。

調査区は人孔部分(規模約2.0×2.0m)1箇所、総面積は約4.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(T.P.+11.5～11.6m前後)下1.3mまでを機械により掘削、以下1.0m前後を人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。なお、調査は夜間に実施された。

調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

現地表(T.P.+11.5～11.6m)下0.8～0.9mまでは埋設物に伴う客土・盛土層(0層)である。以下現地表下2.3mまでで、8層の基本層序を確認した。1層は作土層(T.P.+10.8m)である。2層は湿地性堆積層(T.P.+10.6m)である。3・4層は土壌化層(3層:T.P.+10.5m 4層:T.P.+10.3m)である。5層は河川堆積層(T.P.+10.2m)である。6層は湿地性堆積層(T.P.+9.9m)である。7層は土壌化層(T.P.+9.8m)である。8層は河川堆積層(T.P.+9.6m以下)である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

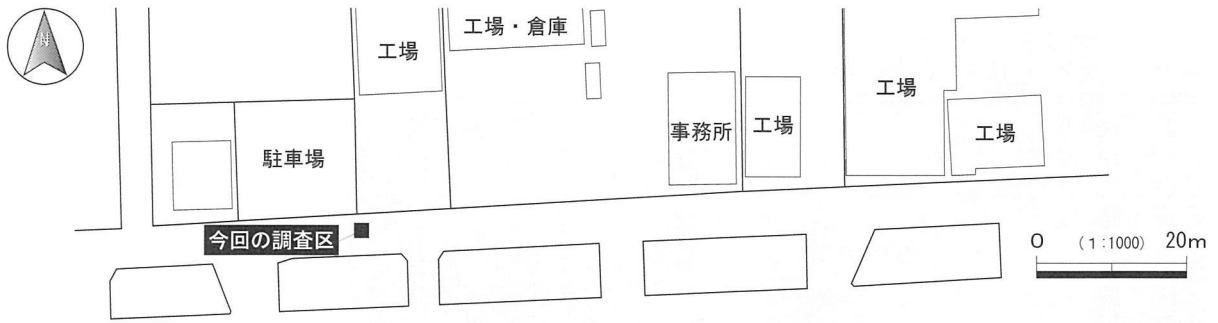
なし。

## 3. まとめ

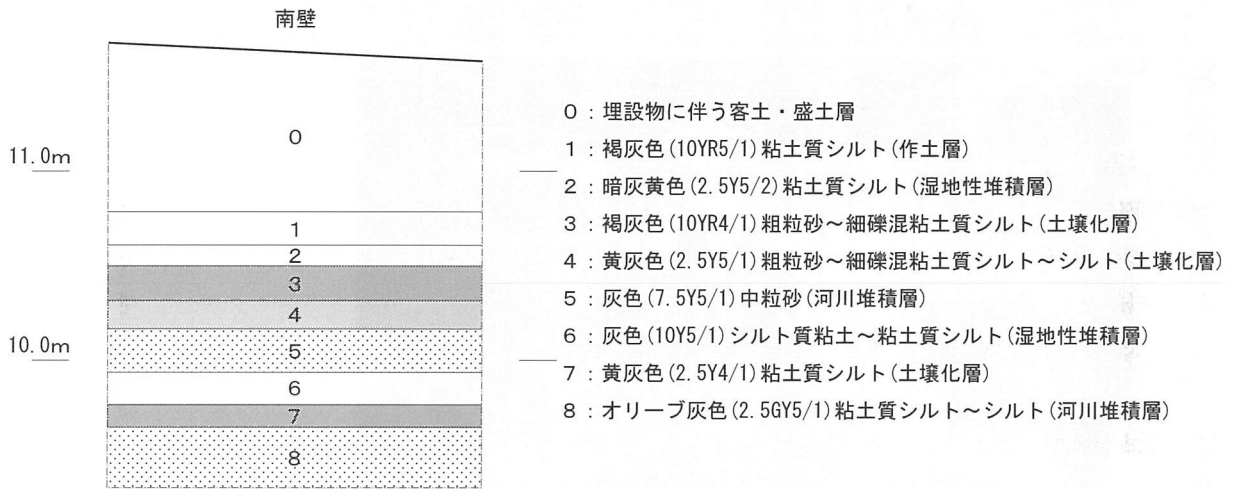
今回の調査では、3層(3・4・7層)におよぶ土壌化層の存在を確認した。出土遺物が皆無であるため、各土壌化層の帰属時期は不明であるが、本地の南西約50mに位置する第8次調査地の成果と比較すると、本地の3層は弥生時代後期～古墳時代中期に、4層は縄文時代晩期～弥生時代前期に、第7層は縄文時代中～後期にそれぞれ比定される可能性が考えられる。

### 参考文献

- ・福田英人1989『八尾南遺跡-旧石器出土第3地点 大阪府文化財調査報告書第36輯』大阪府教育委員会
- ・西村公助2007「Ⅱ 太田遺跡(第8次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告104』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岡本茂史・森屋美佐子ほか2008『八尾南遺跡 大和川改修(高規格堤防)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (財)大阪府文化財センター調査報告書第172集』(財)大阪府文化財センター



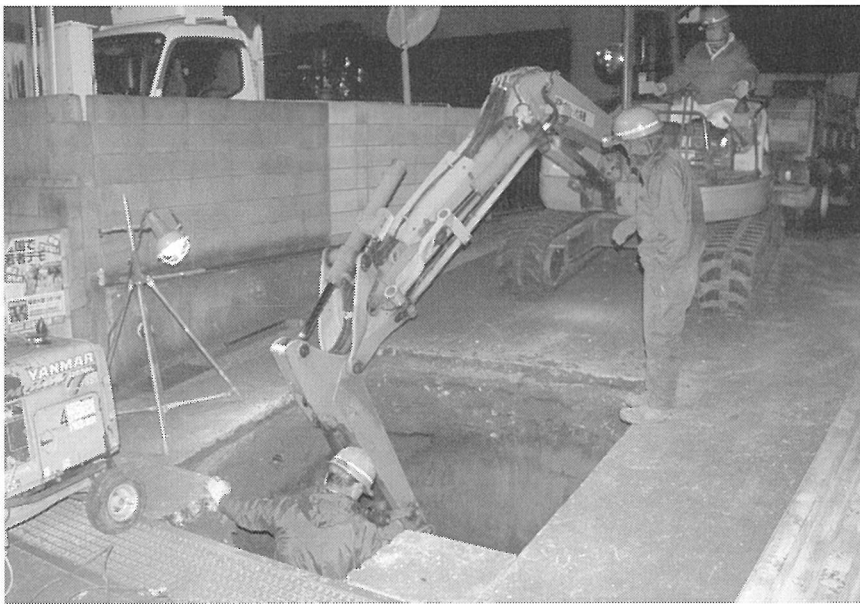
第2図 調査区位置図



第3図 断面図(S = 1/40)



調査地周辺状況(西から)



調査区掘削状況(南西から)



南壁断面(北から)

## Ⅱ 太田川遺跡第4次調査(OTG2014-4)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市水越四丁目他地内で実施した下水道工事(25-34工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する太田川遺跡第4次調査(OTG2014-4)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年5月7日～7月30日(外業実働3日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約12㎡である。
1. 現地調査においては市森千恵子・伊藤静江・國津玲子・竹田貴子・村井俊子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。  
遺物実測－飯塚直世・市森・伊藤・村井・村田知子  
遺物トレース－市森  
その他－坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

# 本文目次

1. はじめに	5
2. 調査概要	6
1) 調査の方法と経過	6
2) 基本層序	6
3) 検出遺構と出土遺物	6
3. まとめ	9

## Ⅱ 太田川遺跡第4次調査(OTG2014-4)

### 1. はじめに

太田川遺跡は八尾市の北東部に位置し、現在の行政区画では大竹1・3・4丁目、水越1・3・4丁目、西高安町1・2丁目の、南北約500m・東西約850mがその範囲とされている。地理的には生駒山西麓の扇状地先端部にあたり、西流する太田川と水越川に挟まれた地域であり、同地形上において北側で大竹西遺跡、心合寺山古墳、心合寺跡、東側で大竹遺跡、南側で水越遺跡に接している。

当遺跡が認識されたのは、昭和15(1940)年3月、東高野街道改修工事の際、滑石製勾玉・弓筈状木製品等を含む地層が確認されたことによる。そして八尾市教育委員会により昭和56(1981)年に立会調査、さらに昭和57(1982)年には最初の発掘調査(太田川市82)が実施され、前者では古墳時代包含層、後者では弥生時代後期の遺構・遺物を検出した。その後も遺構確認調査や小規模な発掘調査が市教委・当調査研究会によって継続的に実施されており、当遺跡は弥生時代～中世の遺跡として認識されている。

今回の調査地周辺では、当調査研究会が第2・3次調査(OTG13-2・3)を実施している。第2次調査では西部で確認している弥生時代後期、古墳時代の遺物包含層が見られ、集落域が東に広がることを確認した。第3次調査でも縄文時代晩期～弥生時代の遺物包含層を確認している。また北西部の第1次調査(OTG93-1)では縄文時代晩期、弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、奈良時代に亘る遺構・遺物を検出しており、なかでも古墳時代後期の溝から出土した滑石製有孔石製品の未成品は、周辺の水越遺跡・大竹西遺跡といった玉造関連遺跡との関係を考える上で注目される資料となっている。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市水越四丁目他地内で実施した下水道工事(25-34工区)に伴う調査で、当調査研究会が太田川遺跡内で行った第4次調査(OTG2014-4)である。

調査地は人孔部分(規模約2.0×2.0m)3箇所、総面積約12㎡を測る。地区名は北から1～3区とした。

調査は現地表(T.P.+19.4～20.3m前後)下2.7～3.0mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では、調査地に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

#### 1区

0層はコンクリート。1層は旧耕土である。2層はブロック状を呈し、作土と考えられる。3層は水成層である。4層は極細粒砂～細礫の互層状の水成層で、東西方向の河川堆積である。3・4層からは弥生時代後期の土器片や古墳時代中期の須恵器が少量出土した。5層は土壌化層である。6～8層は静水性の水成層である。

#### 2区

0層は盛土・攪乱。1層は土壌化層で、作土と考えられる。2層は水成層である。3・4層は土壌化層で、3層から弥生時代後期の土器が少量出土した。5層はシルト～極細粒砂からなる水成層である。6・7層は土壌化層で、6層からは縄文時代後期の土器が多く出土した。土器の遺存状況は良好で、遺構埋土とも捉えられ、7層が該期の生活面となる可能性が高い。8層は水成層である。

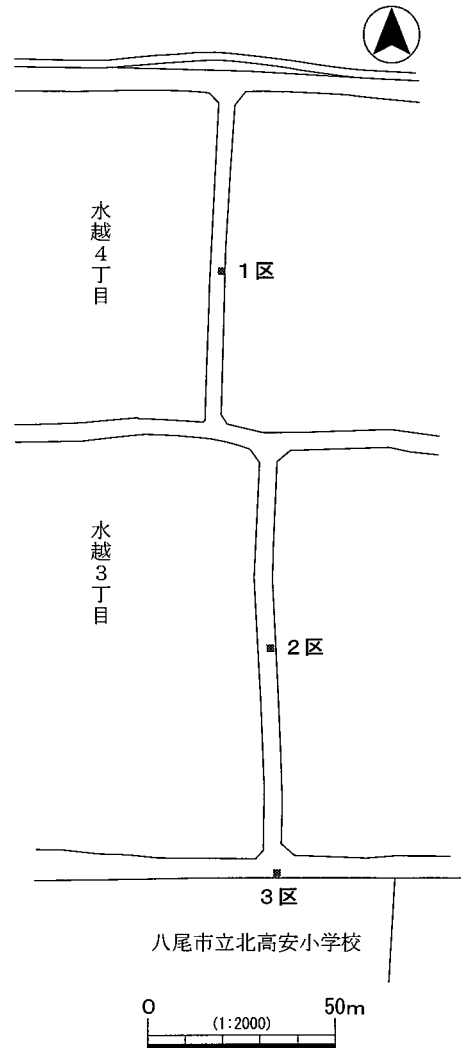
#### 3区

0層は盛土・攪乱。1～3層は土壌化層で、作土と考えられる。4層は水成層で、2区2層に対応する可能性がある。5層は土壌化層で、2区3・4層に対応する可能性がある。6層以下は水成層である。3区からは遺物は出土しなかった。

### 3) 検出遺構と出土遺物

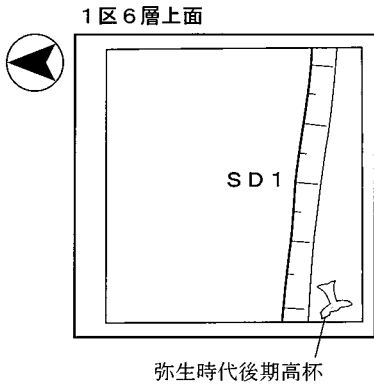
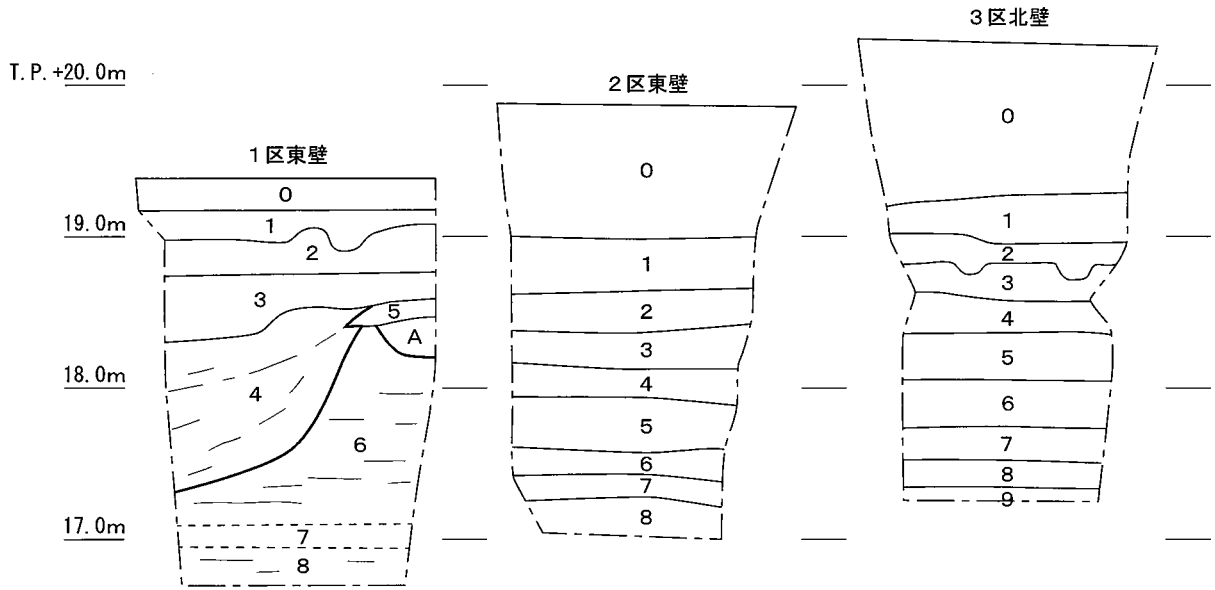
#### 1区

6層上面で弥生時代後期の溝1条(SD1)を検出した。東西方向に延びる溝の北肩を検出したもので、規模は検出長2.0m、幅50cm以上、深さ約25cmを測る。埋土はブロック状の単層である。西端部では完形に近い高杯(1)が横位で出土した。1は口径20.6cm・器高15.8cmを測る。調整はヘラミガキで、脚部3方向に円孔を穿つ。後期後半に比定されよう。



第2図 調査区位置図





- 1区
- 0. コンクリート
  - 1. 2. 5Y5/2暗灰黄色細粒砂～粗粒砂混シルト 旧耕土
  - 2. 2. 5Y6/2灰黄色細粒砂～極粗粒砂混シルト ブロック状作土
  - 3. 10YR4/1褐灰色シルト～極粗粒砂 水成層
  - 4. 10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂～細礫互層 水成層 河川堆積
  - 5. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂～粗粒砂混シルト 土壌化層
  - 6. 2. 5Y5/1黄灰色シルト～粘土質シルト互層 水成層
  - 7. 2. 5G3/1暗オリーブ灰色細粒砂混シルト質粘土 水成層
  - 8. 5Y6/1灰色シルト～細粒砂 水成層
- SD 1  
A. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混シルト ブロック状

- 2区
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト 土壌化層
  - 2. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト～極細粒砂 水成層
  - 3. 10YR4/1褐灰色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト～シルト 土壌化層 弥生時代後期遺物包含層
  - 4. 10YR5/1褐灰色細粒砂～極粗粒砂混シルト 土壌化層
  - 5. 5Y5/1灰色シルト～極細粒砂 水成層
  - 6. 2. 5Y5/1黄灰色シルト～極細粒砂混粘土質シルト 土壌化層 縄文時代後期遺物包含層
  - 7. 2. 5Y5/1黄灰色極細粒砂混シルト 土壌化層
  - 8. 7. 5Y6/2灰オリーブ色シルト 水成層

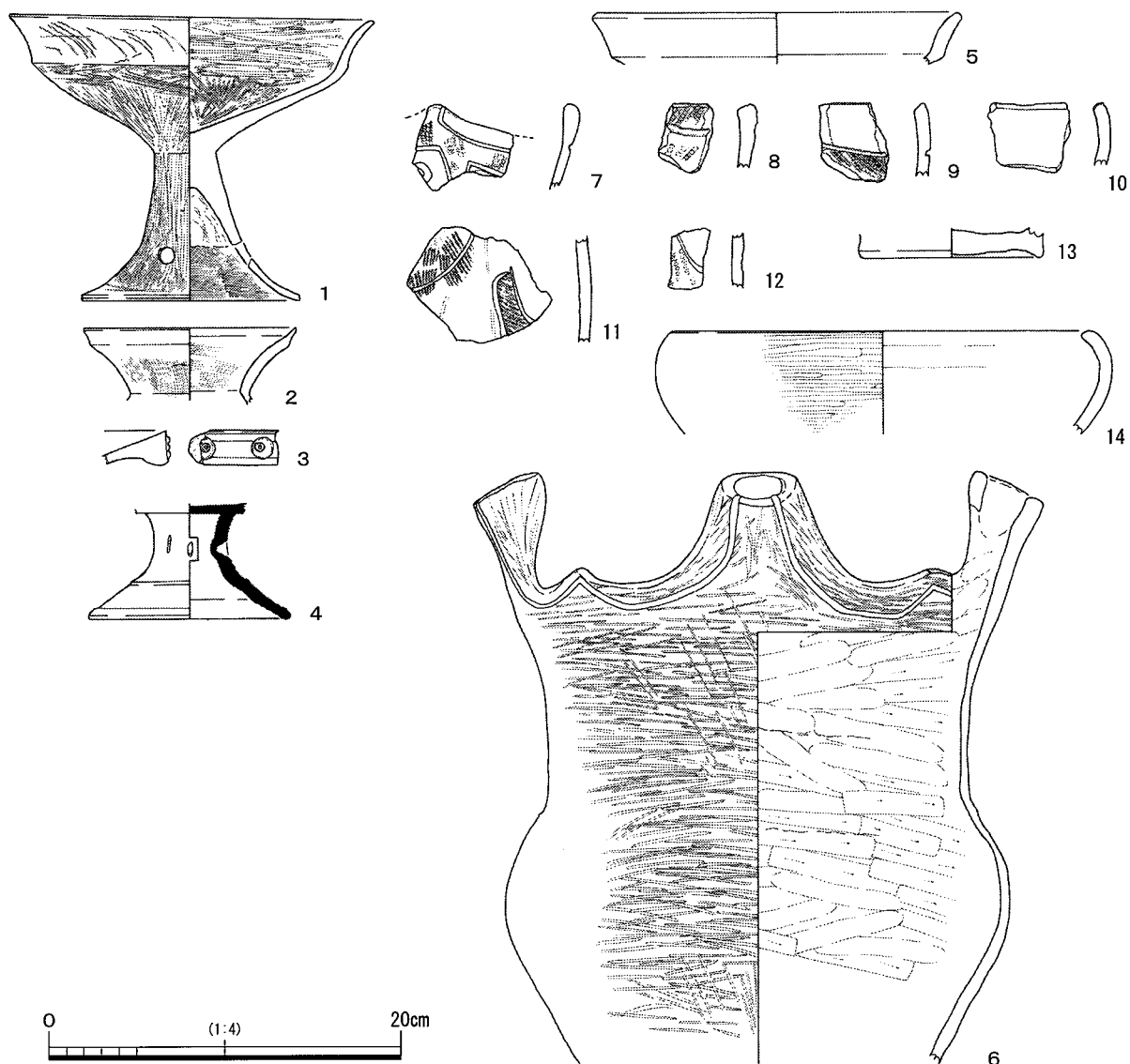
- 3区
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 2. 5Y5/3黄褐色極細粒砂～極粗粒砂混粘土質シルト 土壌化層
  - 2. 10YR5/1褐灰色細粒砂～細礫混粘土質シルト 土壌化層
  - 3. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト 土壌化層
  - 4. 2. 5Y5/1黄灰色極細粒砂～細粒砂混シルト 水成層
  - 5. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト 土壌化層
  - 6. 2. 5Y6/2灰黄色シルト～細粒砂 水成層
  - 7. 2. 5Y5/1黄灰色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト 水成層
  - 8. 2. 5Y6/3にぶい黄色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 水成層
  - 9. 2. 5Y6/1黄灰色細粒砂～極粗粒砂 水成層

第3図 平断面図

河川堆積である4層出土遺物からは2~4を図化した。2・3は弥生土器壺の口縁部である。2はハケ調整を施す。3は口縁部外端面に竹管円形浮文を施す。共に後期後半に比定される。4は須恵器高杯脚部である。外面に2条の突線を巡らせるほか、ヘラの刺突による縦長のスカシを5方向に施すが、いずれも貫通していない。焼成はやや不良で、全体に摩耗する。初期須恵器の範疇に収まる5世紀前半のTK73型式に比定される。

2区

5は3層出土の弥生土器で、高杯の口縁部と考えられる。後期中頃に比定されよう。6~14は6層出土の縄文土器である。6は波状口縁の深鉢で、口縁部と体部下位を図上で復元したものである。口縁は8山からなり、構成は三角の山形と縦位の筒状の装飾を付す山形を交互に配する。口縁端部外面には1条の凹線を巡らせる。縄文は認められず、調整は外面がヘラミガキ、内面は



第4図 出土遺物

ヘラケズリ・ナデである。7～13は深鉢である。7～10は口縁部で、7は波状口縁を呈し、他もその可能性がある。7～9・11・12は、凹線文で区画された器壁に磨消縄文を施す。13は底部で上げ底状を呈する。14は口縁部が内湾する浅鉢である。6～14は後期前葉の中津式に比定される。

### 3. まとめ

1・2区では西部の調査地で確認している弥生時代後期の遺構や遺物包含層が見られ、集落域が東に広がることが確認された。1区では河川堆積からではあるが初期須恵器が出土しており注目される。西部の調査地(太田川2005-473)では、該期の土器と共に鞆羽口・金床石・砥石といった鍛冶関連の遺物が出土しており、鉄鍛冶の集団の存在が推定されている。

2区では縄文時代後期の遺物包含層から遺存状態の良好な土器が出土しており、該期の居住域と捉えられる。東に近接する第3次調査においては遺物包含層から縄文時代晩期の土器が出土しており、一帯が長期に亘る居住域となっていた可能性がある。

#### 参考文献

- ・原田 修・久貝 健・島田和子1976『大阪文化誌 第2巻・第2号・通巻第6号』財団法人大阪文化財センター
- ・財団法人八尾市文化財調査研究会1983「付章 昭和55・56年度調査一覧表」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報 1980・1981年度 財団法人八尾市文化財調査研究会報告2』
- ・原田昌則・成海佳子1983「第3章 太田川遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和56・57年度 財団法人八尾市文化財調査研究会報告3』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一1994「Ⅲ 太田川遺跡第1次調査(OTG93-1)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告42』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則2007「1-1-2 太田川遺跡(2005-473)の調査」『八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告55 平成18年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・坪田真一2014「Ⅱ太田川遺跡第3次調査(OTG2013-3)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告145』公益財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2014「Ⅱ太田川遺跡第3次調査(OTG2013-3)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告145』公益財団法人八尾市文化財調査研究会

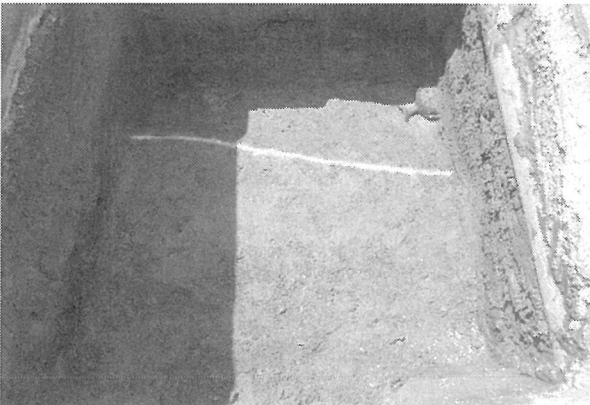
図版  
1



1区調査地(南から)



1区機械掘削(北から)



1区第1面全景(北から)



1区SD1遺物出土状況(北東から)



1区東壁



1区東壁下部



2区調査地(南西から)



2区4層上面(北から)



2区最終面(南西から)



2区東壁



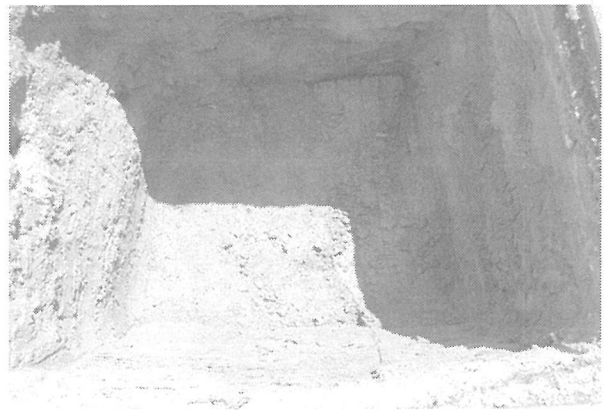
2区東壁下部



3区調査地(西から)



3区機械掘削(北から)



3区全景(西から)



3区北壁



3区北壁下部

图版 3



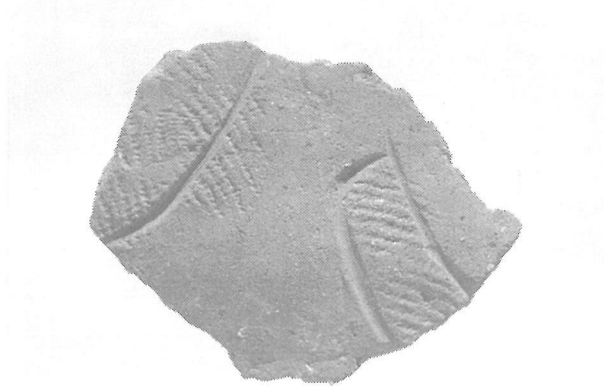
1



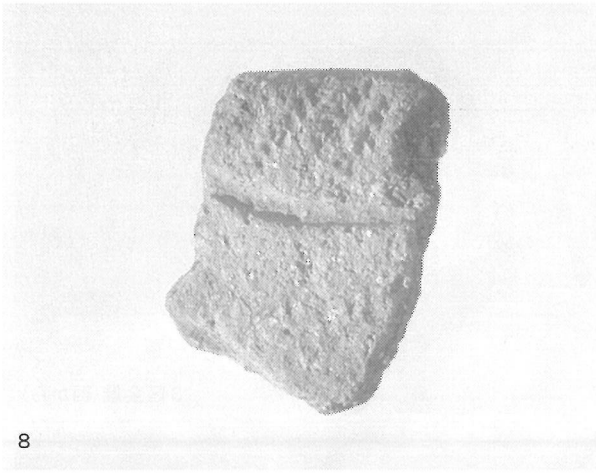
4



7



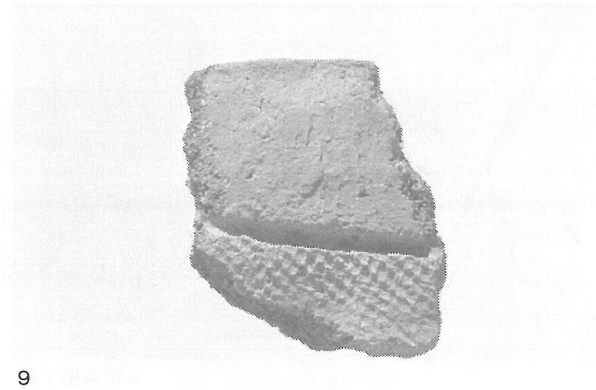
11



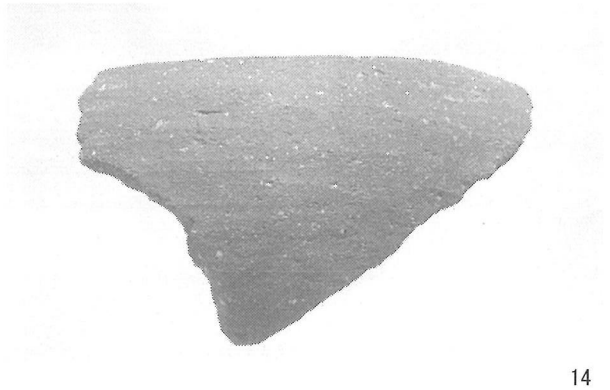
8



12



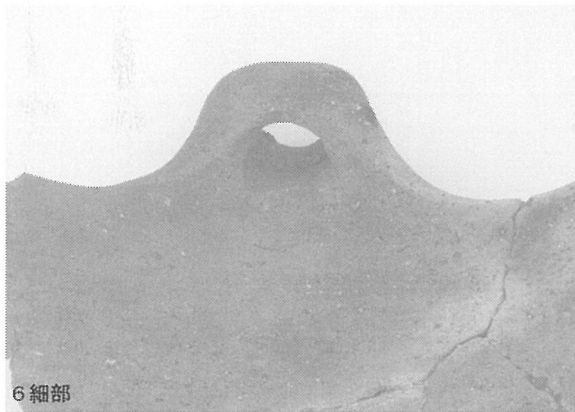
9



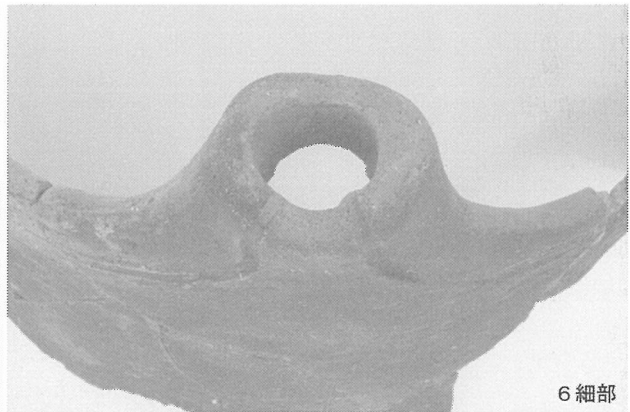
14



6 上部



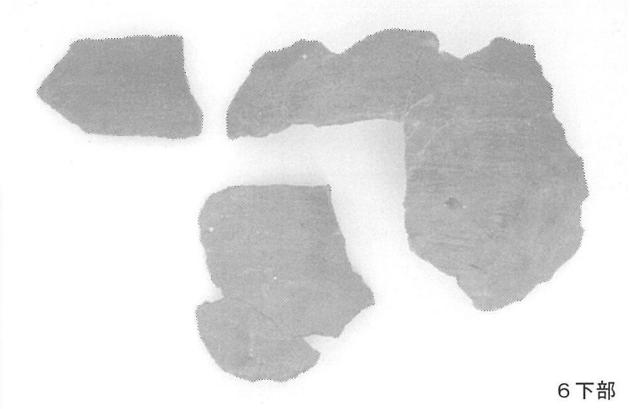
6 細部



6 細部



6 細部



6 下部





### Ⅲ 恩智遺跡第32次調査(○ J 2013-32)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智中町5丁目地内で実施した下水道工事(24-20工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第32次調査(O J 2013-32)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成25年9月30日～平成26年3月18日(外業実働5日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約20㎡である。
1. 現地調査においては梶本潤二・國津玲子・芝崎和美・竹田貴子・永井律子・村井俊子・村田知子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。  
遺物実測—竹田・村井  
遺物トレース—市森千恵子  
その他—坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	15
2. 調査概要	16
1) 調査の方法と経過	16
2) 基本層序と出土遺物	16
3. まとめ	19

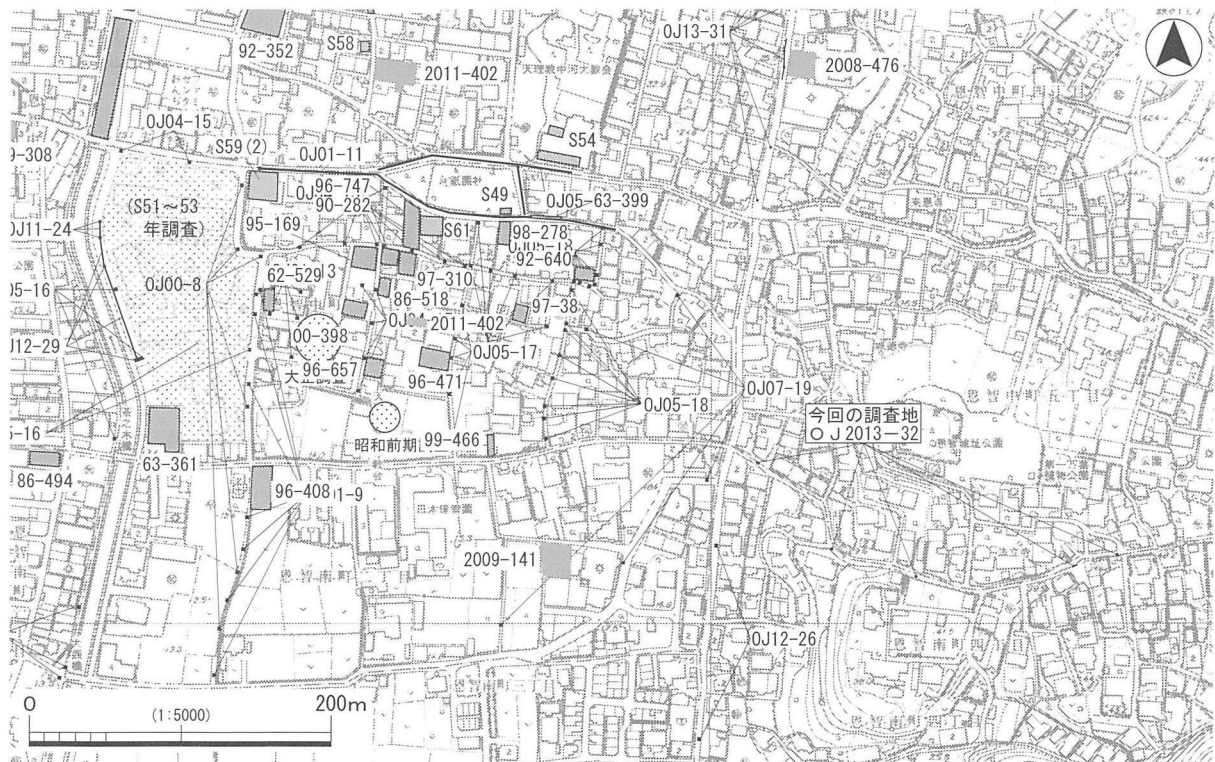
### III 恩智遺跡第32次調査(OJ 2013-32)

#### 1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓に形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡については、古くは大正6(1917)年の梅原末治・島田貞彦両氏による踏査と鳥居龍蔵氏による試掘調査、昭和14(1939)年の大阪府の事業に伴う藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告等がある。そして昭和50～53年(1975～1978)には恩智川改修工事に伴う大規模な調査が瓜生堂遺跡調査会により行われ、以降、八尾市教育委員会・当研究会により多次にわたる調査が実施されている。これらの調査により当遺跡は縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として認識されており、恩智中町3丁目に位置する『天王の杜』周辺から北西～西側を中心に展開していたことが判明している。

今回の調査地は遺跡範囲の南東部にあたり、周辺では西部で第19次調査(OJ2007-19)、北西部で第31次調査(OJ2013-31)、南西部で第26次調査(OJ2012-26)を実施している。概観すると、第19次調査では扇状地性堆積の他、古墳時代前期～中期の土壌化層や近世の遺構を検出した。第31次調査では遺物包含層から縄文時代後期、弥生時代中期、中世の遺物が出土している。第26次調査では岩盤層や河川堆積を確認した。



第1図 調査地位置図

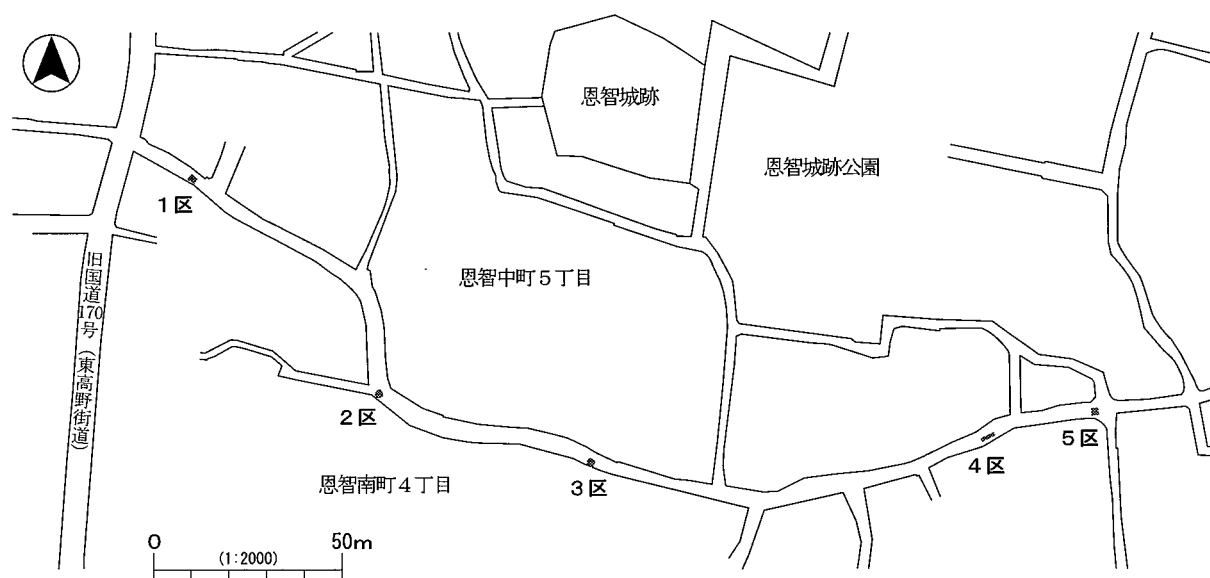
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智中町5丁目地内で実施された下水道工事(24-20工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第32次調査(O J 2013-32)である。

調査地は、八尾市東部を縦断する旧国道170号(東高野街道)東側に所在し、南北朝時代の山城である恩智城跡南側の東西道路上に位置する。急峻な地形にあたり、調査範囲は東西約250m、標高差約24mを測る。調査対象は人孔部分4箇所、管路部分1箇所(西から1～5区)で、調査面積は約20㎡である。

調査は工事掘削深度である現地表(約T.P. +21.3～45.2m)下2.2～3.3mまで機械・人力掘削併用で実施した。調査では、調査地に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

0層は盛土・攪乱。1～6層は粘土基調の固く締まる水成層である。3・4層ではラミナ構造が認められる。遺構・遺物なし。

#### 2区

0層は盛土・攪乱。1層は粘土基調の固く締まる水成層、2・3層は粘土～極粗粒砂の互層状の水成層である。遺構・遺物なし。

#### 3区

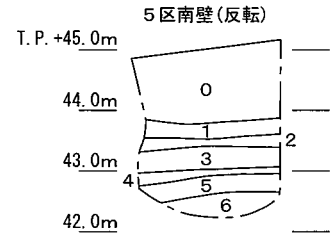
0層は盛土・攪乱。1層は粘土～極粗粒砂の互層状を呈する固く締まる水成層である。遺構・遺物なし。

#### 4区

0層は盛土・攪乱。1層は粘土～細礫の互層状を呈する固く締まる水成層である。2層はいわゆる岩盤層である。遺構・遺物なし。

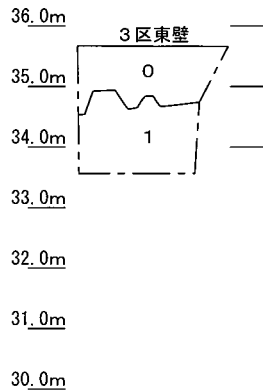
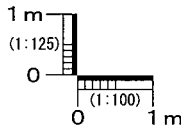
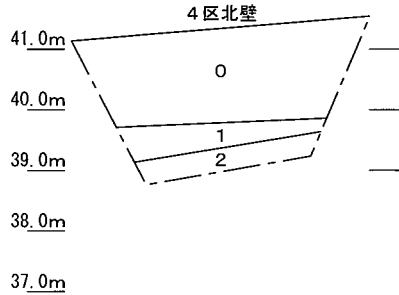
5区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 10YR5/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト 水成層
- 2. 10YR4/1褐灰色細粒砂～細礫混粘土質シルト 水成層
- 3. 5Y4/1灰色極細粒砂～粗粒砂混シルト 水成層
- 4. 5GY4/1暗オリーブ灰色細粒砂～中礫多混シルト 水成層
- 5. 2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂～巨礫 水成層
- 6. 10G5/1緑灰色細粒砂～細礫混シルト質粘土 固く締まる 水成層



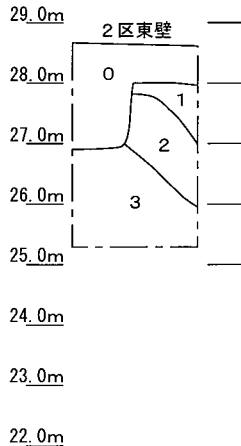
4区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 10YR6/4にぶい黄橙色粘土～細礫互層 固く締まる
- 2. 10G5/1緑灰色粘土～巨礫互層 固く締まる



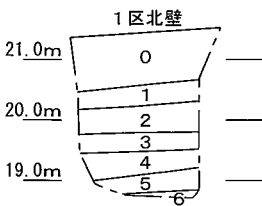
3区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト質粘土～極粗粒砂互層 固く締まる



2区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 10YR7/3にぶい黄橙色細粒砂～粗粒砂混粘土 固く締まる 水成層
- 2. 2.5Y7/3浅黄色粘土～極粗粒砂互層 水成層
- 3. 2.5Y7/2灰黄色細粒砂～極粗粒砂 水成層



1区

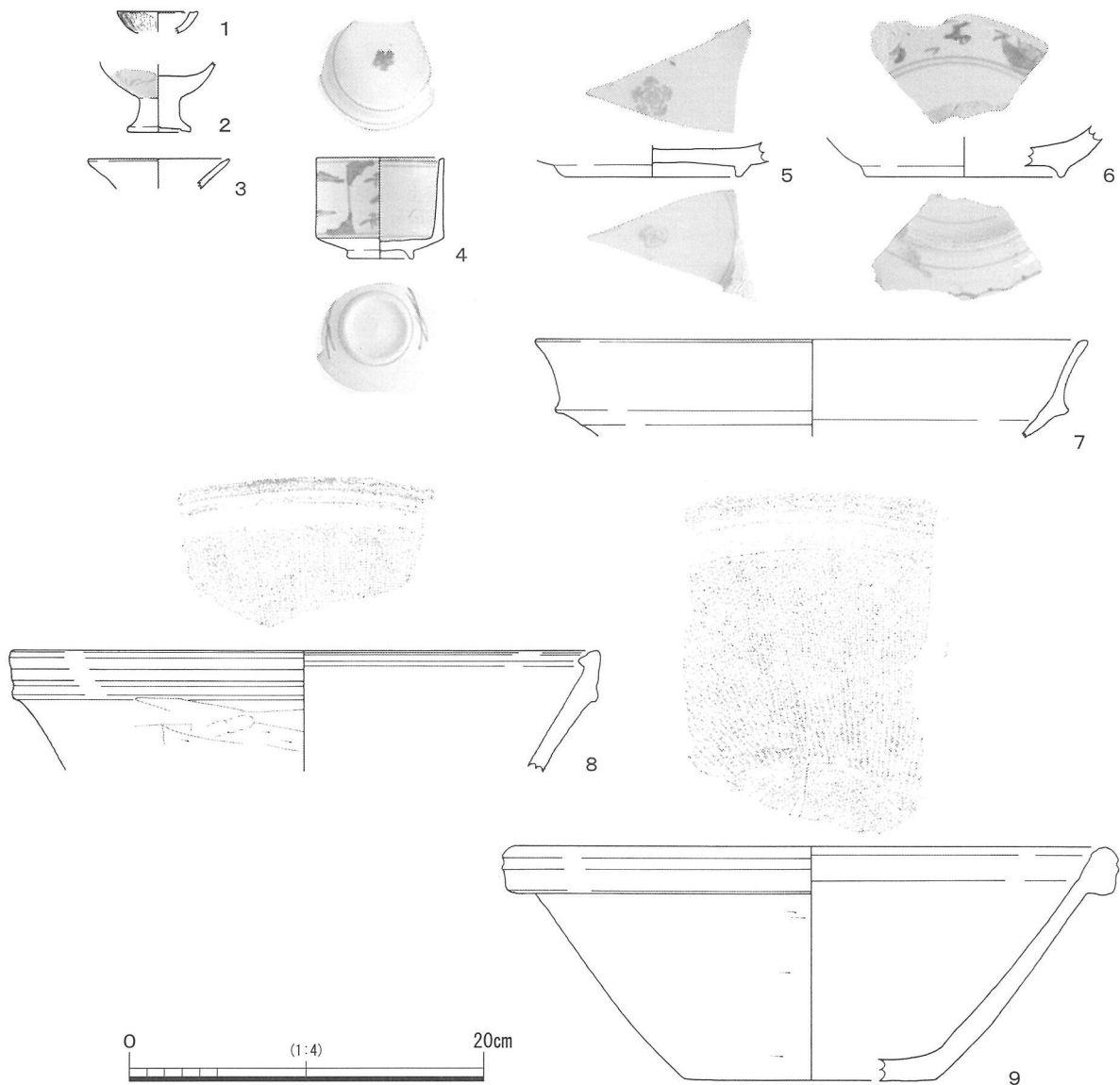
- 0. 盛土・攪乱
- 1. 2.5Y7/3浅黄色極細粒砂～細粒砂混粘土 固く締まる 水成層
- 2. 2.5Y7/3浅黄色シルト質粘土～細粒砂 固く締まる 水成層
- 3. 2.5Y7/4浅黄色極細粒砂～細粒砂混粘土互層 固く締まる 水成層
- 4. 10YR7/6明黄褐色細粒砂～粗粒砂混粘土互層 Fe斑 固く締まる 水成層
- 5. 10YR6/6明黄褐色細粒砂～細礫混粘土 Fe斑 固く締まる 水成層
- 6. 10YR7/4にぶい黄橙色極細粒砂～細粒砂混粘土 固く締まる 水成層

第3図 断面図

## 5区

0層は盛土・攪乱。1～5層は土石流や洪水に起因する水成層である。6層はいわゆる岩盤層である。遺構はなし。遺物は1～3層から近世の土師器、陶磁器、瓦等が出土しており、1～9を図化した。

1は貝殻を模した白磁紅皿で、型作り成形による。2は磁器仏飯器で、外面に草文を描く。脚台底部は露胎である。3は土師器皿である。4～6は肥前系磁器である。4は筒形碗で、外面には四分割して山水図を、見込みには五弁花を描く。5・6は鉢で、5は見込みに五弁花、高台内に渦福を描く。7は土師器炮烙である。8・9は陶器摺鉢で、堺摺鉢と考えられる。これらの遺物は18～19世紀代に比定される。



第4図 出土遺物

### 3. まとめ

恩智遺跡では、今回の調査地である旧国道170号(東高野街道)より東側の地域については、これまでほとんど発掘調査は行われておらず、遺跡の様相については不明な点が多い。本調査ではいずれの調査区においても扇状地性堆積や岩盤層といった自然堆積層を確認したのみで、西部で確認されている縄文～弥生時代や古墳時代、中世の集落域の広がりについては明らかにできなかった。なお遺構は認められなかったが、生活の痕跡としては、最高所に位置する5区において洪水層に近世の遺物が多く含まれる状況を確認した。

#### 参考文献

- ・ 田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・ 米井友美2010「II 恩智遺跡第19次調査(O J 2007-19)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告129』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 坪田真一2014「VI 恩智遺跡第31次調査(O J 2013-31)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告143 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』公益財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 高萩千秋2013「III 恩智遺跡第26次調査(O J 2012-26)、郡川遺跡第13次調査(KR2012-13)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』公益財団法人八尾市文化財調査研究会

図版1



1区調査地(西から)



1区機械掘削(北西から)



1区全景(東から)



1区北壁



2区調査地遠景(南東から)



2区機械掘削(東から)

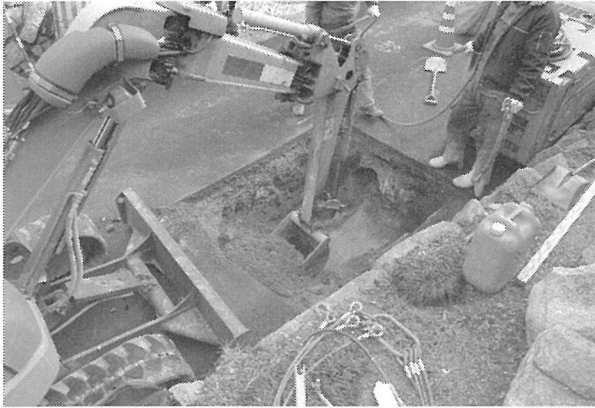


2区東壁



2区東壁下部





3区機械掘削(南西から)



3区東壁



4区機械掘削(西から)



4区北壁(南東から)



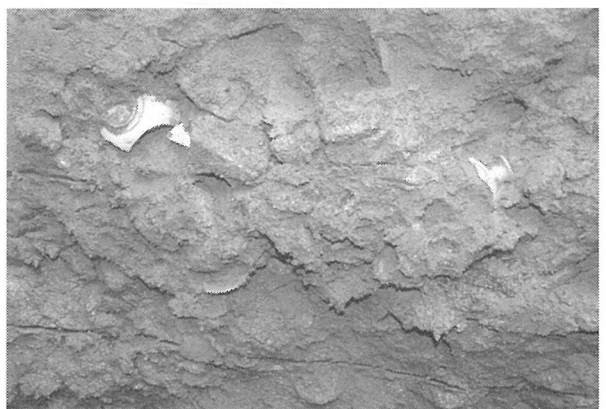
4区北壁



5区機械掘削(東から)

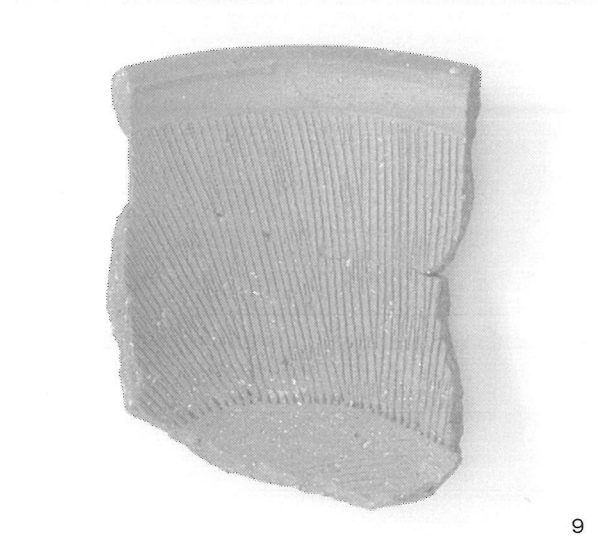
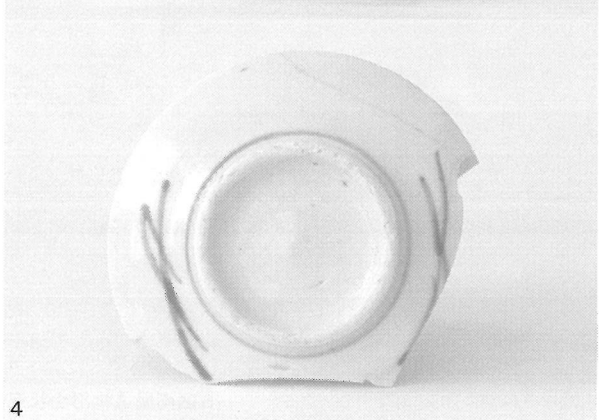
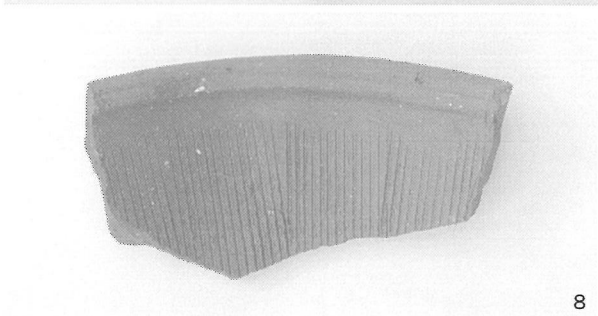
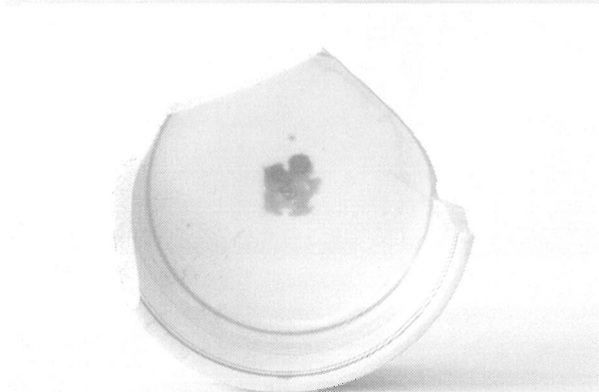
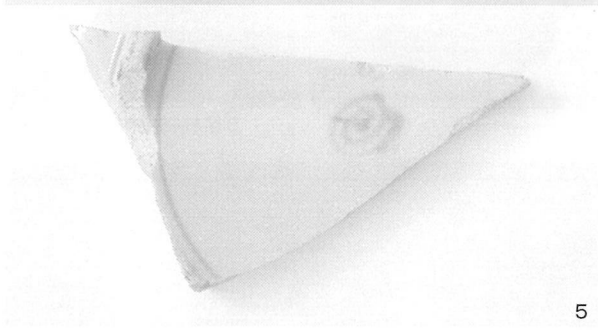
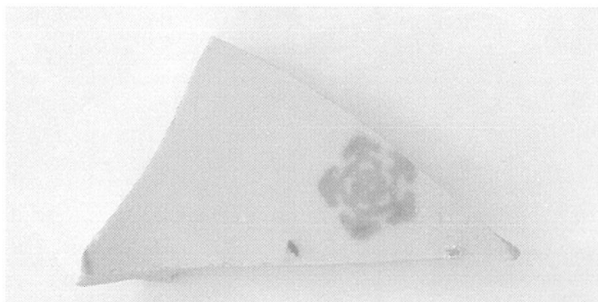
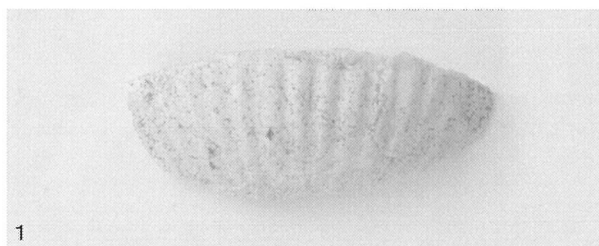


5区南壁



5区南壁遺物出土状況

图版 3



#### IV 恩智遺跡第33次調査(O J 2014-33)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智南町4丁目地内で実施した下水道工事(25-35工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第33次調査(OJ2014-33)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年5月19日～6月26日(外業実働4日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約13㎡である。
1. 現地調査においては飯塚直世・市森千恵子・伊藤静江・小野聡美・芝崎和美の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	23
2. 調査概要	24
1) 調査の方法と経過	24
2) 基本層序	24
3. まとめ	24

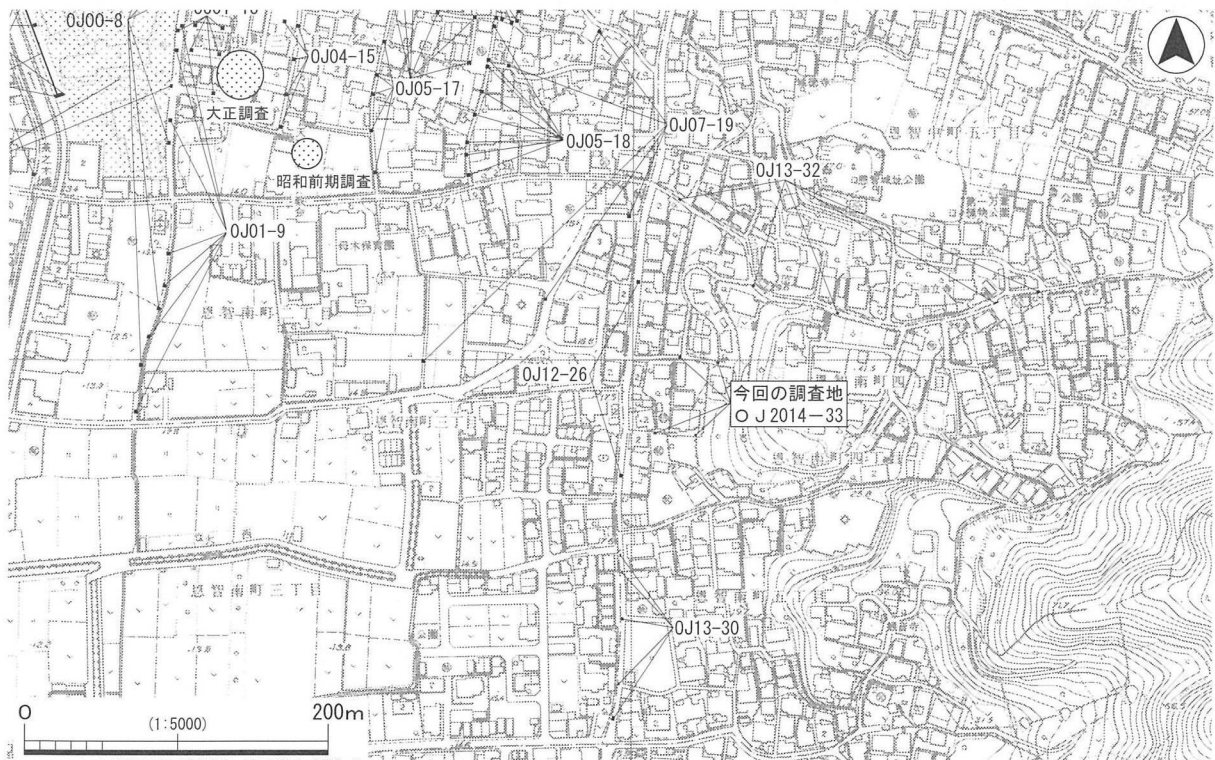
## IV 恩智遺跡第33次調査 (O J 2014 - 33)

### 1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓に形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡については、古くは大正6(1917)年の梅原末治・島田貞彦両氏による踏査と鳥居龍蔵氏による試掘調査、昭和14(1939)年の大阪府の事業に伴う藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告等がある。そして昭和50～53年(1975～1978)には恩智川改修工事に伴う大規模な調査が瓜生堂遺跡調査会により行われ、以降、八尾市教育委員会・当研究会により多次にわたる調査が実施されている。これらの調査により当遺跡は縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として認識されており、特に弥生時代には集落規模が拡大し、地域の中心的な役割を果たした大規模な集落であったことが推定されている。

今回の調査地は遺跡範囲の南東部にあたり、周辺では北部で第32次調査(OJ2013-32)、西部で第19次調査(OJ2007-19)、北西部で第31次調査(OJ2013-31)、南西部で第26次調査(OJ2012-26)を実施している。概観すると、第32次調査では近世の洪水層や扇状地性堆積、第19次調査では古墳時代前期～中期の土壌化層や近世の遺構を検出した。第31次調査では遺物包含層から縄文時代後期、弥生時代中期、中世の遺物が出土している。第26次調査では岩盤層や河川堆積を確認した。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

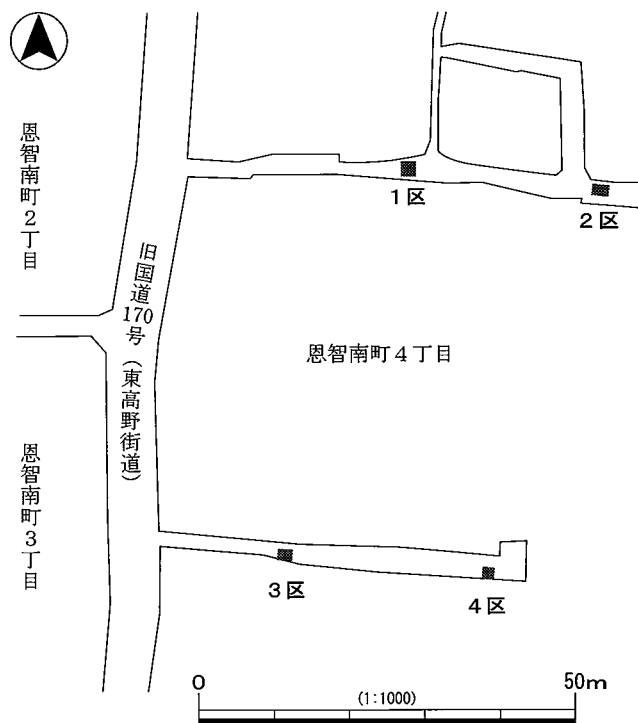
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智南町4丁目地内で実施された下水道工事(25-35工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第33次調査(OJ2014-33)である。

調査地は、八尾市東部を縦断する旧国道170号(東高野街道)東側に所在し、南北朝時代の山城である恩智城跡南方の東西道路上に位置する。急峻な地形にあたり、標高差は約7mを測る。調査対象は人孔部分4箇所(北西から1～4区)で、調査面積は約13㎡である。

調査は、工事掘削深度である現地表(約T.P.+18.5～25.2m)下1.7～2.7まで機械・人力掘削併用で実施した。

調査では、調査地に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

#### 1区

0層は盛土・攪乱。1～5層はシルト基調の水成層である。3・4層では巨礫の包蔵が認められた。遺構・遺物なし。

#### 2区

0層は盛土・攪乱。1～4層は粘土～シルト基調の水成層である。4層では巨礫の包蔵が認められた。遺構・遺物なし。

#### 3区

0層は盛土・攪乱。1・2層は地山層で、2層は岩盤層である。遺構・遺物なし。

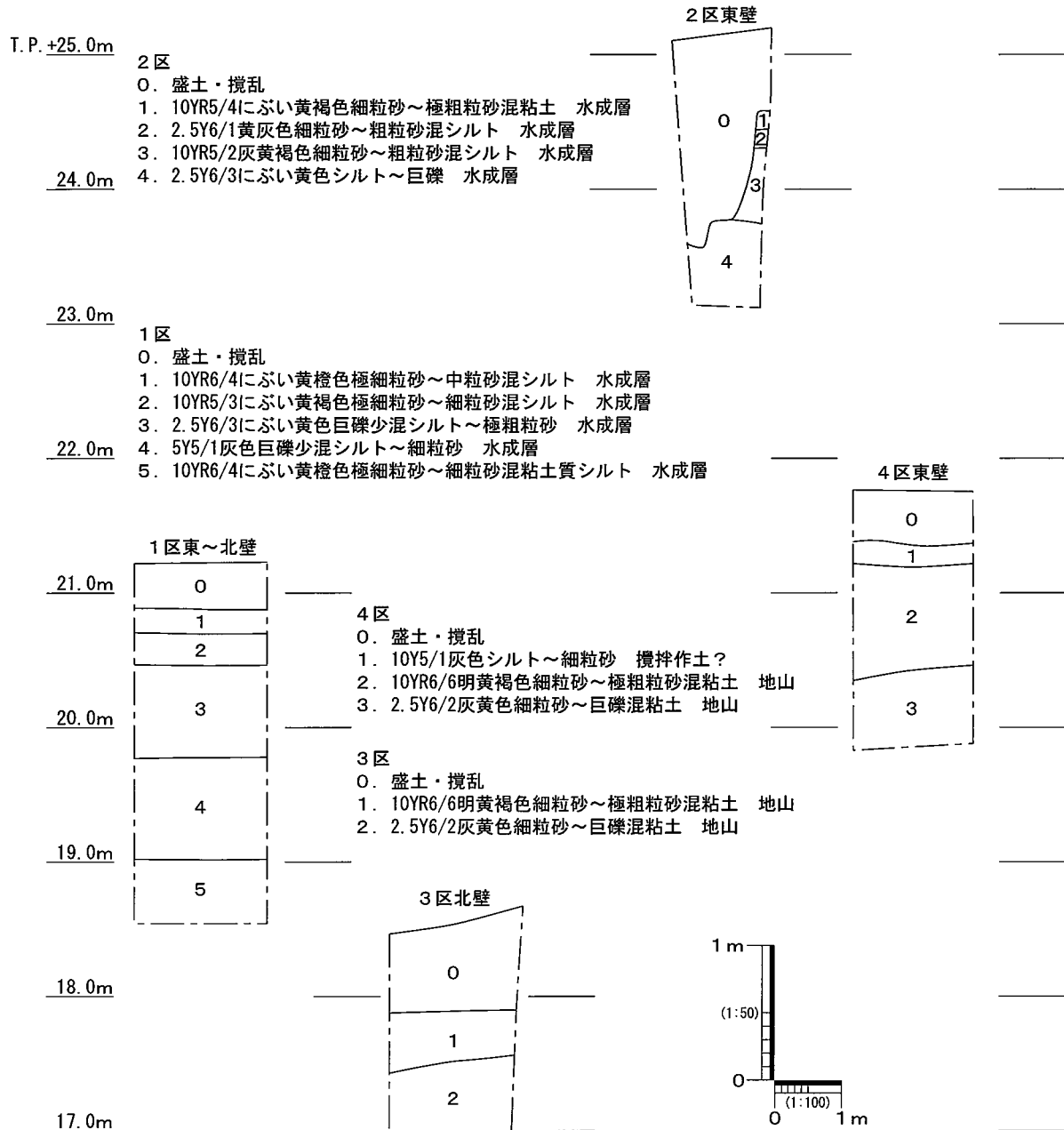
#### 4区

0層は盛土・攪乱。1層は作土の可能性はあるが、時期的には近年であろう。2・3層は地山層で、3区1・2層に相当する。遺構・遺物なし。

### 3. まとめ

恩智遺跡では、今回の調査地である旧国道170号(東高野街道)より東側の地域については、これまでほとんど発掘調査は行われておらず、遺跡の様相については不明な点が多い。

北の1・2区では、北部で実施した第32次調査と同様に、扇状地性堆積を確認した。南の3・4区では岩盤層が見られたことから、この付近から北側が谷地形であったことが判明した。



第3図 断面図

参考文献

- ・ 田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・ 米井友美2010「II 恩智遺跡第19次調査(O J 2007-19)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告129』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 坪田真一2014「VI 恩智遺跡第31次調査(O J 2013-31)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告143 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』公益財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 高萩千秋2013「III 恩智遺跡第26次調査(O J 2012-26)、郡川遺跡第13次調査(KR2012-13)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141 下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』公益財団法人八尾市文化財調査研究会



1・2区調査地(東から)



1区全景(東から)



1区北壁



1区北壁下部



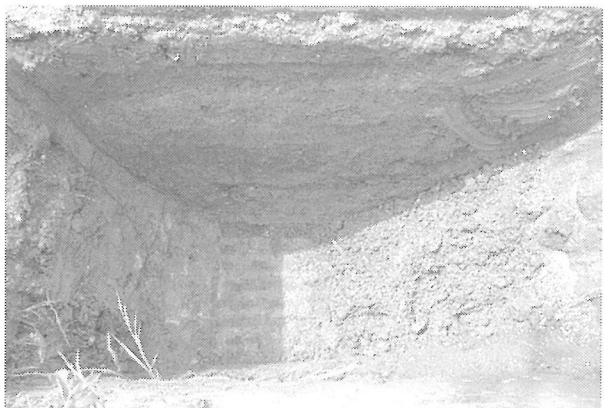
2区機械掘削(東から)



2区全景(北西から)



2区東壁



2区南壁





3区調査地(東から)



3区機械掘削(南から)



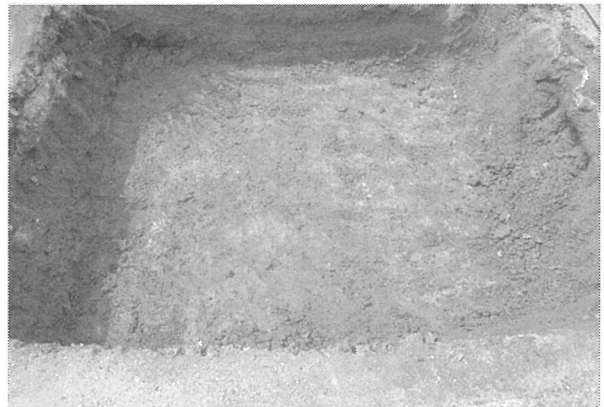
3区全景(南から)



3区北壁



4区調査地(北東から)



4区2層上面(北から)



4区全景(南から)



4区東壁



V 恩智遺跡第34次調査(O J 2014-34)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智北町二丁目地内で実施した下水道工事(25-8工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第34次調査(OJ2014-34)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年7月22日・8月4日(外業実働2日)に、原田昌則・坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約8㎡である。
1. 現地調査においては飯塚直世・伊藤静江・國津玲子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
  - 遺物実測-飯塚
  - 遺物トレース-市森千恵子
  - その他-坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	29
2. 調査概要	30
1) 調査の方法と経過	30
2) 基本層序と出土遺物	30
3. まとめ	31



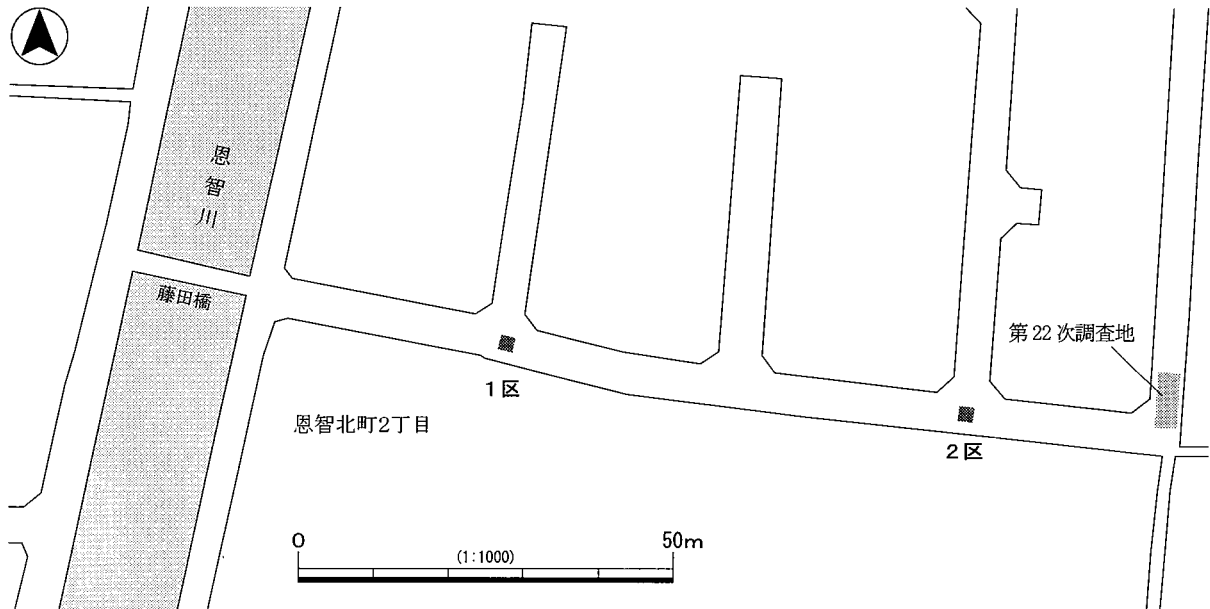
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智北町二丁目地内で実施された下水道工事(25-8工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第34次調査(OJ2014-34)である。

調査対象は人孔部分2箇所(西から1・2区)で、調査面積は約8㎡である。

調査は工事掘削深度である現地表(約T.P.+12.0~12.2m)下約2.8mまで機械・人力掘削併用で実施した。調査では、調査地に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

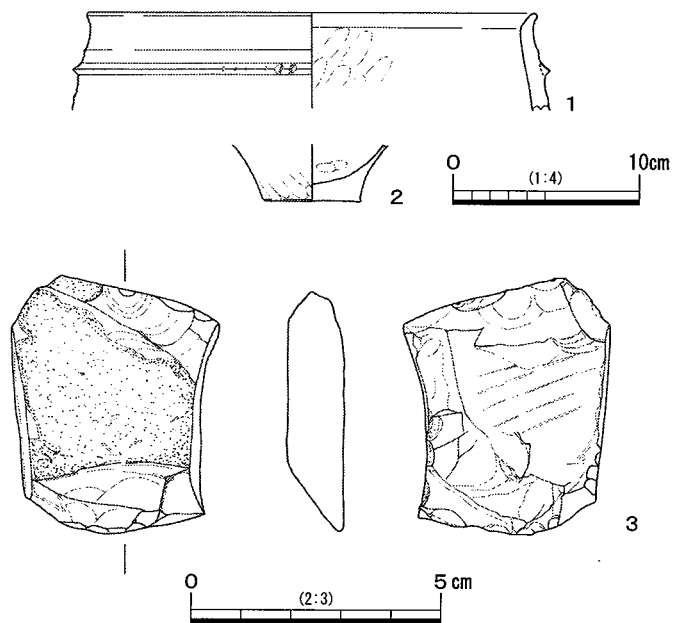


第2図 調査区位置図

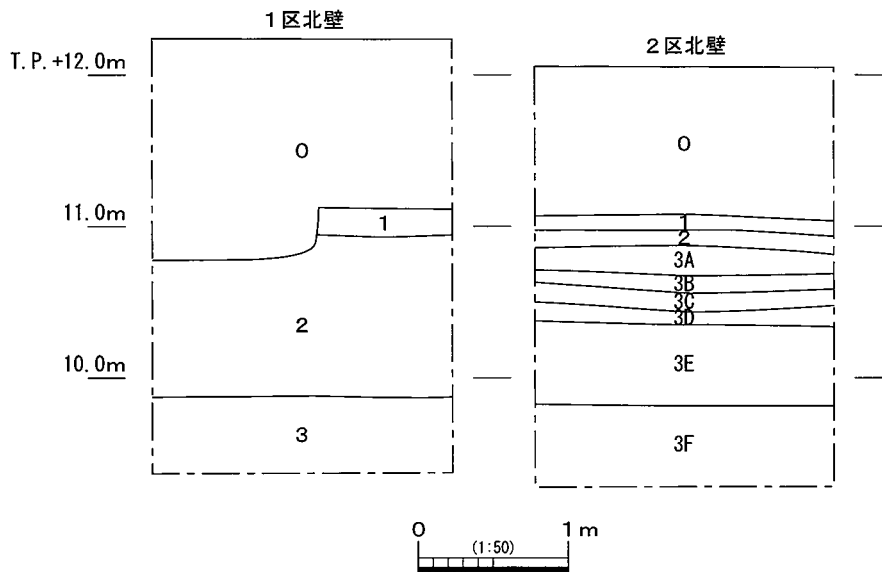
### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

0層は盛土・攪乱。1層は旧耕土である。2層は細粒砂～極粗粒砂の互層状の水成層で、河川堆積である。3層も水成層で、湿地性堆積である。遺物は2層から弥生土器、須恵器、石器が出土しており、1~3を図化した。1は弥生土器甕で、口縁部は短く外反し、口縁部下方には刻み目を施した貼付け突帯を巡らせる。前期に比定される。2は弥生土器甕の底部で、中期末頃に比定されよう。3はサヌカイト製の石器で、楔形石器に分類されよう。下辺に調整剥離を施しており、刃の潰れが顕著に認められる。



第3図 出土遺物



- 1区**
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 5GY4/1暗オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂混シルト 旧耕土
  - 2. 10YR5/3にぶい黄褐色細礫～中礫混極細粒砂～極粗粒砂 水成層
  - 3. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色細粒砂混シルト質粘土 水成層
- 2区**
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 7.5GY8/1明緑灰色砂質シルト 旧耕土
  - 2. 5Y7/2灰白色中粒砂混砂質シルト 土壤化層 水成層
  - 3A. 5Y8/1灰白色細粒砂～粗粒砂 Fe斑 水成層
  - 3B. 5Y7/1灰白色中粒砂～極粗粒砂 Fe斑 水成層
  - 3C. 7.5GY7/1明緑灰色中粒砂～粗粒砂 水成層
  - 3D. 7.5GY6/1緑灰色中粒砂～粗粒砂 水成層
  - 3E. 5GY8/1灰白色中粒砂～粗粒砂 Fe斑 水成層
  - 3F. 10Y8/1灰白色細粒砂～中粒砂 水成層

第4図 基本層序

**2区**

0層は盛土・攪乱。1層は旧耕土である。2層は土壤化層で、3層の土壤化部分と捉えられる。3層は細粒砂～極粗粒砂の互層状の水成層で、河川堆積である。1区2層に相当する。

**3. まとめ**

調査では、1区で1.0m、2区では1.6m以上の層厚を測る河川堆積を確認した。1区では弥生時代中期～古墳時代後期頃の土器が出土しており、この河川の時期や規模等を知る上で重要な成果が得られた。

東部の第22次調査地ではT.P. +9.4mで弥生時代中期の遺物包含層を確認し、T.P. +8.8m付近が該期の生活面となる可能性が指摘されている。本調査では掘削深度が当該レベルに達しておらず詳細は不明である。

**参考文献**

- ・ 田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・ 坪田真一2012「Ⅲ 恩智遺跡第22次調査(O J 2010-22)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会

図版 1



調査地(西から)



1区機械掘削(北から)



1区北壁



1区北壁下層



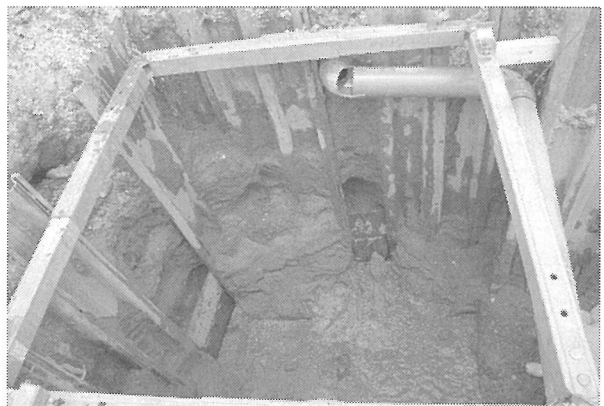
1区全景(西から)



2区調査地(東から)



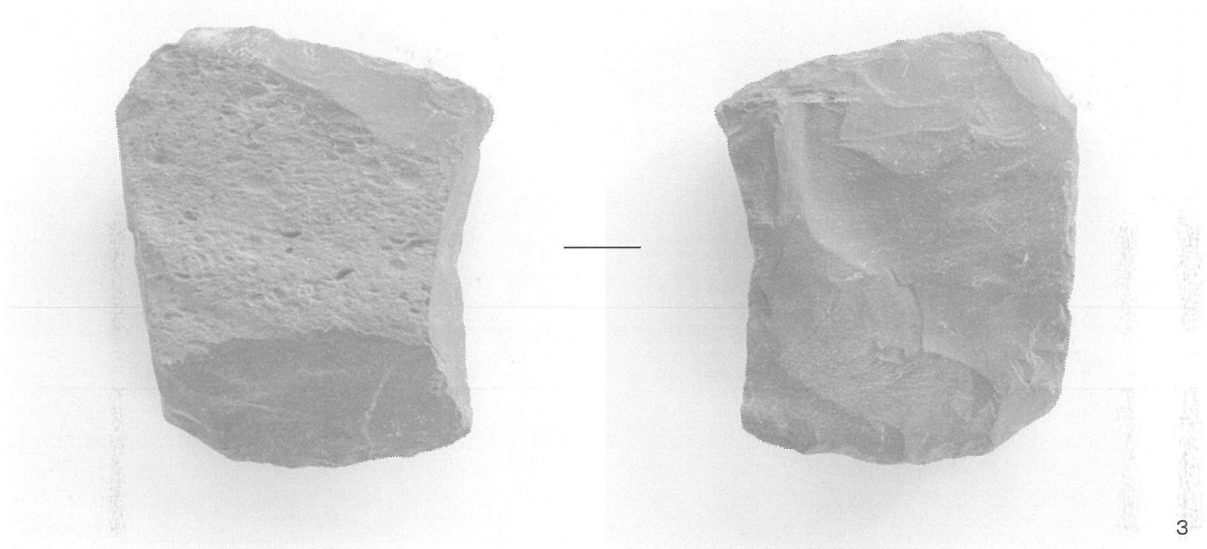
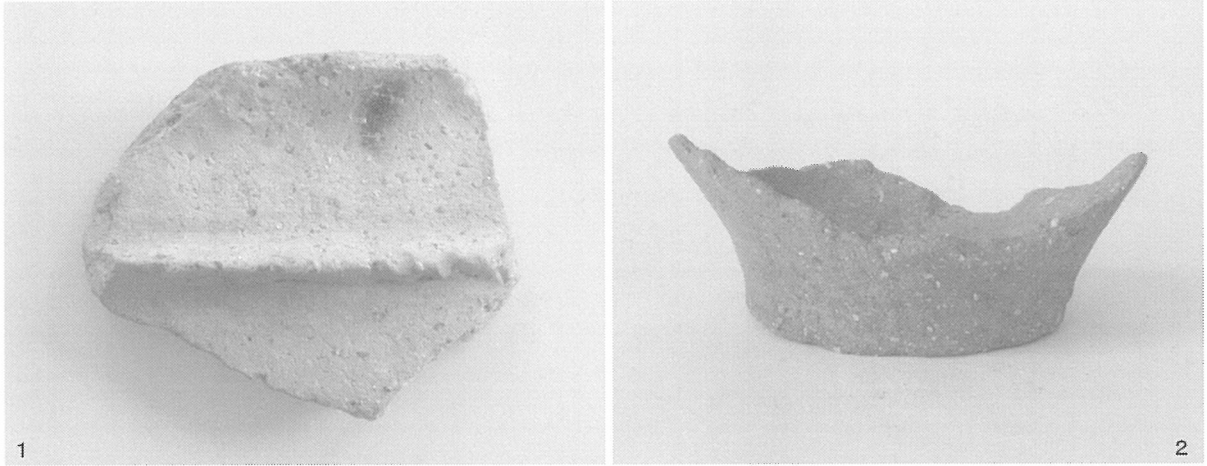
2区北壁



2区北壁下層



図版  
2





VI 恩智遺跡第35次調査(O J 2014-35)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智北町二丁目地内で実施した下水道工事(25-40工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第35次調査(O J 2014-35)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年7月23日～7月25日(外業実働3日)に、原田昌則・坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約40m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては飯塚直世・伊藤静江・右松浩子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。  
遺物実測－竹田貴子  
遺物トレース－市森千恵子  
その他－坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	35
2. 調査概要	36
1) 調査の方法と経過	36
2) 基本層序と出土遺物	36
3. まとめ	36



## 2. 調査概要

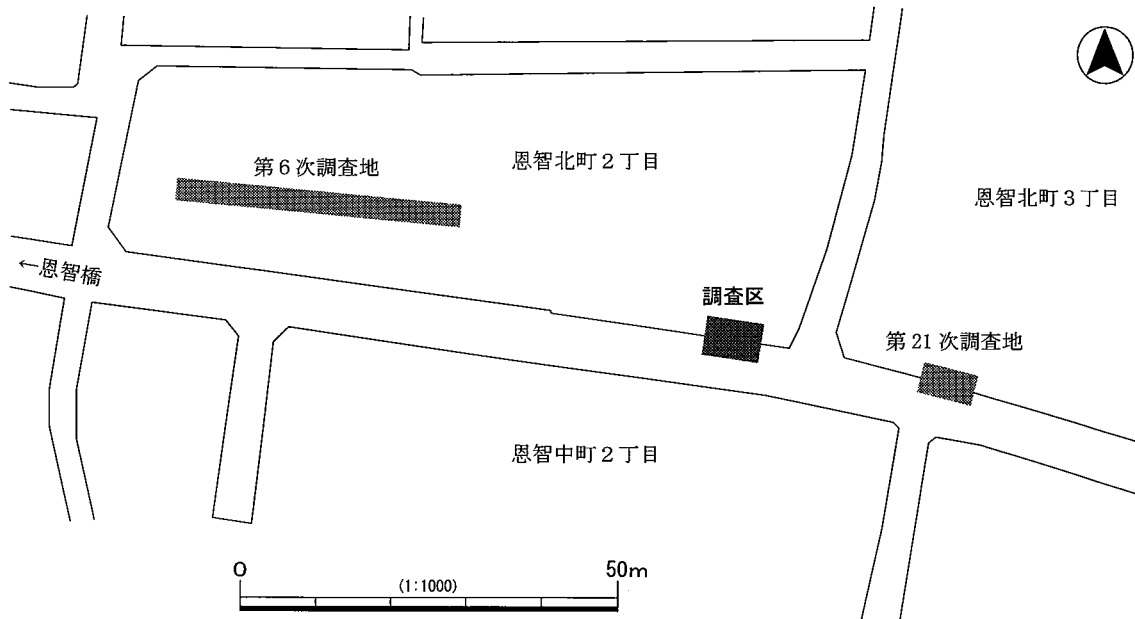
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智北町二丁目地内で実施された下水道工事(25-40工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第35次調査(O J 2014-35)である。

調査対象は立坑部分 1箇所(東西約7.6m×南北約5.2m)で、調査面積は約40㎡である。

調査は現地表(約T.P. +15.3m)下約3.6mまで機械・人力掘削併用で実施した。

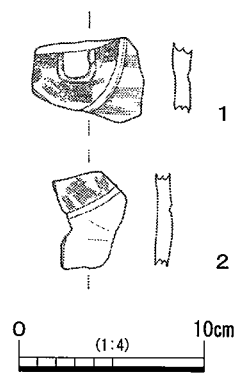
調査では、工事使用の仮ベンチマーク(KBM.3 : T.P. +15.613m)を標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序と出土遺物

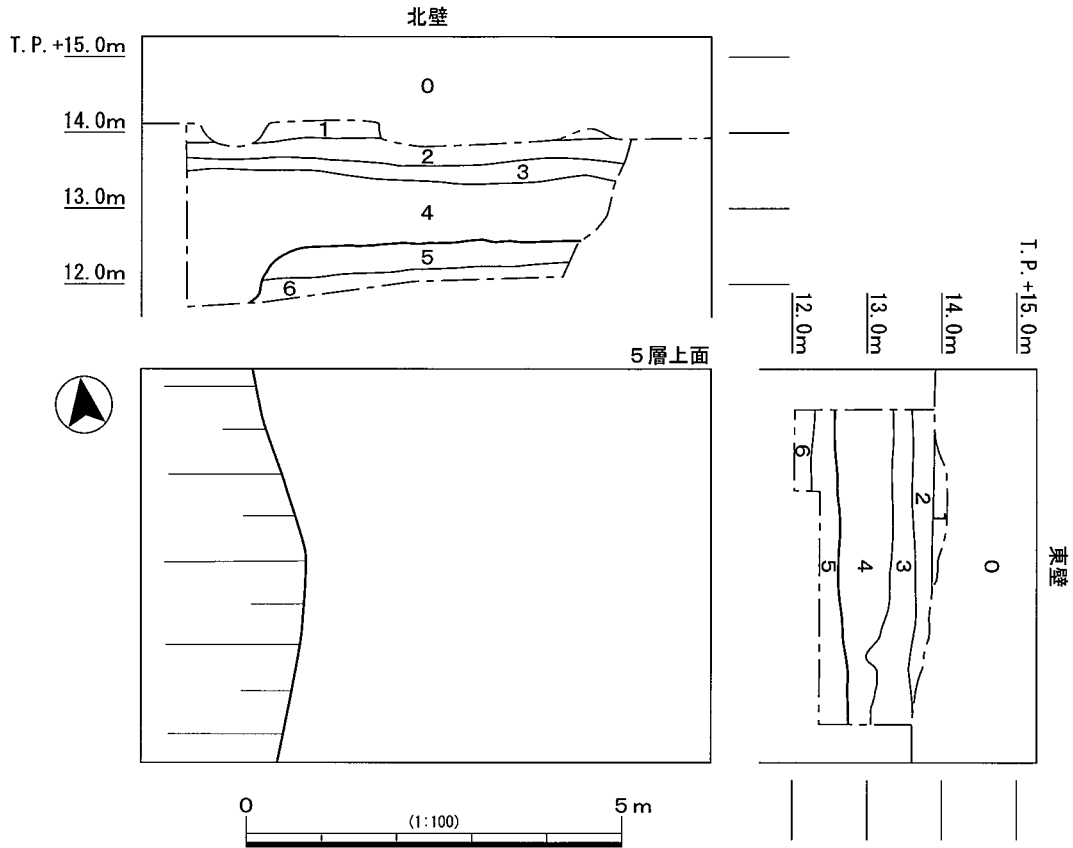
0層は盛土・攪乱。1層は攪拌された作土である。時期は近世であろう。2・3層は土壌化層で、作土の可能性はある。4層は細粒砂～細礫の互層からなる水成層で、河川堆積である。西部では5層上面で南北方向の肩から西に落ち込んでおり、河川の方角を示すものと捉えられる。4層からは縄文時代後期～弥生時代の土器が少量出土しており、縄文土器(1・2)を図化した。共に深鉢と考えられ、凹線文で区画された器壁に磨消縄文を施すもので、後期前葉の中津式に比定される。5・6層は細粒砂～極粗粒砂混粘土からなる扇状地性堆積で、固く締まる。



第3図 出土遺物

### 3. まとめ

調査では近世の作土、及び扇状地性堆積や河川堆積といった自然堆積層を確認した。自然河川については南北方向を示す東肩を検出しており、西部の第6次調査地東部や北部の第22次調査で確認されている河川堆積に続く可能性がある。



- 0. 盛土・攪乱
- 1. 2. 5Y4/2暗灰黄色細粒砂～極粗粒砂混粘土質シルト 攪拌作土
- 2. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂～中粒砂粘土質シルト 土壌化層
- 3. 10YR5/2灰黄褐色細粒砂～極粗粒砂混粘土質シルト 土壌化層
- 4. 7. 5YR5/2灰褐色細粒砂～細礫互層 水成層
- 5. 7. 5YR3/1黒褐色細粒砂～極粗粒砂混粘土 水成層
- 6. 2. 5Y3/1黒褐色細粒砂混粘土 水成層

第4図 平断面図

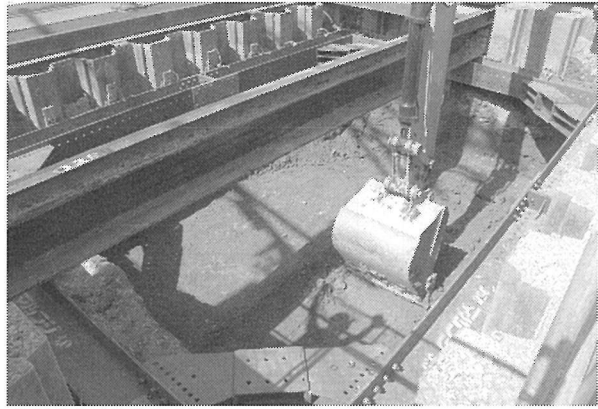
参考文献

- ・ 田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・ 西村公助1992「IV 恩智遺跡第5次調査(O J 91-5)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 八尾市文化財調査研究会報告34』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 原田昌則1992「V 恩智遺跡第6次調査(O J 91-6)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 八尾市文化財調査研究会報告34』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 岡田清一2011「II 恩智遺跡第21次調査(O J 2009-21)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 坪田真一2012「III 恩智遺跡第22次調査(O J 2010-22)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 坪田真一2012「IV 恩智遺跡第23次調査(O J 2011-23)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・ 坪田真一・吉田珠己2010「6」恩智遺跡(2008-230)の調査『八尾市内遺跡平成21年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告61 平成21年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・ 坪田真一2012「5」恩智遺跡(2011-144)の調査『八尾市内遺跡平成23年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告69 平成23年度国庫補助事業』八尾市教育委員会

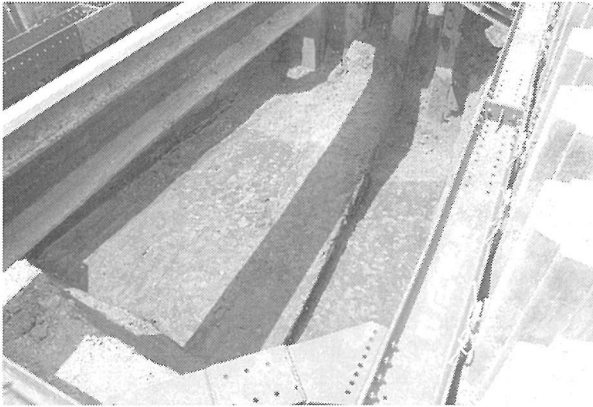
図版  
1



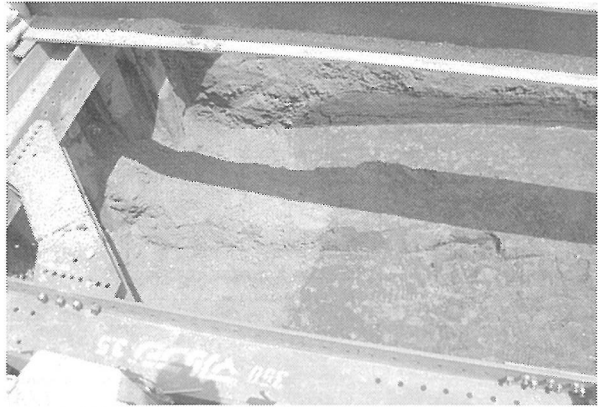
調査地(南西から)



機械掘削(北東から)



5層上面(北東から)



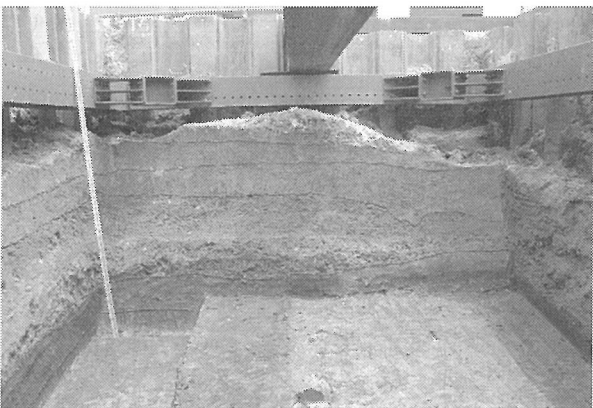
5層上面(南から)



北壁(南西から)



北壁(南東から)

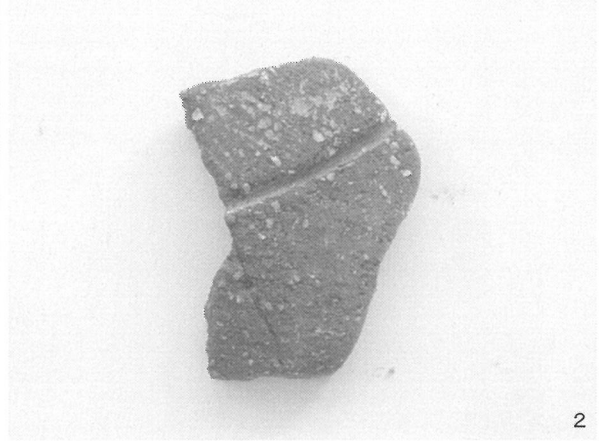


東壁



調査状況(北西から)







VII 恩智遺跡第36次調査(O J 2014-36)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智中町2丁目地内で実施した下水道工事(25-10工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第36次調査(O J 2014-36)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年7月28日～8月22日(外業実働3日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約40㎡である。
1. 現地調査においては飯塚直世・伊藤静江・芝崎和美・右松浩子・村井俊子の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
  - 遺物実測－芝崎
  - 遺物トレース－市森千恵子
  - その他－坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	41
2. 調査概要	42
1) 調査の方法と経過	42
2) 基本層序と出土遺物	42
3. まとめ	44



## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智中町2丁目地内で実施された下水道工事(25-10工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第36次調査(OJ2014-36)である。

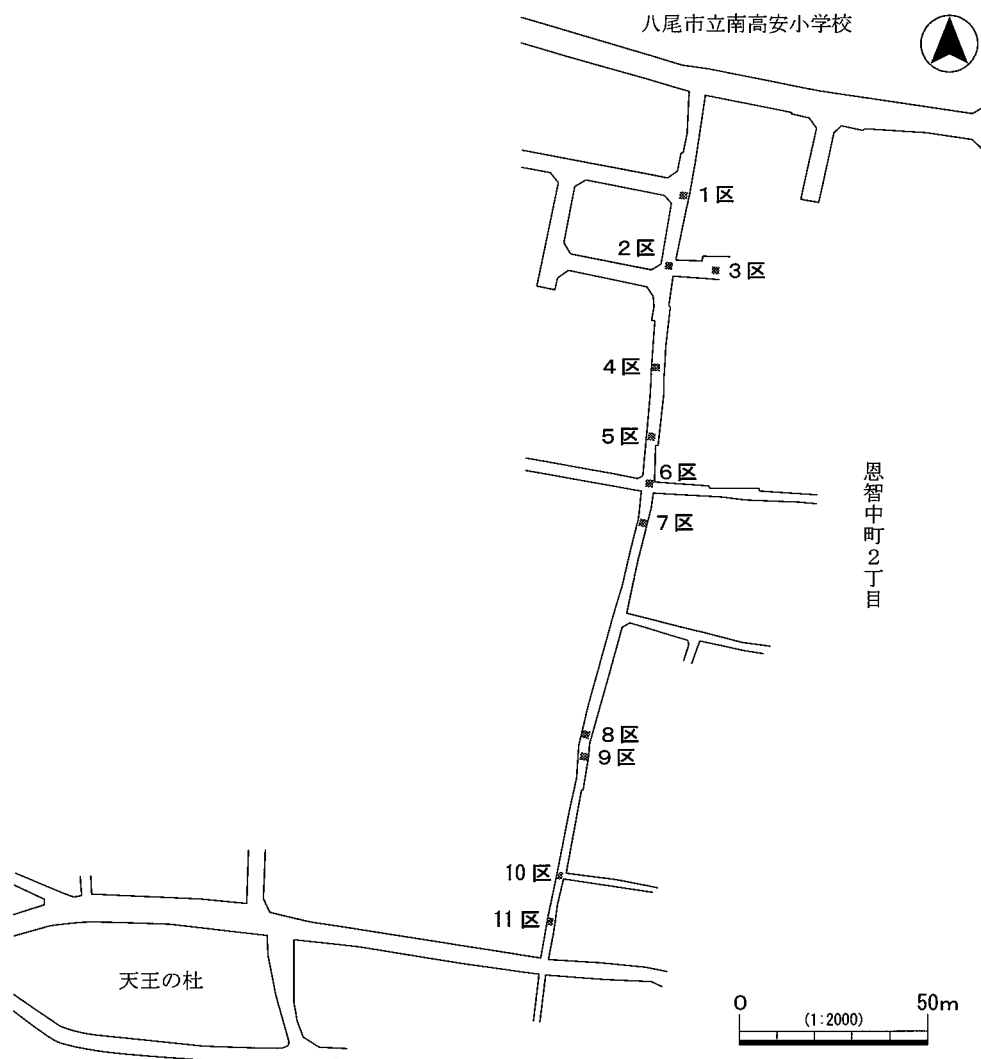
調査対象は道路上に設置される人孔部分11箇所(北から1~11区)で、調査面積は約40㎡を測り、調査範囲は南北約200mに亘る。

調査は工事掘削深度である現地表(約T.P.+17.2~23.0m)下約1.3~2.4mまで機械・人力掘削併用で実施した。調査では、調査地に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

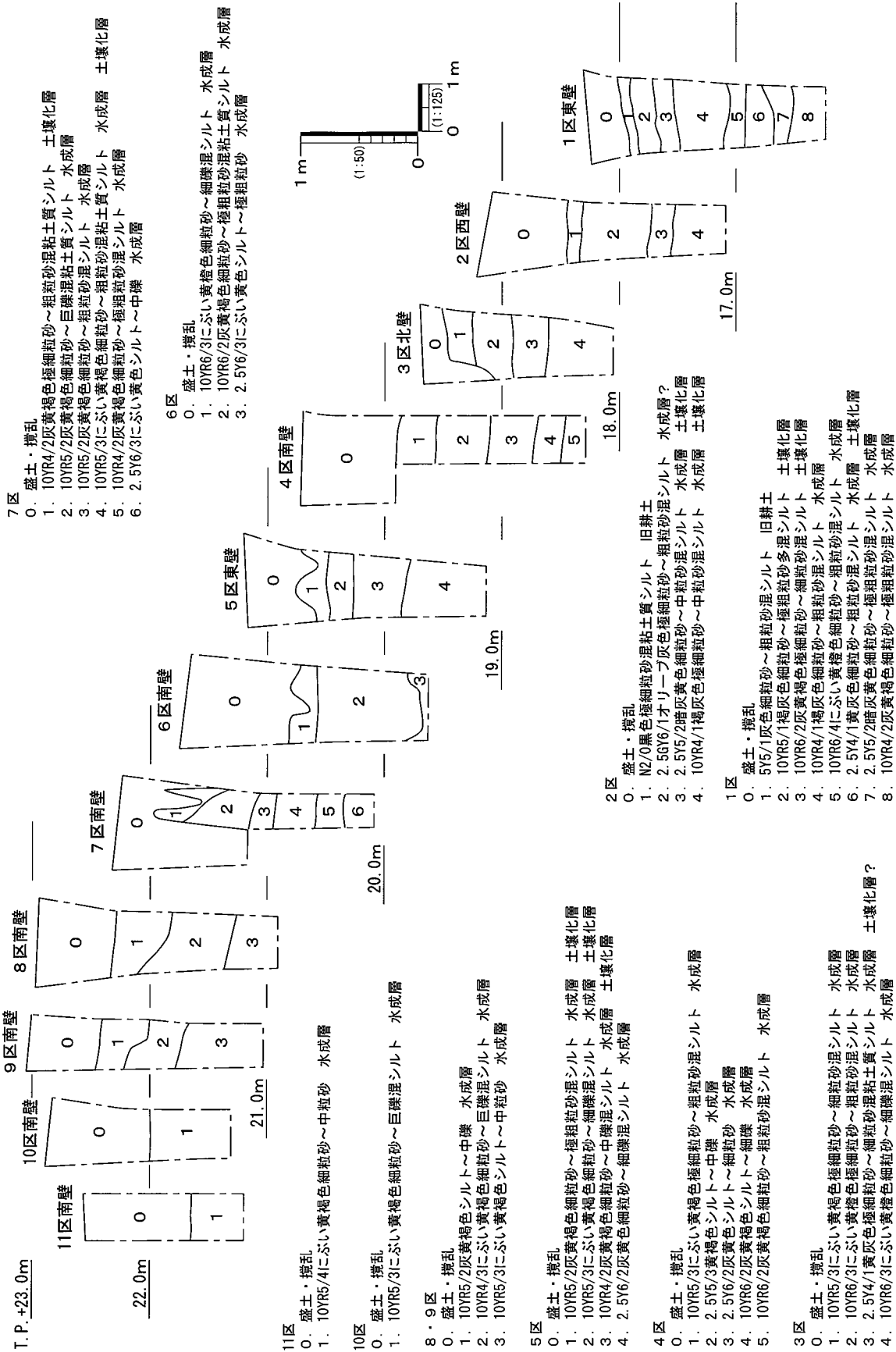
### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

0層は盛土・攪乱。1層は旧耕土である。2・3層は土壌化層である。4・5層は河川堆積である。6層も水成層で、やや土壌化する。7・8層は水成層である。



第2図 調査区位置図



第3図 断面図

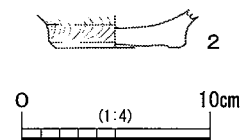
## 2区

0層は盛土・攪乱。1層は旧耕土である。2層は水成層である。3・4層は水成層で、やや土壌化する。1区2・3層に相当すると考えられる。



## 3区

0層は盛土・攪乱。1・2層は水成層である。3層は水成層で、土壌化している可能性がある。4層は水成層である。



第4図 出土遺物

## 4区

0層は盛土・攪乱。1層以下は水成層である。

## 5区

0層は盛土・攪乱。1～3層は水成層で、やや土壌化する。4層は水成層である。

## 6区

0層は盛土・攪乱。1層以下は水成層である。2層から縄文土器、弥生土器、中国製白磁が出土しており、1・2を図化した。1は縄文土器深鉢の口縁部である。調整は横位のナデが認められる。後期～晩期に比定できる。2は中国製白磁碗で、高台脇にヘラケズリ痕が顕著に見られる。12世紀頃に比定される。

## 7区

0層は盛土・攪乱。1層は土壌化層である。2・3層は水成層で、6区1～3層に相当する可能性がある。4層は水成層で、やや土壌化する。5・6層は水成層である。

## 8～11区

0層は盛土・攪乱。1層以下は水成層である。遺物は8区1層から中世頃の須恵器片、平瓦片、9区1層から陶器片、9区3層から中世頃の土師器片が出土した。

## 3. まとめ

5～7区の東約20mで実施した遺構確認調査(恩智遺跡2009-220)では、T. P. +20. 4～21. 1mで縄文時代後期の遺物包含層が検出されている。やや土壌化が認められる5区1～3層、7区4層がこれに相当する可能性があるが、遺構・遺物は認められず詳細は不明である。6区では中世頃以降の扇状地性堆積となっていることから、当該層は削平されているのかもしれない。

南部の8～11区で見られた扇状地性堆積も、出土遺物から中世以降に比定される。この南西部で実施した第18次調査地では、調査地東部を占める自然河川の堆積を検出しているが、それに相当する可能性がある。

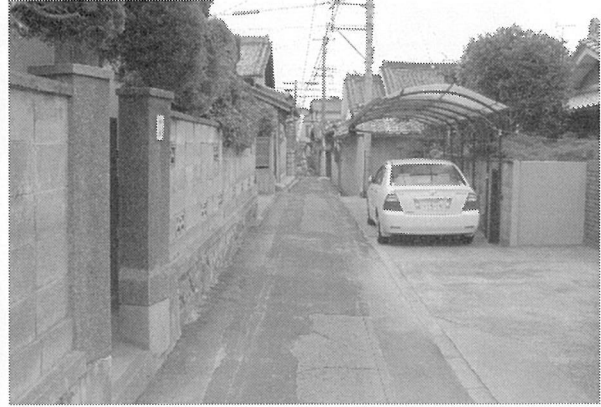
## 参考文献

- ・田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・坪田真一2012「Ⅲ 恩智遺跡第22次調査(O J 2010-22)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2010「恩智遺跡(2009-220)の調査」『八尾市内遺跡平成21年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告61 平成21年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・原田昌則2007「Ⅳ 恩智遺跡第18次調査(O J 2005-18)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告98』財団法人八尾市文化財調査研究会





調査地北部(南から)



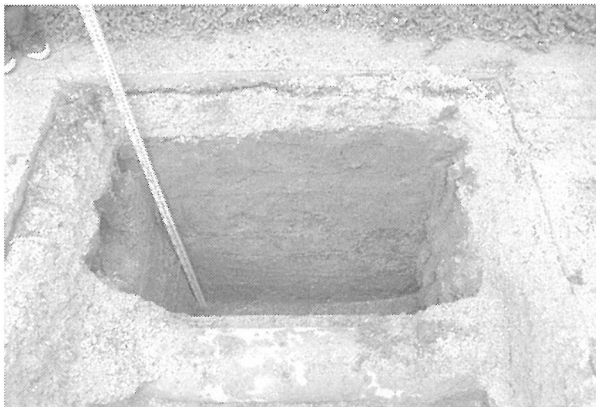
調査地南部(北から)



1区機械掘削(北から)



1区(北から)



1区東壁



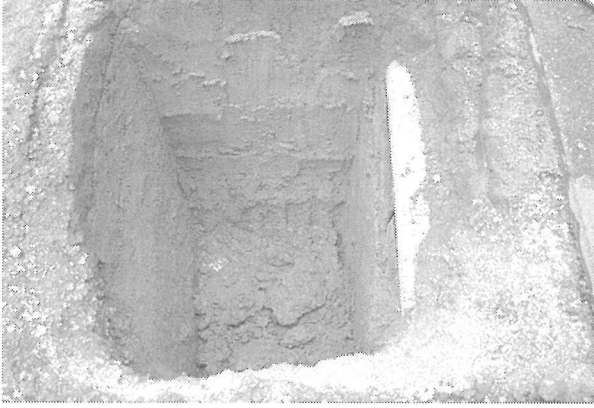
2区機械掘削(南から)



2区(北から)



2区西壁



3区(西から)



3区北壁



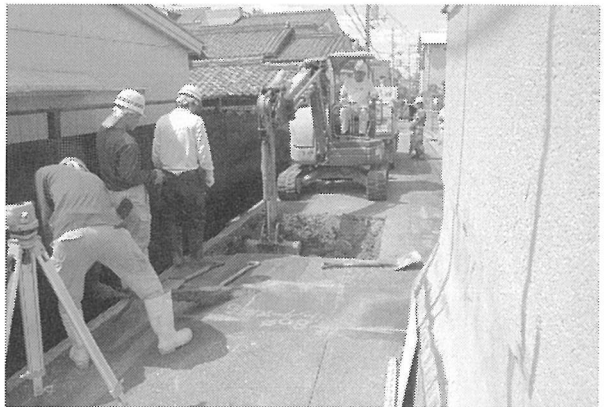
4区掘削状況(南から)



4区(北から)



4区南壁



5区機械掘削(南から)



5区(北から)



5区東壁



6区機械掘削(南西から)



6区(北から)



6区南壁



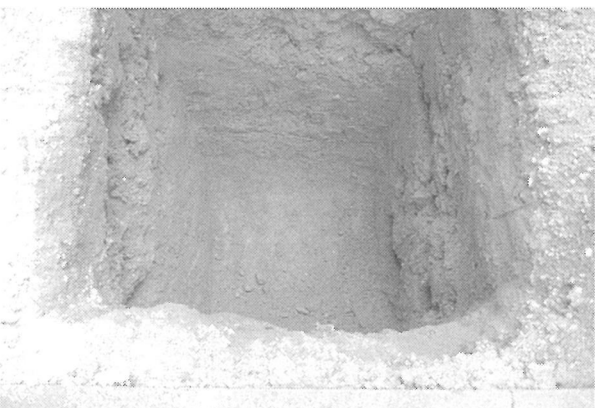
7区機械掘削(南から)



7区南壁



8区機械掘削(南から)



8区(北から)



8区南壁

図版4



9区機械掘削(南から)



9区(北から)



9区南壁



10区掘削状況(南から)



10区南壁



11区機械掘削(北東から)



11区(東から)



11区南壁

VIII 恩智遺跡第38次調査(O J 2014-38)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智北町四丁目地内他で実施した下水道工事(25-33工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第38次調査(O J 2014-38)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年9月26日(外業実働1日)に、大塚 隆を担当者として実施した。調査面積は約8㎡である。
1. 現地調査においては小野聡美・國津玲子の参加を得た。
1. 内業整理業務は大塚が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は大塚・坪田が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	49
2. 調査概要	50
1) 調査の方法と経過	50
2) 基本層序	51
3. まとめ	51

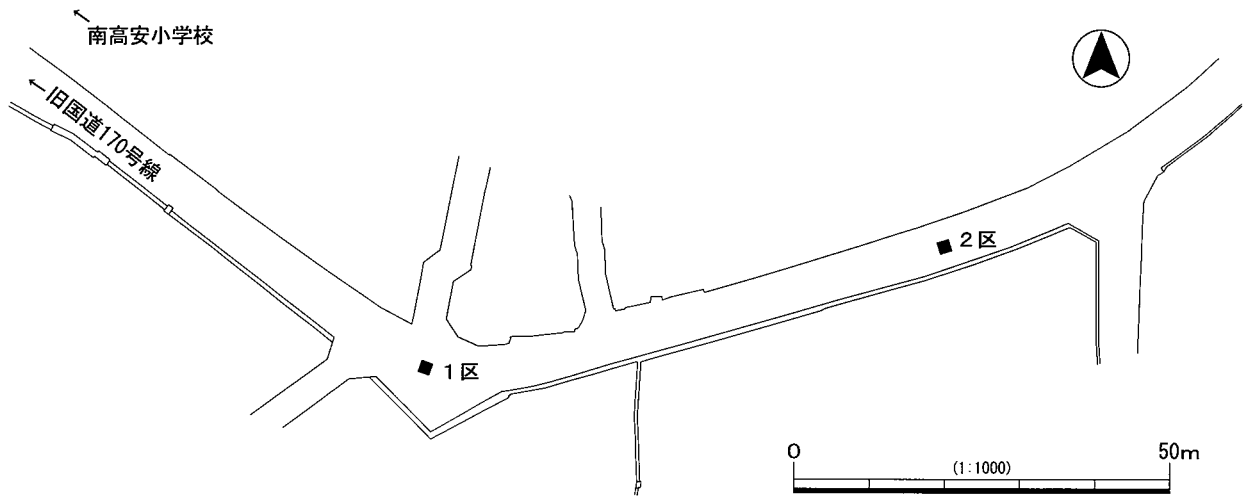


## 2. 調査概要

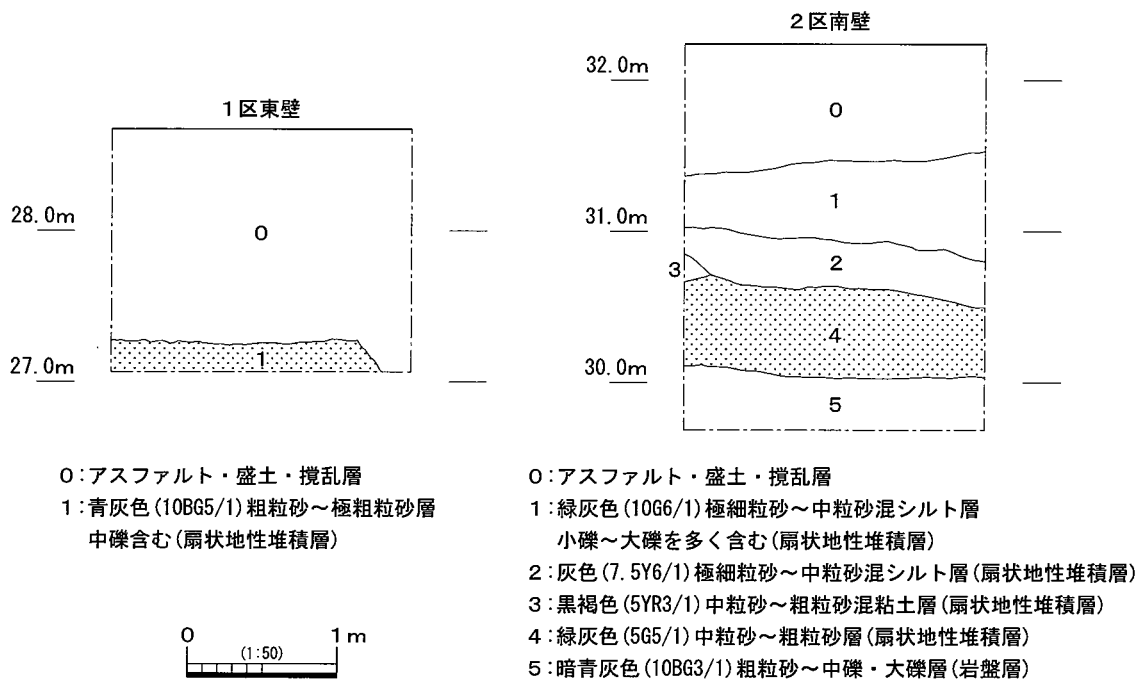
今回の調査は、八尾市恩智北町4丁目地内他で実施された公共下水工事(25-33工区)に伴う調査で、当研究会が恩智遺跡内で行った、第38次調査である。

調査区は、人孔部分(約2.0×2.0m)の2カ所8.0㎡である。西を1区、東を2区とした。

調査は工事掘削深度の現地表(T.P.+28.7~32.3m)下1.7~2.6mまでについて、人力・機械を併用して実施した。調査区の標高は、下水工事用の仮ベンチマークを使用した。



第2図 調査区位置図



第3図 断面図



## 2) 基本層序

1区一上部は既設管路により現地表下1.4mまで攪乱されている。0層(T.P.+27.05~27.3m)は、アスファルト・盛土・攪乱層である。1層(T.P.+27.05m)は河川堆積層である。青灰色(10BG5/1)粗~極粗粒砂で中礫等を多く含む。

2区一上部は既設管路により現地表下0.9mまで攪乱されている。0層(T.P.+31.4~32.3m)は、アスファルト・盛土・攪乱層である。以下岩盤層に至るまでの約1.3m間に、4層の水成層を確認した。1~3層は、湿地性堆積層である。(1層:T.P.+29.8~31.4m・緑灰色(10G6/1)中~極細粒砂混シルトで少~大礫を多く含む 2層:T.P.+30.5~31.0m・灰色(7.5Y6/1)中~極細粒砂混シルト 3層:T.P.+30.7~30.9m・黒褐色(5YR3/1)中~粗粒砂混粘土) 4層(T.P.+30.1~30.7m・緑灰色(5G5/1)中~粗粒砂)は、河川堆積層である。5層(T.P.+30.1m以下・暗青灰色(10BG3/1)粗粒砂~中礫)は、岩盤層である。

## 3. まとめ

今回の調査は、旧国道170号(東高野街道)より東側へ延びる道路(傾斜地)上である。堆積層中にも大礫が多く混じるなど特徴的である。よって、調査地は扇状地地形の中にある東から西に延びる谷筋と考えられる。

### 参考文献

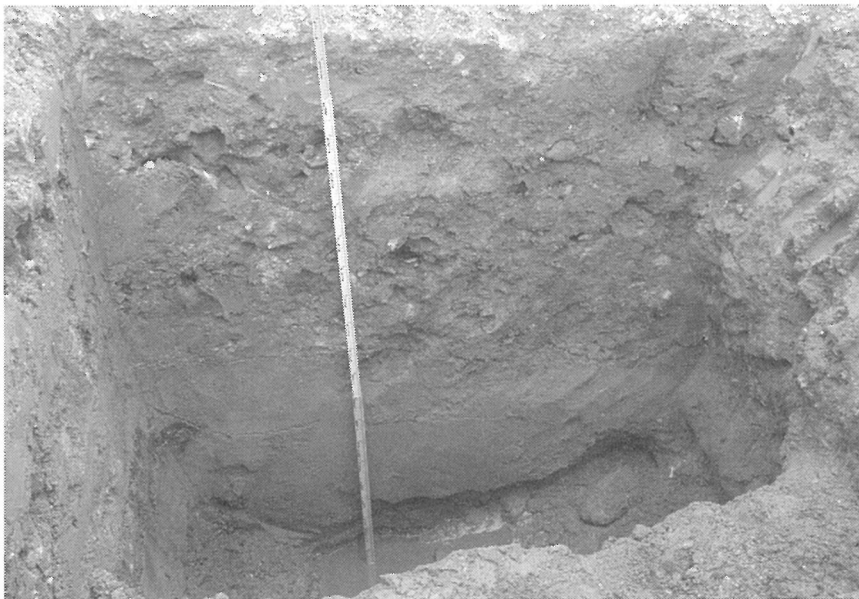
- ・田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・坪田真一2014「Ⅲ 恩智遺跡第25次調査(O J 2011-25)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告145』財団法人八尾市文化財調査研究会



1区 東壁



1区 作業風景(東から)



2区 南壁  
(T. P. +30.0~32.0m)

IX 恩智遺跡第39次調査(O J 2014-39)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市恩智北町二丁目地内他で実施した下水道工事(25-9工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する恩智遺跡第39次調査(OJ2014-39)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年10月10日(外業実働1日)に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約4㎡である。
1. 現地調査においては國津玲子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	53
2. 調査概要	54
1) 調査の方法と経過	54
2) 基本層序と出土遺物	54
3. まとめ	55

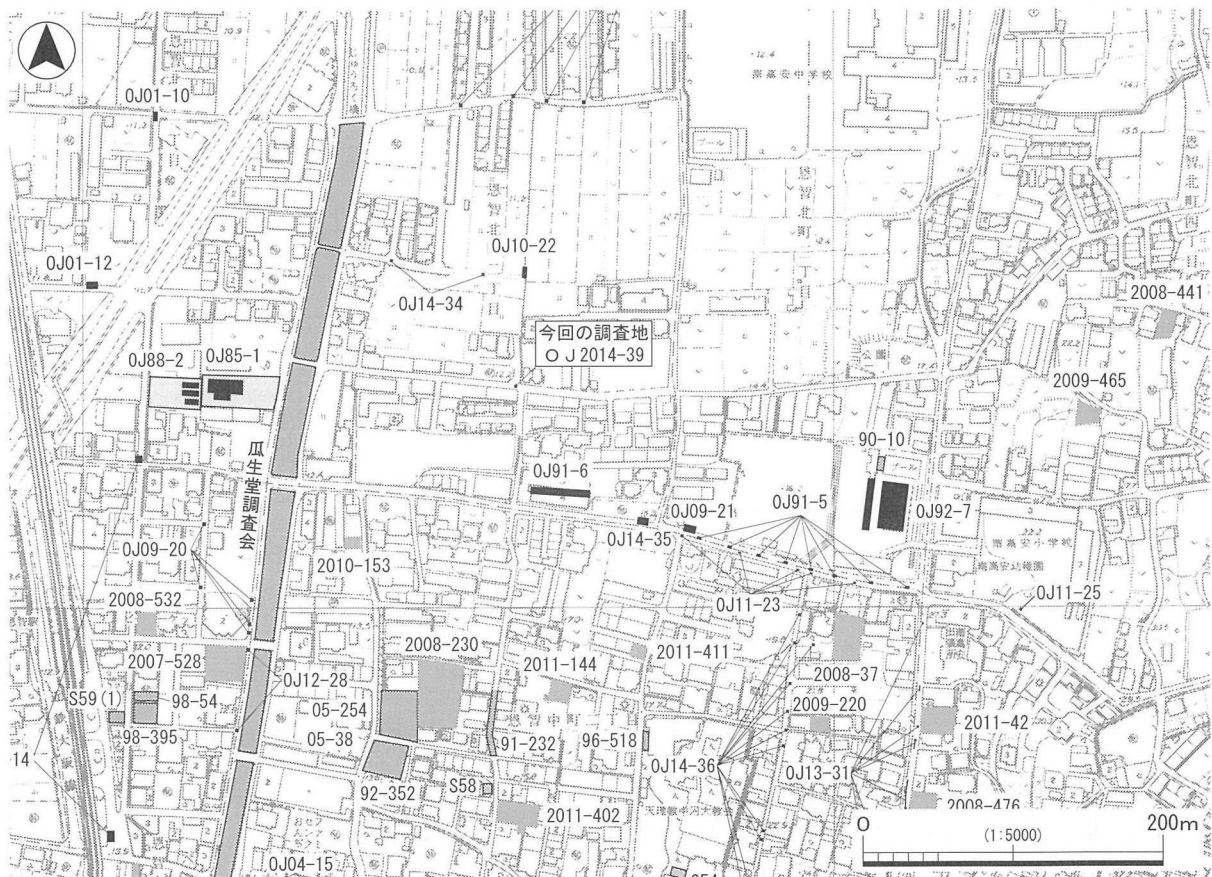
## IX 恩智遺跡第39次調査(○J 2014-39)

### 1. はじめに

恩智遺跡は、八尾市南東部に位置する旧石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、恩智北町1～4丁目、恩智中町1～5丁目、恩智南町1～5丁目にあたり、南北約1.0km、東西約1.2kmがその範囲とされる。地理的には生駒山地西麓に形成された扇状地から低地部にかけて広がっており、周辺では、北側に郡川遺跡、南側に神宮寺遺跡、西側に玉串川を挟んで東弓削遺跡が存在する。

本遺跡については、古くは大正6(1917)年の梅原末治・島田貞彦両氏による踏査と鳥居龍蔵氏による試掘調査、昭和14(1939)年の大阪府の事業に伴う藤岡謙二郎氏の発掘調査、昭和23年(1948)の今里幾次氏による出土遺物の報告等がある。そして昭和50～53年(1975～1978)には恩智川改修工事に伴う大規模な調査が瓜生堂遺跡調査会により行われ、以降、八尾市教育委員会・当研究会により多次にわたる調査が実施されている。これらの調査により当遺跡は縄文時代～弥生時代を中心とした遺跡として認識されており、特に弥生時代には集落規模が拡大し、地域の中心的な役割を果たした大規模な集落であったことが推定されている。

今回の調査地は遺跡範囲の北部にあたり、周辺では北部で前述の恩智川改修工事に伴う調査、西部で第22次調査、第34次調査(本書V)を実施している。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市恩智北町二丁目地内他で実施された下水道工事(25-9工区)に伴う調査で、当調査研究会が恩智遺跡内で行った第39次調査(OJ2014-39)である。

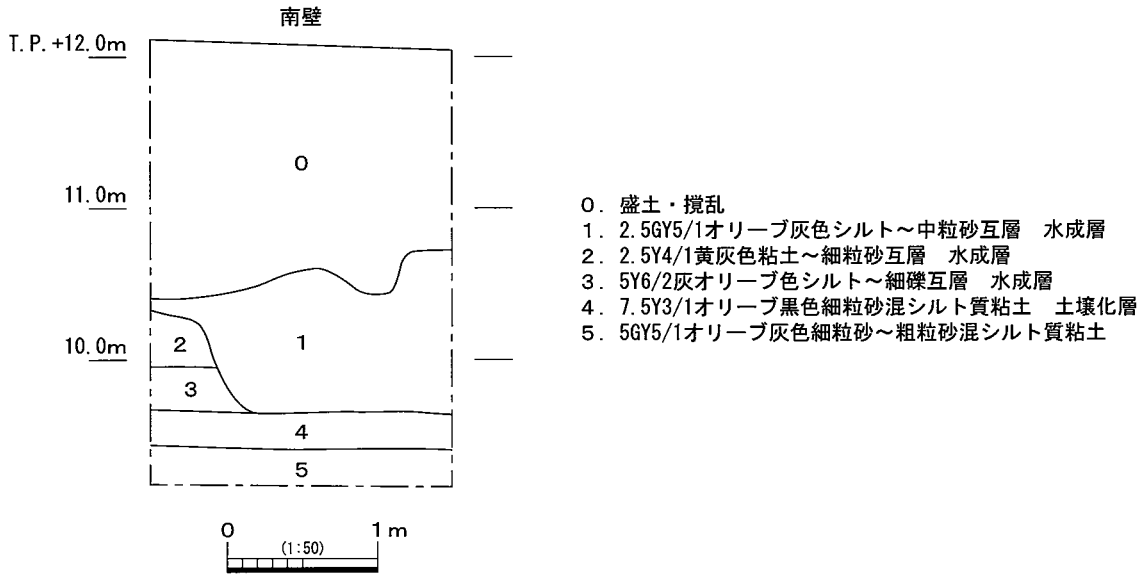
調査対象は人孔部分1箇所、調査面積は約4㎡である。

調査は工事掘削深度である現地表(約T.P.+12.1m)下約2.9mまで機械・人力掘削併用で実施した。調査では工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。



### 2) 基本層序と出土遺物

0層は盛土・攪乱。1～3層は粘土～細礫の互層状を呈する水成層で、河川堆積である。4層は暗色を呈し、5層の土壌化部分と考えられる。摩耗した土器の小片が1点出土しており、弥生あるいは縄文土器と考えられる。5層は粘土基調の扇状地性堆積である。



第3図 基本層序

### 3. まとめ

調査では1～3層からなる河川堆積を確認した。これは北部の第22次、第34次調査地で確認している河川堆積につながると捉えられ、時期的には古墳時代後期頃以降と考えられる。

第22次調査地ではT.P. +9.4mで弥生時代中期の遺物包含層を確認しているが、当調査の4層がこれに対応する可能性がある。

#### 参考文献

- ・田代克己・他1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
- ・坪田真一2012「Ⅲ 恩智遺跡第22次調査(○J 2010-22)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会

図版  
1



調査地(西から)



機械掘削(北西から)



上部攪乱状況(南西から)



上部北壁



全景(西から)



下部南壁



X 楽音寺遺跡第5次調査(G O 2014-5)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市楽音寺1丁目地内で実施した下水道工事(25-201工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する楽音寺遺跡第5次調査(GO2014-5)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年9月16日～9月17日(外業実働2日)に、大塚 隆を担当者として実施した。調査面積は約22㎡である。
1. 現地調査においては伊藤静江・國津玲子・芝崎和美の参加を得た。
1. 内業整理業務は大塚・坪田真一が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は大塚・坪田が行った。

# 本 文 目 次

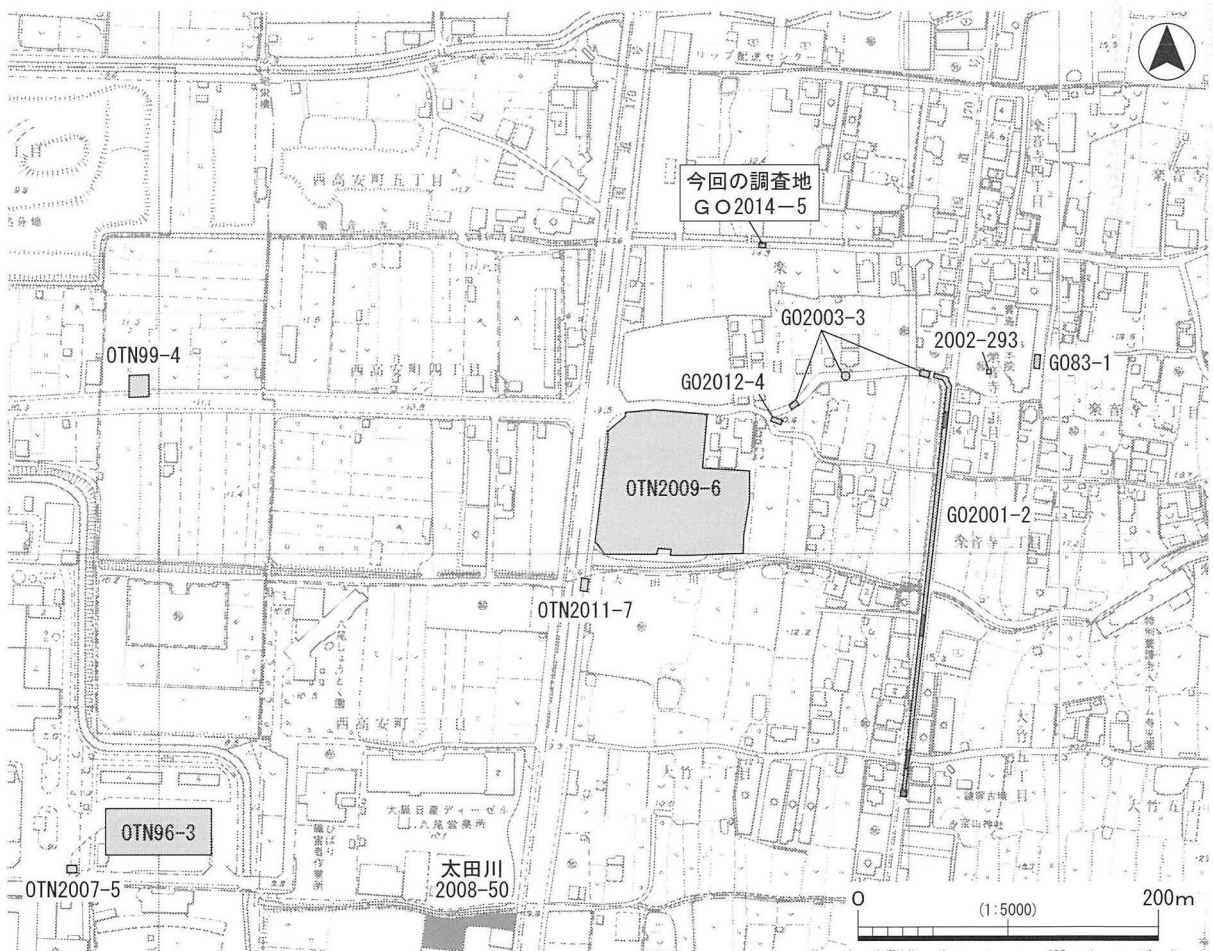
1. はじめに	57
2. 調査概要	58
1) 調査の方法と経過	58
2) 基本層序	58
3. まとめ	58

## X 楽音寺遺跡第5次調査(GO2014-5)

### 1. はじめに

楽音寺遺跡は八尾市の北東部、東大阪市との市境に位置する。現在の行政区画では、楽音寺一・三～五丁目がその範囲である。地形的には生駒山地西麓の扇状地末端に位置する。周辺には、東に楽音寺跡、花岡山遺跡、南に大竹西遺跡が隣接して存在する。当遺跡では、昭和58年以降数次にわたって発掘調査が実施されており、縄文時代後期と平安時代の遺構や古墳時代から鎌倉時代の遺物包含層、弥生時代と中世の地層、縄文時代と平安時代の地層、などが検出または、確認されている。

今回の調査地付近では、南部で過去に数回の調査が行なわれている。当調査研究会第1次調査(G083-1)では、T.P.+4.0m前後で縄文時代後期の落ち込み状遺構を、T.P.+15.85m前後で平安時代の井戸と柱穴を検出している。その西方の遺構確認調査(2002-293)では、縄文時代と平安時代の遺構面に相当する可能性がある地層を、また第3次調査(G02003-3)では近世以前の土壌化層を、さらに南部の第2次調査(G02001-2)では、弥生時代および中世と思われる地層を確認している。一方、南に隣接する大竹西遺跡域においては、第6次調査(OTN2009-6)で弥生時代後期初頭の竪穴住居や井戸からなる居住域を検出している。



第1図 調査地位置図

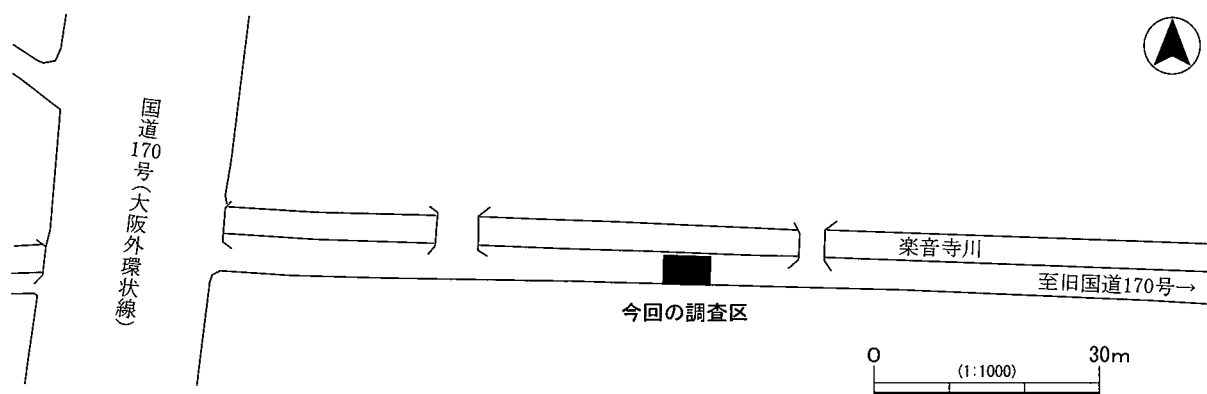
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市楽音寺一丁目地内で実施された公共下水工事(25-201工区)に伴う調査で、当研究会が楽音寺遺跡内で行った、第5次調査である。

調査区は、旧170号線(東高野街道)から西に延びる道路上に設定された人孔部分(約6.0×3.6m)の1カ所、21.6㎡である。

調査は工事掘削深度の現地表(T. P. +13.85m)下4.5mまでについて、人力・機械を併用して実施した。調査区の標高は、下水工事用の仮ベンチマークを使用した。



### 2) 基本層序

上部は既設管路により現地表下0.9～2.3mまで攪乱されている。

0層(T. P. +12.9～13.85m)はアスファルト・盛土・攪乱層。以下岩盤層に至るまでの約2.2m間に、6層の基本層序を確認した。

1層(T. P. +11.6～12.9m：暗青灰色(5B4/1)シルト混粗粒砂層)は河川堆積層である。

2層(T. P. +11.2～11.6m：にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂混粘土層)。

3層(T. P. +11.05～11.2m：黒褐色(7.5Y3/1)中～極細粒砂混シルト層)。

4層(T. P. +10.5～11.05m：灰色(7.5YR7/8)～黄橙色(7.5YR7/8)極粗粒砂～小礫混粘土)。2～4層は湿地性堆積層である。

5層(T. P. +10.4～10.5m：灰黄色(2.5Y6/2)粗～極粗粒砂層)は河川堆積層である。

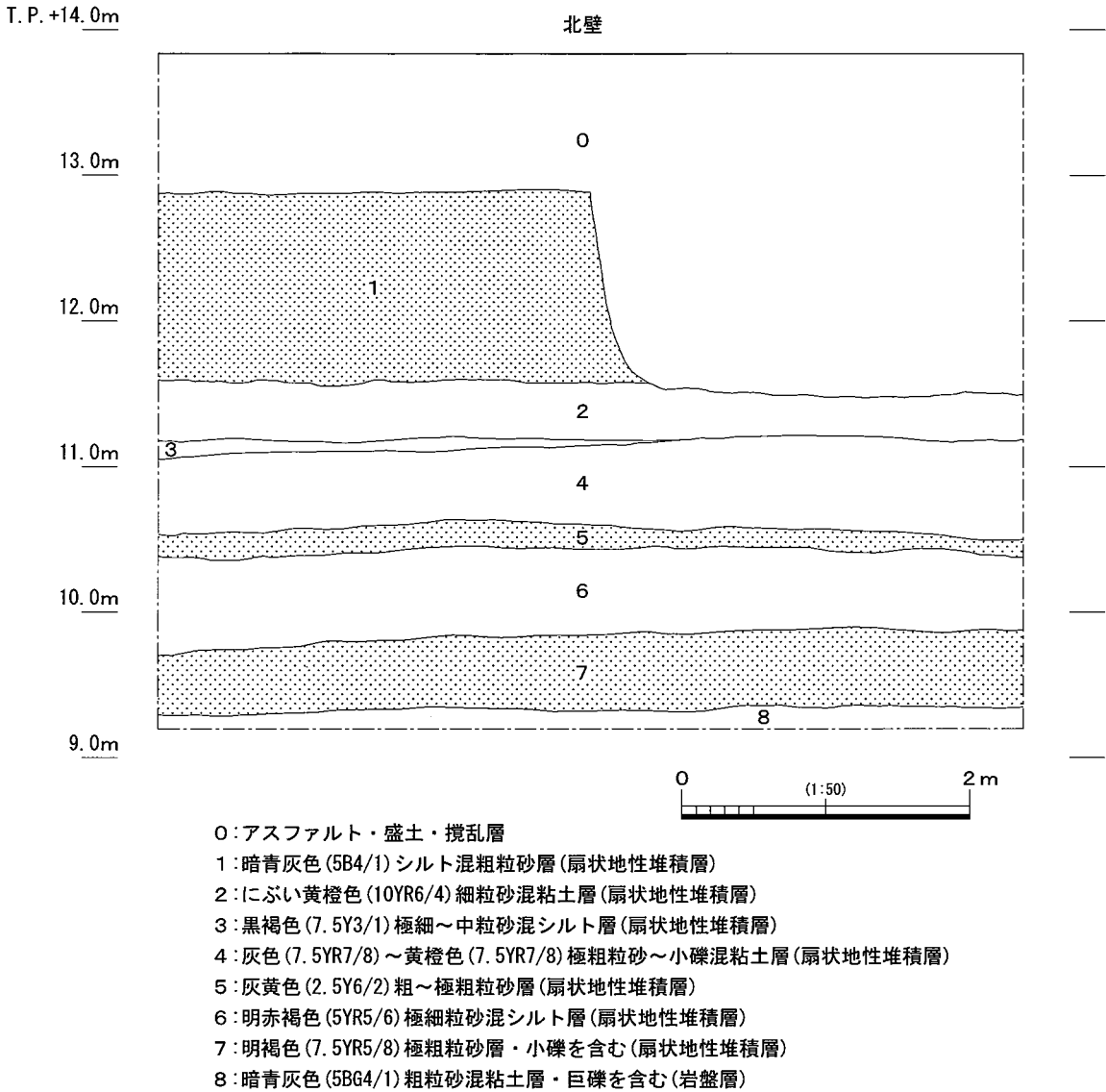
6層(T. P. +9.7～10.4m：明赤褐色(5YR5/6)極細粒砂混シルト層)は湿地性堆積層である。

7層(T. P. +9.3～9.7m：明褐色(7.5YR5/8)極粗粒砂層で小礫を含む)は河川堆積層である。

8層(T. P. +9.3m以下：暗青灰色(5BG4/1)粗粒砂混粘土層で、巨礫を含む)は岩盤層である。

### 3. まとめ

今回の調査では、岩盤層の上位に水成層が堆積することを確認した。調査地は、旧170号線(東高野街道)から西に延びる道路上で、標高が下がることから谷地形であると考えられる。



第3図 断面図

参考文献

- ・高萩千秋1984「7. 楽音寺遺跡第1次調査」『昭和58年度事業概要報告 財団法人八尾市文化財調査研究会報告5』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋・成海佳子2003「II 楽音寺・大竹西遺跡第2次調査(GO2002-2)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告76』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助・樋口 薫2005「I 楽音寺遺跡第3次調査(GO2003-3)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告85』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2003「10. 楽音寺遺跡(2002-293)の調査」『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告48 平成14年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・岡田清一・樋口 薫・高萩千秋2010「4. 大竹西遺跡第6次調査(OTN2009-6)」『平成21年度 財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会



T. P. +11.6m付近



T. P. +10.5m付近



T. P. +9.3m付近

XI 木の本遺跡第27次調査(S K2014-27)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本九丁目地内で実施した下水道工事(25-18工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第27次調査(S K 2014-27)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年6月20日(外業実働1日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約3.0㎡である。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	61
2. 調査概要	62
1) 調査の方法と経過	62
2) 基本層序	62
3) 検出遺構と出土遺物	62
3. まとめ	62

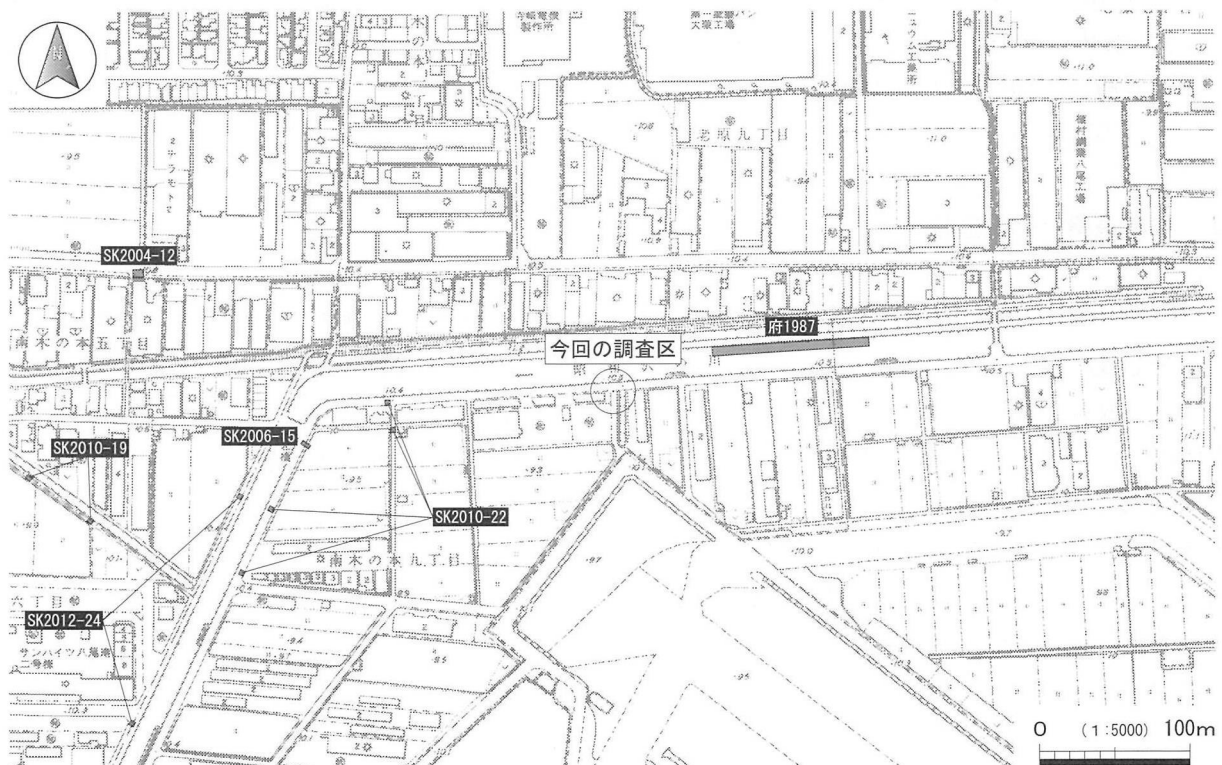


## XI 木の本遺跡第27次調査 (S K 2014 - 27)

### 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部に位置する。今回報告する木の本遺跡は、本市の南部、現在の行政区画では、木の本一～三丁目、南木の本二～九丁目、空港一丁目の東西約2.0 km、南北約1.5 kmがその範囲とされている。地形的には、現平野川の左岸に形成された沖積地上に展開する遺跡である。現地表面高を見ると、遺跡南東端が最も高く標高11.9m前後、北西端が最も低く標高10.1m前後で、比高差は約1.8mを測る。概ね南東から北西に緩やかに傾斜する地形を有している。

本遺跡は、昭和56(1981)年度に南木の本四丁目で実施された八尾市教育委員会による試掘調査において、弥生時代中期前半～古墳時代後期の遺物包含層が確認されたことが発見の契機である。これに続く八尾市教育委員会による発掘調査では、弥生時代中期前半、古墳時代前期、中期の遺構、遺物が検出された。昭和57(1982)・58(1983)年度には、当調査研究会によって八尾空港内の整備事業に伴う第1次調査が行われ、古代及び近世の条里制に基づいた水田遺構が検出された。以後、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、当調査研究会により、河川改修や下水道工事による調査が断続的に実施されており、その結果、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが認識されるようになった。



第1図 調査地周辺図

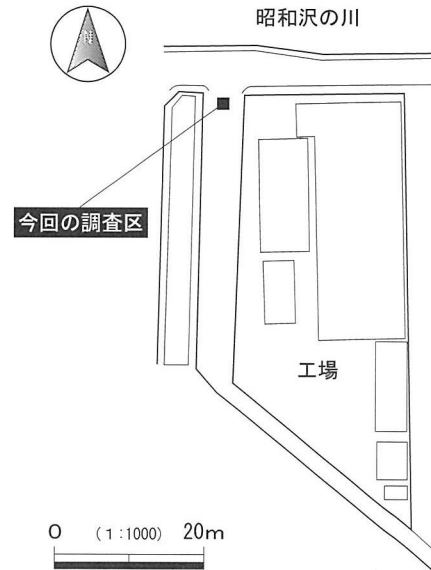
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市南木の本九丁目地内で実施した下水道工事(25-18工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第27次調査(S K 2014-27)にあたる。

調査区は人孔部分(規模約1.6×1.6m)1箇所、総面積は約3.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(T.P.+10.37m前後)下2.0mまでを人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。なお、調査は夜間に実施された。

調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

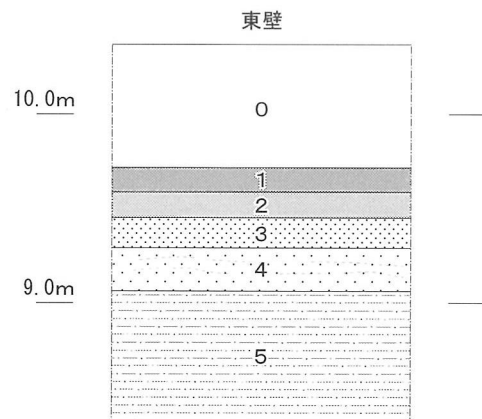
現地表(T.P.+10.37m)下0.65mは客土・盛土層(0層)である。以下現地表下2.0mまでで、5層の基本層序を確認した。1層は旧作土層(T.P.+9.7m)である。2層は作土層(T.P.+9.6m)である。3・4層は河川堆積層(3層:T.P.+9.45m 4層:T.P.+9.3m)である。5層は湿地性堆積層(T.P.+9.1m以下)である。炭酸カルシウムの混在を認める。

### 3) 検出遺構と出土遺物

なし。

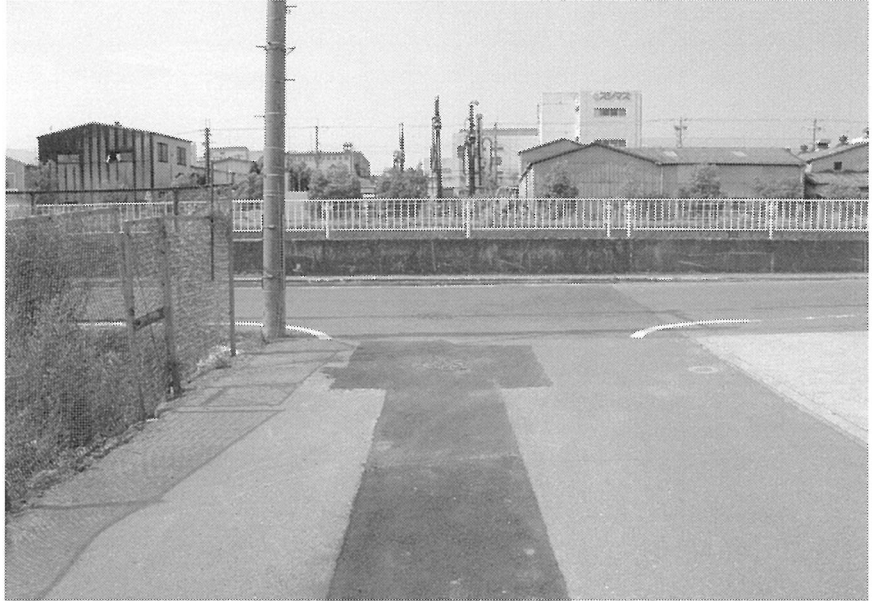
## 3. まとめ

今回の調査では、T.P.+9.45m以下において水成層(3～5層)が存在するほか、この上位には現代に至るまで作土層が形成される様相を確認した。出土遺物が皆無であるため、地層の帰属時期は不明であるが、本地は河川域に位置した後、生産域に変貌したことが明らかになった。



- 0 : 客土・盛土層
- 1 : 暗灰色(N3/)粗粒砂～細礫混粘土質シルト(旧作土層)
- 2 : 灰黄色(2.5Y6/2)粘土質シルト～シルト(作土層)
- 3 : にぶい黄橙色(10YR7/4)シルト(河川堆積層)
- 4 : 灰褐色(10YR6/1)シルト～中粒砂(河川堆積層)
- 5 : 褐灰色炭酸カルシウム混粘土質シルト(湿地性堆積層)

第3図 断面図(S=1/40)



調査地周辺状況(南から)



掘削状況(北東から)



東壁断面(西から)



XII 木の本遺跡第28次調査(S K 2014-28)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南木の本九丁目地内で実施した下水道工事(25-203工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第28次調査(S K 2014-28)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年11月14日・平成27年1月16日(外業実働2日)に、平田洋司を調査担当者として実施した。調査面積は約6.0㎡である。
1. 現地調査においては芝崎和美・垣内洋平・百々勝広の参加を得た。
1. 内業整理業務は平田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は平田が行った。

# 本 文 目 次

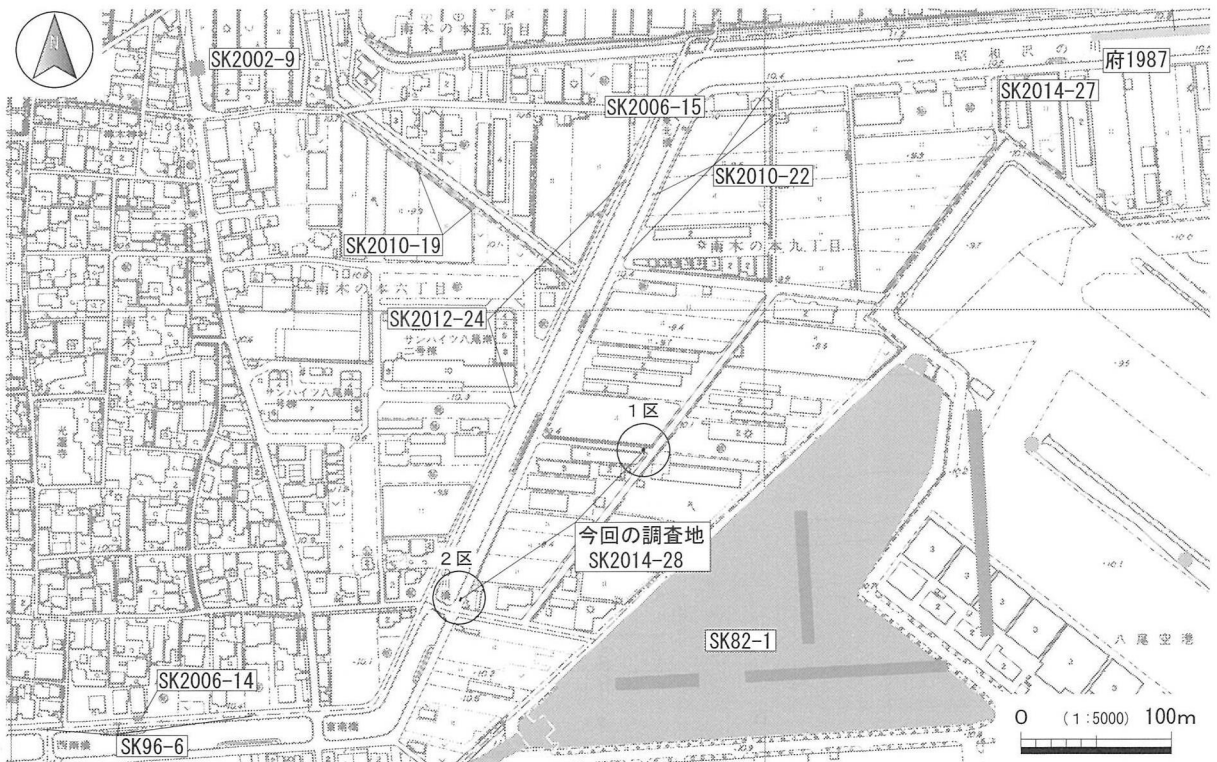
1. はじめに	65
2. 調査概要	66
1) 調査の方法と経過	66
2) 基本層序	66
3. まとめ	66

## XII 木の本遺跡第28次調査 (SK2014-28)

### 1. はじめに

木の本遺跡は八尾市南部に位置し、現在の行政区画では、木の本一～三丁目、南木の本二～九丁目、空港一丁目の東西約2.0km、南北約1.5kmがその範囲とされている。地形的には河内平野の南西部、旧大和川水系の平野川左岸の沖積地上に位置し、東に田井中遺跡・老原遺跡、西～南側には八尾南遺跡・太田遺跡が隣接する他、北側には太子堂遺跡・植松遺跡・植松南遺跡といった平野川流域に展開する遺跡が存在する。

本遺跡は、昭和56(1981)年度に南木の本四丁目で行われた八尾市教育委員会による試掘調査において、弥生時代中期前半～古墳時代後期の遺物包含層が確認されたことが発見の契機である。続く八尾市教育委員会による発掘調査では、弥生時代中期前半、古墳時代前期、中期の遺構、遺物が検出された。昭和57(1982)・58(1983)年度には、当調査研究会によって八尾空港内の整備事業に伴う第1次調査が行われ、古代及び近世の条里制に基づいた水田遺構が検出された。以後、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、当調査研究会により、河川改修や下水道工事による調査が断続的に実施されており、弥生時代前期以降の複合遺跡であることが認識されるようになった。今回の調査地周辺の調査には北部の第15次調査(SK2006-15)・第19次調査(SK2010-19)・第22次調査(SK2010-22)・第24次調査(SK2012-24)、南西部の第6次調査(SK96-6)・第14次調査(SK2006-14)、南東部の第1次調査(SK82-1)がある。これらの調査では平安時代以降の耕作土が検出されており、当地一帯に生産域が広がっていたことが確認されている。



第1図 調査地周辺図

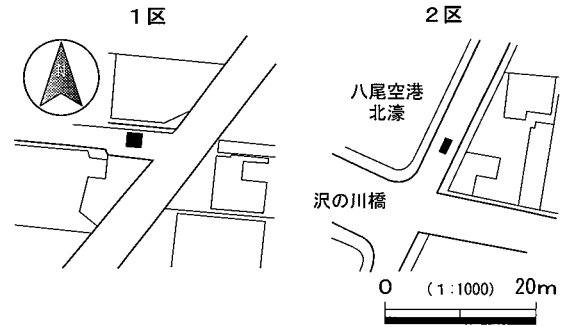
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市南木の本九丁目地内で実施した下水道工事(25-203工区)に伴う調査で、当調査研究会が木の本遺跡内で行った第28次調査(SK2014-28)にあたる。

調査区は人孔部分2箇所(北東を1区、南西を2区)で、総面積は約6㎡を測る。調査は工事掘削深度である現地表(T.P.+10.4~10.8m)下2.2~2.4mまで機械・人力掘削で実施した。

調査で使用した標高は、1区は西方の八尾市街区多角点20C42(T.P.+10.739m)、2区は西方の八尾市街区補助点4C029(T.P.+11.067m)である。



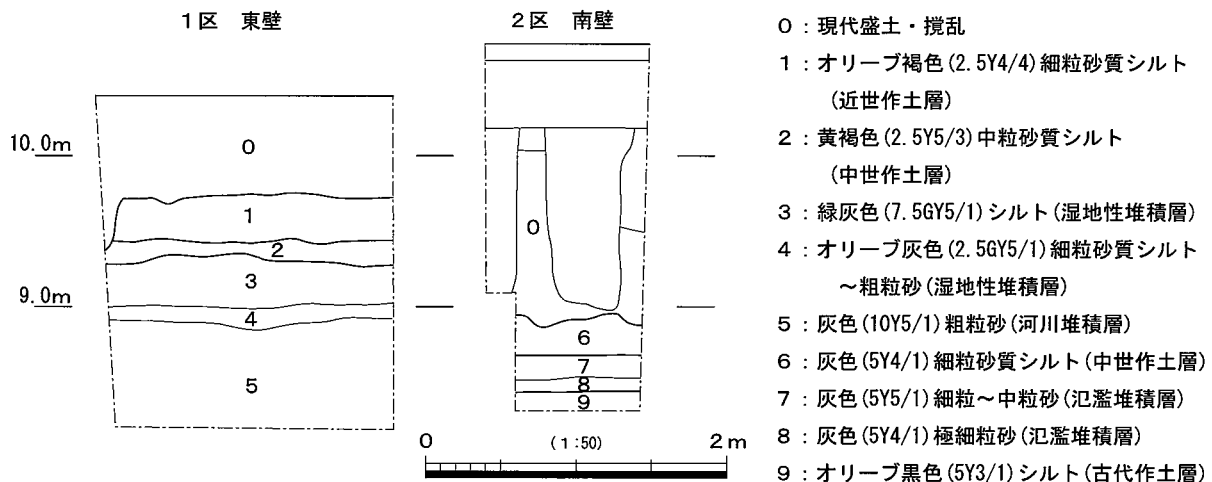
第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

1区で現地表(T.P.+10.4m)下0.7m、2区は現地表(T.P.+10.8m)下1.8mまでは盛土層・攪乱(0層)である。以下9層の基本層序を確認した。1・2層は作土層(1層:T.P.+9.7m 2層:T.P.+9.4m)である。2区では1・2層は遺存していない。3~5層は1区で認められた水成層で、3・4層は湿地性堆積層(3層:T.P.+9.3m 4層:T.P.+9.0m)、5層は河川堆積層(T.P.+9.7m)である。6層以下は2区で認められた。6層は作土層(T.P.+9.0m)である。7・8層は氾濫堆積層(7層:T.P.+8.7m 8層:T.P.+8.5m)である。9層は作土層(T.P.+8.4m)である。

### 3. まとめ

今回の調査では複数の作土層を確認することができた。遺物の出土が皆無であるため周辺調査との対比になるが、1層は近世、2・6層は中世、9層は古代にそれぞれ比定できよう。2区では氾濫堆積層を介して古代および中世の作土層を確認し、連綿と耕作域であったことがわかつ



第3図 断面図(S=1/50)



た。一方、1区では中世以前は河川であり、埋没後の中世以降に耕作域として利用されていくことが判明した。

#### 参考文献

- ・原田昌則1983『木の本遺跡－八尾空港整備事業に伴う発掘調査－ 財団法人八尾市文化財調査研究会報告4』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助1996「I 木の本遺跡第6次調査(S K 94-6)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告50』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子2008「II 木の本遺跡第14次調査(S K 2006-14)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告112』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・荒川和哉2008「III 木の本遺跡第15次調査(S K 2006-15)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告112』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2012「VII 木の本遺跡第19次調査(S K 2010-19)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2012「IX 木の本遺跡第22次調査(S K 2010-22)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2013「VIII 木の本遺跡第24次調査(S K 2012-24)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』公益財団法人八尾市文化財調査研究会



1区調査地周辺状況(東から)



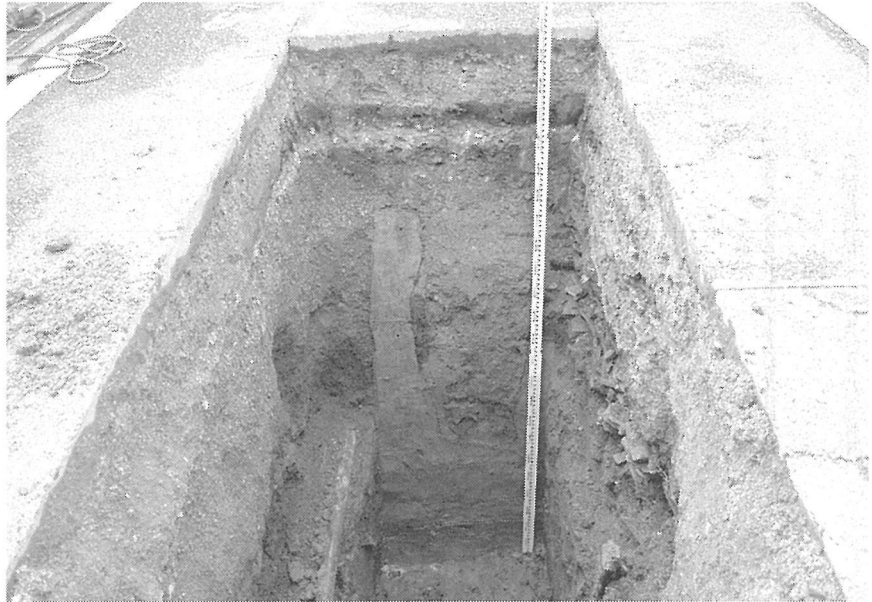
1区東壁上部(西から)



1区東壁(西から)



2区調査地周辺状況(南から)



2区南壁(北から)



2区南壁下部(北から)



XIII 久宝寺遺跡第88次調査(KH2014-88)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市南久宝寺2丁目地内で実施した下水道工事(25-15工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する久宝寺遺跡第88次調査(KH2014-88)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成26年6月23日～8月18日(外業実働4日)に、大塚 隆・坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約37㎡である。
1. 現地調査においては飯塚直世・梅垣俊斗・小野聡美・垣内洋平・芝崎和美・竹田貴子の参加を得た。
1. 内業整理業務は大塚・坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

# 本文目次

1. はじめに	71
2. 調査概要	72
1) 調査の方法と経過	72
2) 基本層序と出土遺物	72
3. まとめ	72

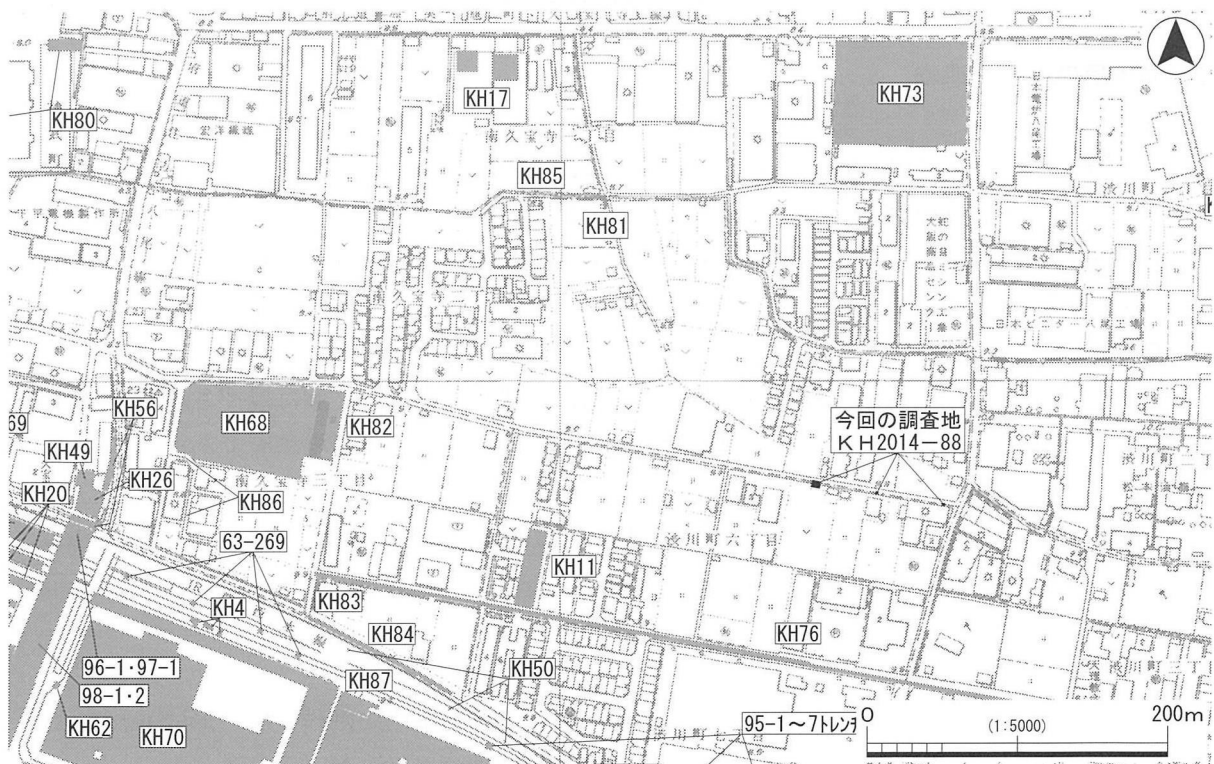
## XIII 久宝寺遺跡第88次調査 (KH2014-88)

### 1. はじめに

久宝寺遺跡は、古大和川の主流であった古長瀬川左岸の低位沖積地に位置する縄文時代晩期～近世の複合遺跡である。八尾市の北西部に位置し、現在の行政区画では八尾市久宝寺1～6、北久宝寺1～3、西久宝寺、南久宝寺1～3、神武町、北亀井1～3、龍華町1・2、渋川町1～7、及び東大阪市大蓮東5、大蓮南2一帯の東西1.8km・南北1.7kmがその範囲にあたる。当遺跡の周辺には、北東に佐堂遺跡、東に宮町遺跡・八尾寺内町遺跡・成法寺遺跡、南に亀井遺跡・跡部遺跡、西に加美遺跡(大阪市)が隣接している。

当遺跡は、昭和10年に八尾市久宝寺5丁目で実施された道路工事中に、弥生土器や土師器・須恵器、そして丸木舟の残片が出土したことが発見の契機となった。その後、昭和55～61年に(財)大阪文化財センター(現、財団法人大阪府文化財センター。以下府センター)によって実施された近畿自動車道建設に伴う発掘調査により、縄文時代晩期～近世の複合遺跡であることが判明した。また遺跡範囲の南部を占める旧国鉄竜華操車場跡地の再開発にあたっては、昭和63年以降、府センター、八尾市教育委員会、当調査研究会によって継続的に調査が実施されており、府センターによる水処理施設調査地では古墳時代初頭～前期の墳墓が60基以上検出されており特筆される。

今回の調査地は遺跡範囲の南東部に位置する。周辺では小規模な遺構確認調査を実施しており、主に中世～近世の遺構・遺物が確認されている。また北部で実施した第73次調査では、奈良時代後期～平安時代の遺構・遺物を検出した他、埴輪や耳環の出土から周辺に古墳の存在が想定されている。



第1図 調査地位置図

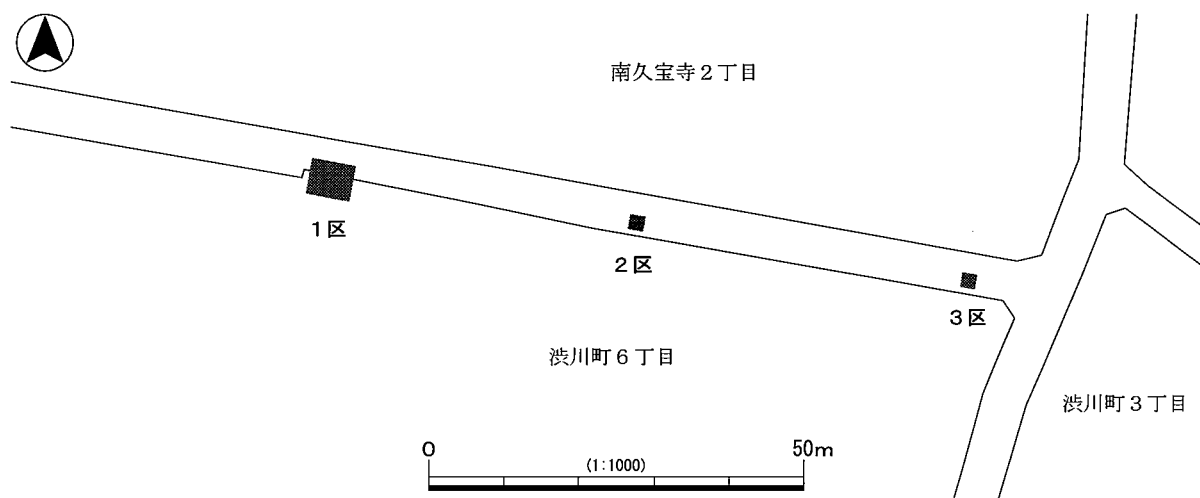
## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市南久宝寺2丁目地内で実施された下水道工事(25-15工区)に伴う調査で、当調査研究会が久宝寺遺跡内で行った第88次調査(KH2014-88)である。

調査区は東西道路上に設置される立坑部分1箇所(約4.8×6.0m)、人孔部分2箇所(約2.0×2.0m)で、調査面積は約37㎡である。地区名は西から1～3区とし、工事の進捗状況に合わせて1～3区の順に実施した。調査は1区では現地表(約T.P.+9.1m)下約4.0mまで、2・3区では工事掘削深度である現地表(約T.P.+9.3～9.4m)下約2.8mまで機械・人力掘削併用で実施した。

調査では、調査地内に所在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序と出土遺物

#### 1区

上部は既設管路により現地表下0.8～1.4mまで攪乱されている。0層はアスファルト・盛土・攪乱層である。1層は旧耕土である。2・3層は近世以降の作土層である。摩耗した土師器、須恵器片や近世磁器片が少量出土した。4・5層は河川堆積層である。6・7層は湿地性堆積層である。6層から時期不明の土師器片が出土した。

#### 2区

0層はアスファルト・盛土・攪乱層である。1層は旧耕土である。2層は攪拌された作土、3層はブロック状の作土で、時期は近世頃と考えられる。4・5層は河川堆積層である。

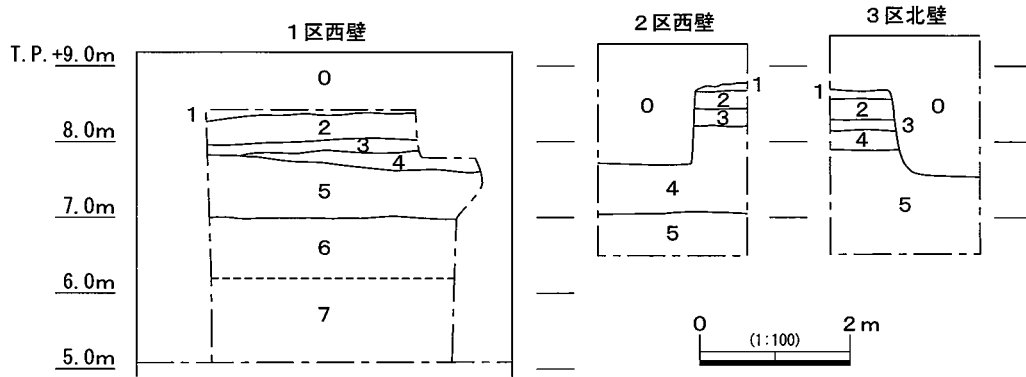
#### 3区

0層はアスファルト・盛土・攪乱層である。1層は旧耕土である。2層はブロック状の作土で、時期は近世頃と考えられる。3～5層は河川堆積層である。

### 3. まとめ

今回の調査では、下位で湿地性堆積や河川堆積を、またその上位には作土層が形成される状況を確認した。周辺の調査成果から勘案して作土の時期は中世頃以降と考えられる。





## 1区

- 0. アスファルト・盛土・攪乱
- 1. 10YR3/1黒褐色細粒砂混シルト 旧耕土
- 2. 7.5YR6/2灰褐色細粒砂混粘土 攪拌作土
- 3. 5YR5/1褐灰色細粒砂～粗粒砂混粘土 攪拌作土
- 4. 10Y6/1灰色粗粒砂 河川堆積
- 5. 10YR3/4暗褐色～10YR5/8黄褐色中粒砂～粗粒砂 河川堆積
- 6. 10YR4/1褐灰色粘土 湿地性堆積
- 7. 5G6/1緑灰色粘土 湿地性堆積

## 2区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 5Y4/1灰色細粒砂混シルト質粘土 旧耕土
- 2. 2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂～粗粒砂多混シルト 攪拌作土
- 3. 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 ブロック状作土
- 4. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト混細粒砂～粗粒砂 水成層
- 5. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土～シルト質粘土 水成層

## 3区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂混シルト 旧耕土
- 2. 5GY6/1オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂混シルト ブロック状作土
- 3. 10YR6/3にぶい黄橙色細粒砂～中粒砂 水成層
- 4. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト 水成層
- 5. 5Y6/1灰色細粒砂～粗粒砂 水成層

第3図 基本層序

今回の調査地付近には、南東から北西に流下する自然河川が存在することが、現在の地割からも推定できる。これは古大和川の主流であった長瀬川の支流と考えられ、検出した河川堆積はこの河川に相当するものと捉えられる。遺物の出土も無く時期等の詳細は不明であるが、北西部で実施した第81・85次調査では平安時代末頃までに埋没する河川堆積を確認しており、これに繋がる可能性がある。

## 参考文献

- ・荒川和哉・原田昌則・他2009「I 久宝寺遺跡第73次調査(KH2007-73)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告127』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2013「IX 久宝寺遺跡第81次調査(KH2011-81)」『下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』公益財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2014「VIII 久宝寺遺跡第85次調査(KH2012-85)」『下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告143』公益財団法人八尾市文化財調査研究会

図版  
1



1区調査開始(東から)



1区機械掘削(南西から)



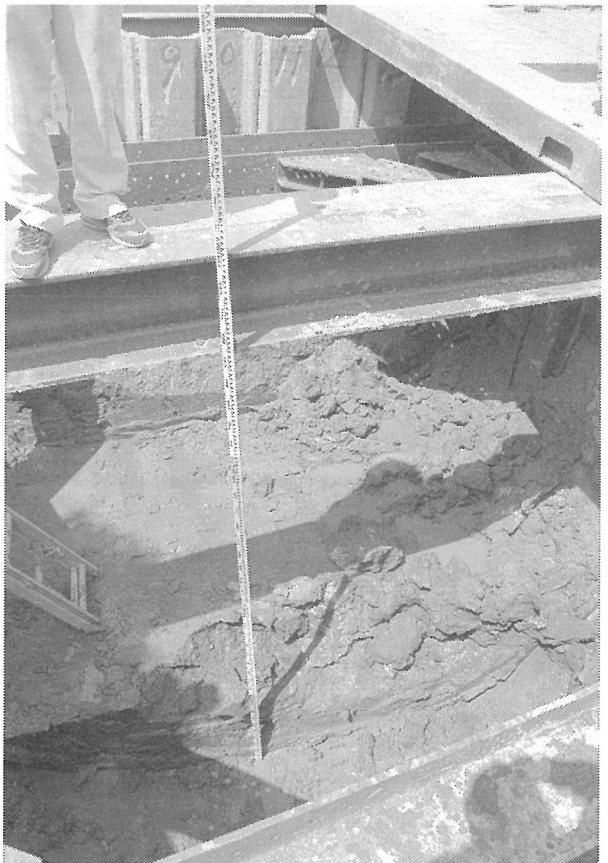
1区西壁



1区7層上面(西から)



1区下層機械掘削(西から)



1区最下層(南から)



2・3区調査地(北東から)



2区機械掘削(南から)



2区西壁



2区最下層(東から)



2区北壁下部



3区機械掘削(北東から)



3区北壁



3区北壁下部



XIV 郡川遺跡第15次調査(K R 2013-15)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市教興寺1丁目地内で実施した下水道工事(H25-106工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第15次調査(KR2013-15)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成25年11月28日～平成26年3月28日(外業実働5日)に、高萩千秋・坪田真一・西村公助を調査担当者として実施した。調査面積は約24㎡である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・梅垣俊斗・大塚 隆・垣内洋平・國津玲子・竹田貴子・村田知子の参加を得た。
1. 内業整理業務は西村が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は西村が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	77
2. 調査概要	78
1) 調査の方法と経過	78
2) 基本層序と出土遺物	78
3. まとめ	80

## XIV 郡川遺跡第15次調査 (KR 2013 - 15)

### 1. はじめに

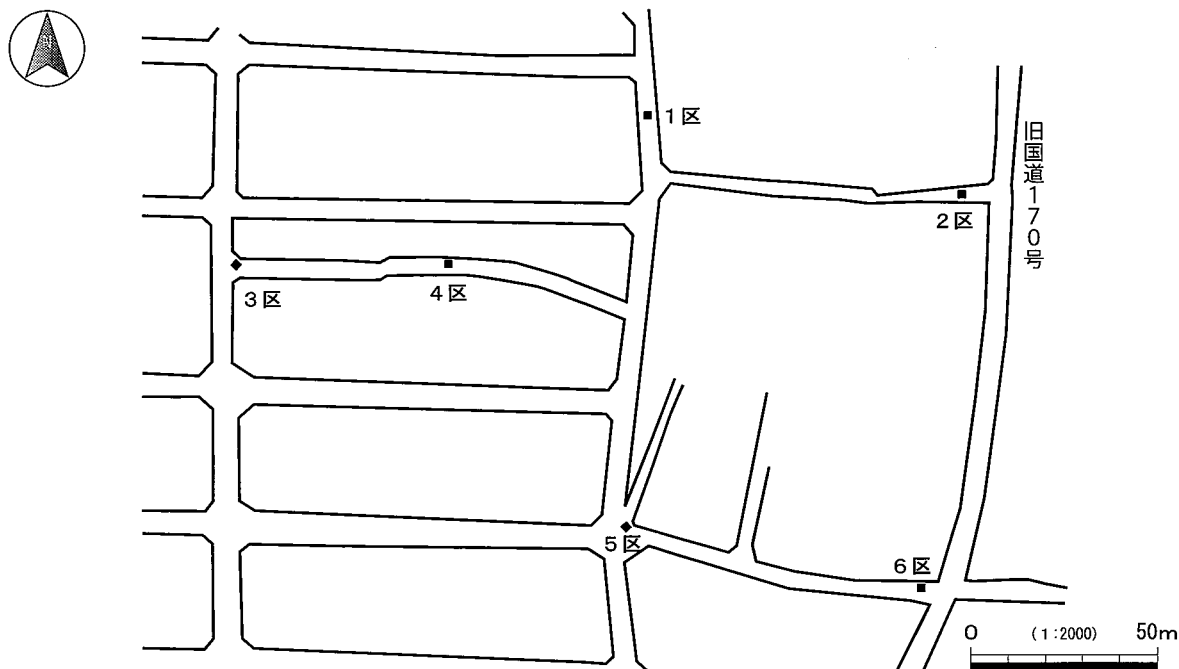
郡川遺跡は大阪府八尾市の東部に位置し、現在の行政区画の郡川1～5丁目・教興寺1～7丁目・黒谷1～5丁目・垣内1～5丁目にあたる東西約1.1km・南北約1.2kmの範囲が遺跡範囲とされている。生駒山西麓から西に広がる河内平野に続く扇状地上に立地しており、地形的には西半部がT.P. +11～30mを測る緩斜面、東半部が30～70mを測る急斜面となっている。西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で水越遺跡、南側で恩智遺跡と接しており、東側の生駒山地西麓地域一帯には、古墳時代後期の群集墳である高安古墳群が広がっている他、東部には古代寺院である教興寺跡が存在する。

当遺跡では以前から、縄文時代後期とされる磨製石斧や、弥生・古墳時代の土器が採集されており、北の水越遺跡、南の恩智遺跡と同様の遺跡の存在が想定されていた。最初の発掘調査は、昭和63年に実施された八尾市教育委員会による遺構確認調査であり、古墳時代中期～後期の集落が確認された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、当遺跡は南方の生駒山地西麓に位置する恩智遺跡と同様、縄文時代には扇状地末端部に集落が形成され、以降連続と続く集落遺跡であると認識されている。

今回の調査地南東側では、平成2(1990)年度に区画整理事業に伴う第2次調査を実施しており、



第1図 調査地周辺図



第2図 調査区位置図

弥生時代前期～中期、古墳時代、室町時代の遺構を検出している。また本地近隣の郡川2003-219では、河川堆積層を確認している。さらに郡川2012-511では、古墳時代前期の遺構および弥生時代後期と古墳時代後期の遺物包含層を確認した。

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市教興寺1丁目地内で実施した下水道工事(H25-106工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第15次調査(K R 2013-15)である。

調査地は道路上に設置される管路部分1箇所(約2.0×2.0m)、人孔部分5箇所(約2.0×2.0m)の合計6箇所(北から1～6区)で、総面積は約24㎡を測る。

調査は現地表(T.P.+12.7～17.5m)下1.4～3.0mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では各調査区周辺に位置する工事使用のベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序と出土遺物

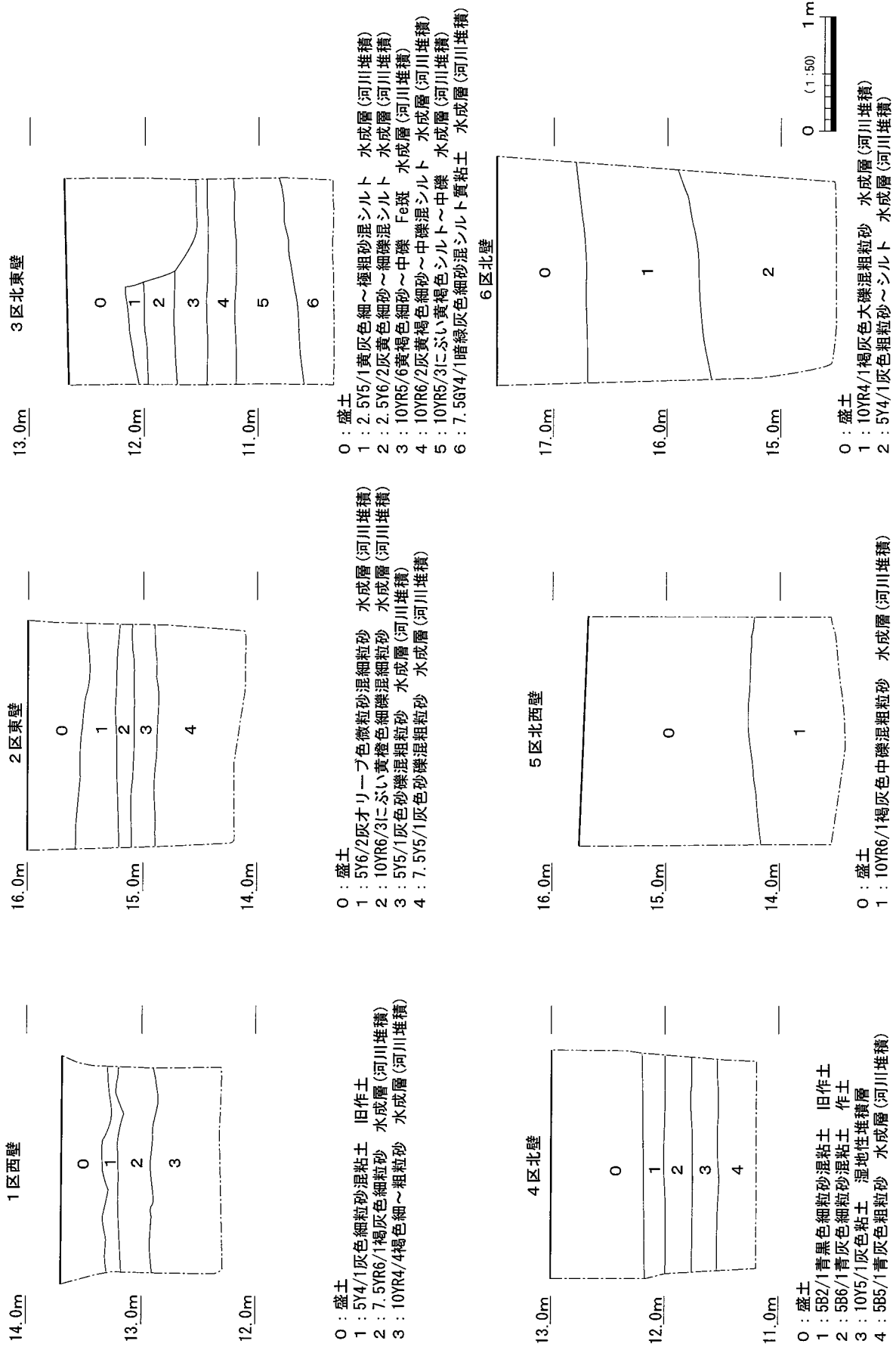
#### 1区

No.13人孔の北側の管路部分を現地表下約1.4mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+13.7mである。3層の堆積を確認した。0層は盛土である。1層は旧耕作土である。2・3層は水成層である。

#### 2区

No.20人孔を現地表下約1.9mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+16.0mである。4層の堆積を確認した。0層は盛土である。1～4層は水成層である。





第3図 1～6区断面図

### 3区

No.2人孔を現地表下約2.4mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+12.7mである。6層の堆積を確認した。0層は盛土である、1層は旧耕作土である。2～6層は水成層である。

### 4区

No.5人孔を現地表下約1.8mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+13.0mである。4層の堆積を確認した。0層は盛土である。1層は旧耕作土である。2層は作土層である。3層は湿地性堆積層である。4層は水成層である。

### 5区

No.23人孔を現地表下約2.4mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+15.8mである。1層の堆積を確認した。0層は盛土である。1層は水成層である。

### 6区

No.27人孔を現地表下約3.0mまで調査した。現地表面の標高はT.P.+17.5mである。2層の堆積を確認した。0層は盛土である、1・2層は水成層である。

## 3. まとめ

1～6区の水成層(河川堆積)は、本地の近隣で調査を実施した郡川2003-219の調査でも確認しており、本地一帯には河川が存在していた可能性が考えられる。また、4区では作土層を確認したことから、同区の周辺には生産域が広がっていたと推測できる。なお、河川や作土層の時期は遺物の出土がないため不明である。

### 参考文献

- ・原田昌則1999「Ⅲ 郡川遺跡第2次調査(KR90-2)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告64』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助2004「20 郡川遺跡(2003-219)の調査」『八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告49 平成15年度国庫補助事業』八尾市教育委員会
- ・西村公助2014「5)郡川遺跡(2012-511)の調査」『八尾市内遺跡平成25年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告72 平成25年度国庫補助事業』八尾市教育委員会



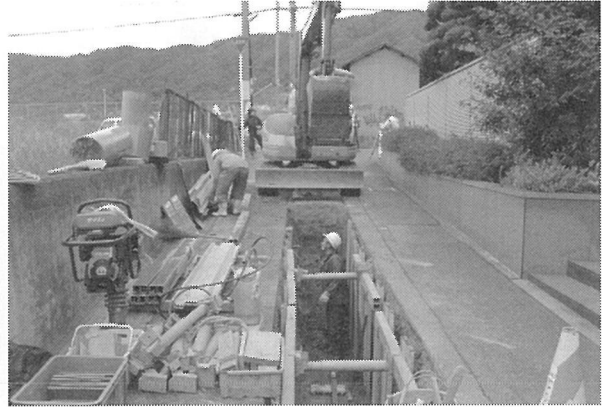
1区機械掘削(北西から)



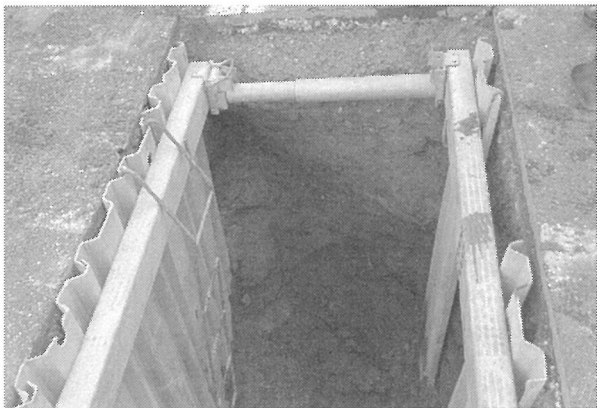
1区西壁0～3層(東から)



2区周辺(北東から)



2区機械掘削(西から)



2区東壁0～4層(西から)



3区周辺(西から)



3区機械掘削(南西から)



3区北東壁0～6層(南西から)



4区機械掘削(東から)



4区北壁0~4層(南から)



5区周辺(北から)



5区機械掘削(西から)



5区北西壁0~1層(南東から)



6区周辺(西から)



6区機械掘削(東から)



6区北壁0~2層(南から)

XV 郡川遺跡第16次調査(K R 2014-16)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市垣内2丁目地内で実施した下水道工事(25-107工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第16次調査(K R 2014-16)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年5月30日～平成25年6月24日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約7 m<sup>2</sup>である。
1. 現地調査においては、小野聡美・國津玲子・永井律子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	83
2. 調査概要	84
1) 調査の方法と経過	84
2) 基本層序	84
3. まとめ	85

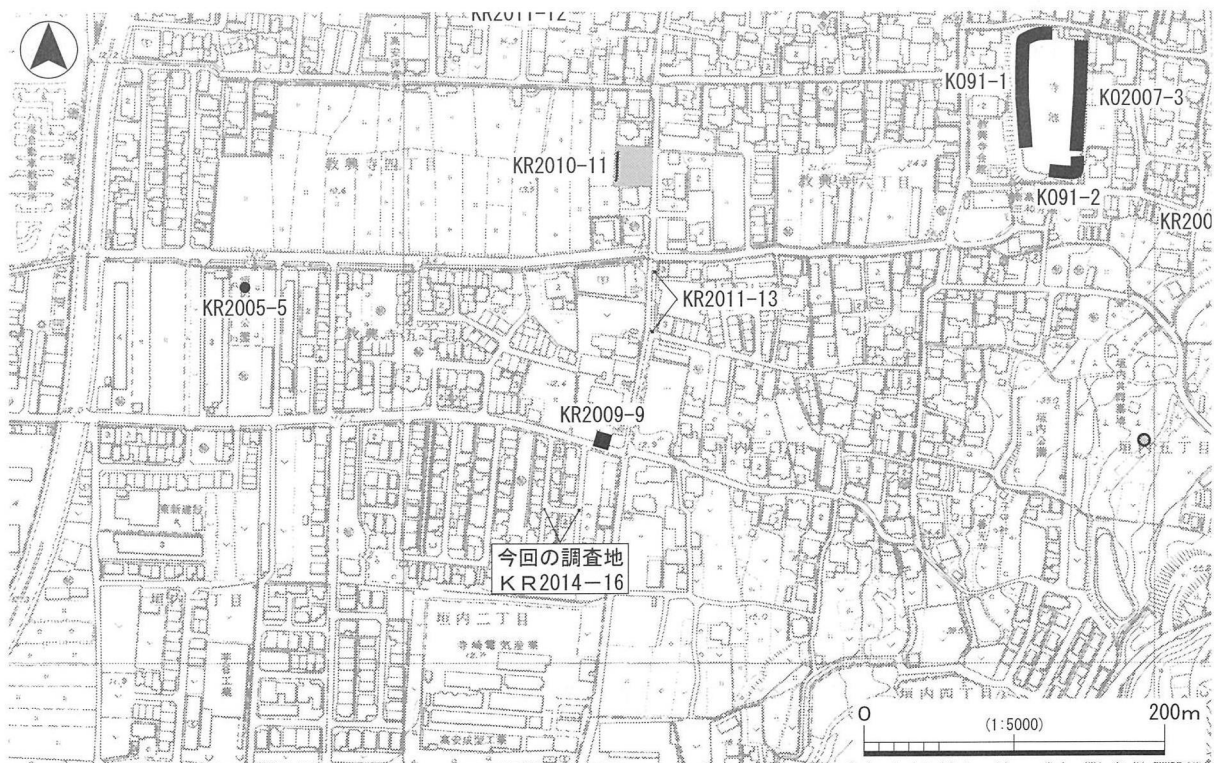
## XV 郡川遺跡第16次調査 (KR 2014 - 16)

### 1. はじめに

郡川遺跡は八尾市の東部に位置し、現在の行政区画の郡川1～5丁目・教興寺1～7丁目・黒谷1～5丁目・垣内1～5丁目にあたる東西約1.1km・南北約1.2kmの範囲が遺跡範囲とされている。生駒山西麓から西に広がる河内平野に続く扇状地上に立地しており、地形的には西半部がT.P. +11～30mを測る緩斜面、東半部が30～70mを測る急斜面となっている。西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で水越遺跡、南側で恩智遺跡と接しており、東側の生駒山地西麓地域一帯には、古墳時代後期の群集墳を中心とする高安古墳群が広がっている他、東部には古代寺院である教興寺跡が存在する。

当遺跡では以前から、縄文時代後期とされる磨製石斧や、弥生・古墳時代の土器が採集されており、北の水越遺跡、南の恩智遺跡と同様の遺跡の存在が想定されていた。最初の発掘調査は、昭和63年に実施された八尾市教育委員会による遺構確認調査であり、古墳時代中期～後期の集落が確認された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、当遺跡は南方の生駒山地西麓に位置する恩智遺跡と同様、縄文時代には扇状地末端部に集落が形成され、以降連続と続く集落遺跡であると認識されている。

今回の調査地北東部～北部では、下水道工事に伴う第9・13次調査、民間開発に伴う第11次調査を実施している。第9・13次調査では河川堆積等の扇状地性堆積層を確認した。第11次調査では弥生時代前期～古墳時代前期の遺構を検出しており、長期に亘り居住域となっていることを確認した。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

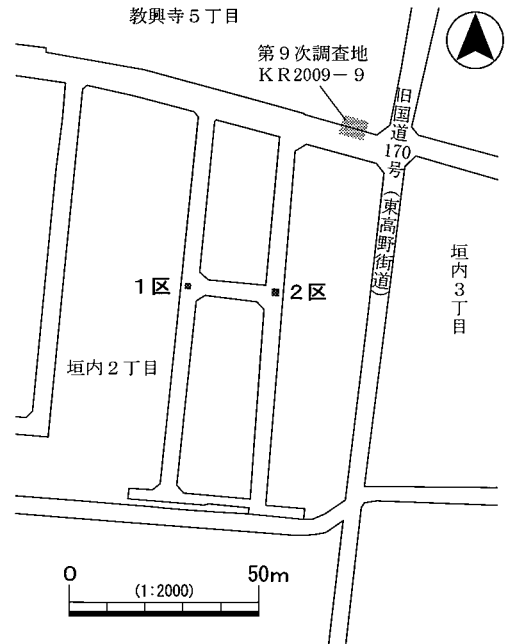
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市垣内2丁目地内で実施した下水道工事(25-107工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第16次調査(KR2014-16)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分2箇所(西から1・2区)で、総面積は約7㎡を測る。

調査は現地表(T.P. +12.9~13.3m)下2.2~2.5mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では各調査区周辺に位置する工事使用のベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

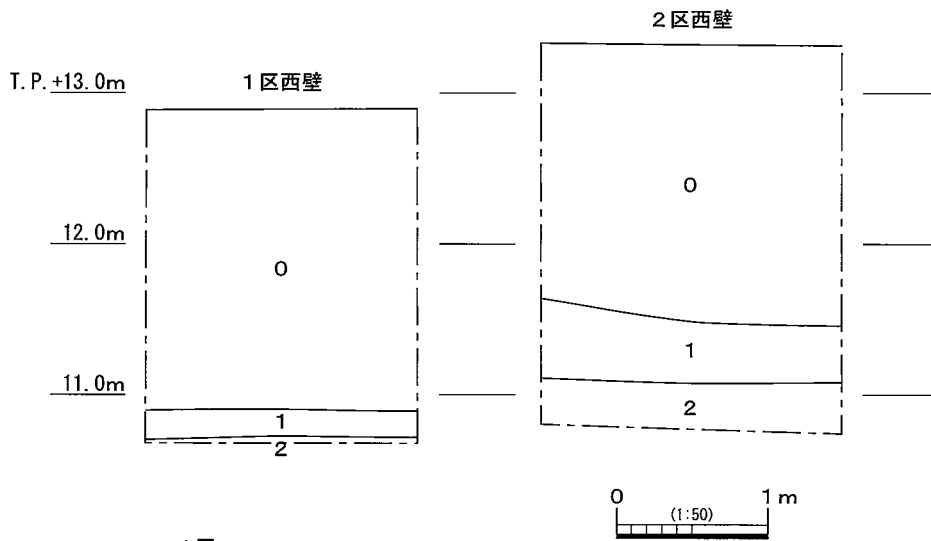
### 2) 基本層序

#### 1区

0層は盛土である。1層は耕作土と考えられる。2層は水成層である。

#### 2区

0層は盛土である。1・2層は水成層で、1層は河川堆積、2層は巨礫を含む土石流状の層相を呈する。



- 1区
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 作土
  - 2. 5GY5/1オリーブ灰色シルト～細粒砂 水成層
- 2区
- 0. 盛土・攪乱
  - 1. 5GY5/1オリーブ灰色細礫～中礫混シルト～細粒砂 水成層
  - 2. 5Y3/1オリーブ黒色巨礫混シルト～粘土質シルト 水成層

第3図 断面図



### 3. まとめ

今回の調査地では、近世頃と考えられる作土層を1区で確認した。それ以下では、河川堆積や土石流といった扇状地性堆積が見られた。当地一帯には東西方向の谷が存在していたと推測される。

#### 参考文献

- ・高萩千秋2011「Ⅵ 郡川遺跡第9次調査(KR 2009-9)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2011「Ⅱ 郡川遺跡第11次調査(KR 2010-11)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告135』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋2013「Ⅲ 恩智遺跡第26次調査(OJ 2012-26)・郡川遺跡第13次調査(KR 2012-13)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』公益財団法人八尾市文化財調査研究会



1区調査地(南から)



1区機械掘削(東から)



1区西壁



1区西壁下部



2区機械掘削(西から)



2区全景(南から)



2区西壁



2区西壁下部

XVI 郡川遺跡第17次調査(K R 2014-17)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市教興寺七丁目地内で実施した下水道工事(25-31工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第17次調査(K R2014-17)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年6月17日(外業実働1日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約6㎡である。
1. 現地調査においては、伊藤静江・國津玲子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	87
2. 調査概要	88
1) 調査の方法と経過	88
2) 基本層序	89
3. まとめ	89

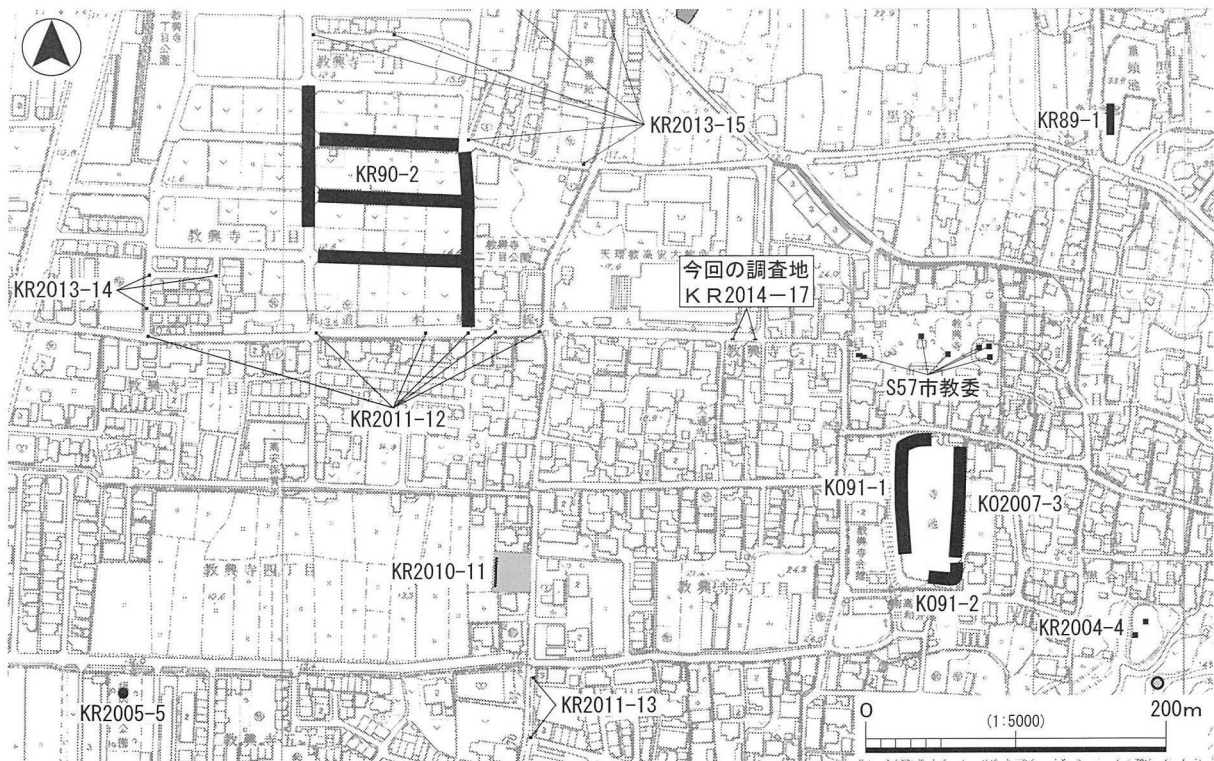
## XVI 郡川遺跡第17次調査 (KR 2014 - 17)

### 1. はじめに

郡川遺跡は八尾市の東部に位置し、現在の行政区画の郡川1～5丁目・教興寺1～7丁目・黒谷1～5丁目・垣内1～5丁目にあたる東西約1.1km・南北約1.2kmの範囲が遺跡範囲とされている。生駒山西麓から西に広がる河内平野に続く扇状地上に立地しており、地形的には西半部がT.P. +11～30mを測る緩斜面、東半部が30～70mを測る急斜面となっている。西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で水越遺跡、南側で恩智遺跡と接しており、東側の生駒山地西麓地域一帯には、古墳時代後期の群集墳を中心とする高安古墳群が広がっている他、東部には古代寺院である教興寺跡が存在する。

当遺跡では以前から、縄文時代後期とされる磨製石斧や、弥生・古墳時代の土器が採集されており、北の水越遺跡、南の恩智遺跡と同様の遺跡の存在が想定されていた。最初の発掘調査は、昭和63年に実施された八尾市教育委員会による遺構確認調査であり、古墳時代中期～後期の集落が確認された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、当遺跡は南方の生駒山地西麓に位置する恩智遺跡と同様、縄文時代には扇状地末端部に集落が形成され、以降連続と続く集落遺跡であると認識されている。

今回の調査地西方では、区画整理事業に伴う第2次調査(KR90-2)や、下水道工事に伴う第12次調査(KR2011-12)を実施しており、前者では弥生時代前期～中期、古墳時代、室町時代の遺構、後者では洪水砂・土石流といった扇状地性堆積を確認している。一方、東方の教興寺境内での調査(S57市教委)においては、古墳時代後期の土器や平安～鎌倉・江戸時代の瓦が出土している。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

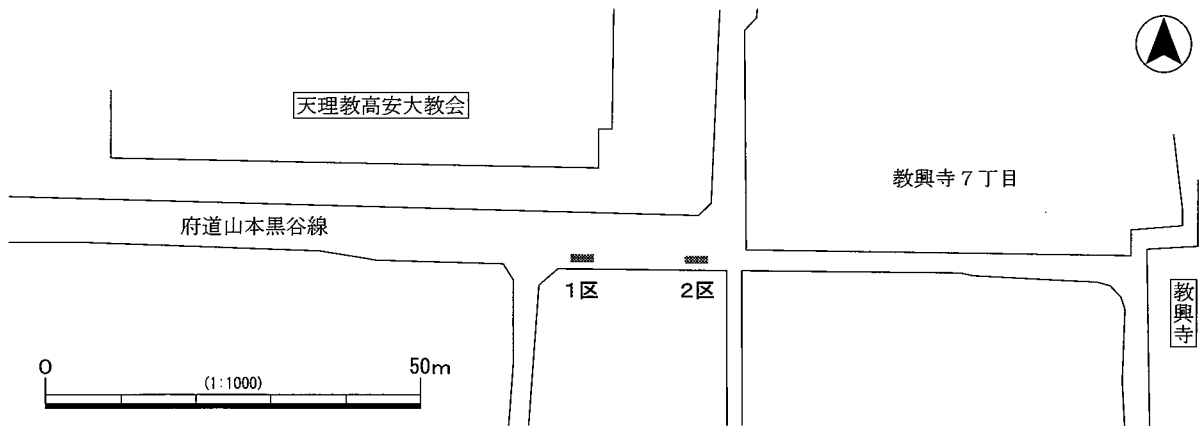
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市教興寺七丁目地内で実施した下水道工事(25-31工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第17次調査(K R 2014-17)である。

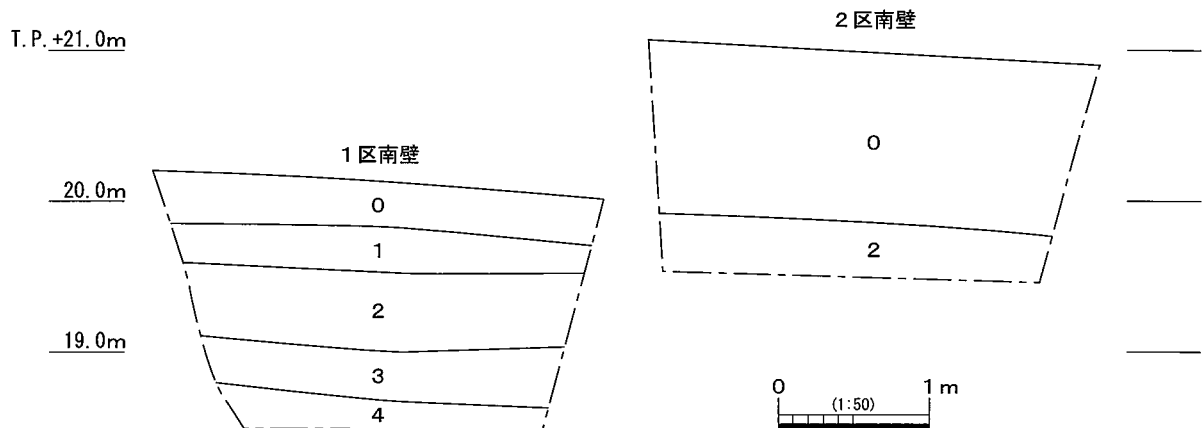
調査地は道路上に設置される人孔部分1箇所(1区：約1.0×3.0m)、管路部分1箇所(2区：約1.0×3.0m)で、総面積は約6㎡を測る。

調査は現地表(T.P.+20.0~21.1m)下約1.7mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では各調査地に位置する工事使用のベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図



- 0. 盛土・攪乱
- 1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～極粗粒砂混粘土質シルト 土壤化層 水成層
- 2. 5Y5/1灰色極細粒砂～細礫 水成層
- 3. 2.5Y6/2灰黄色シルト～細粒砂 水成層
- 4. 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土 水成層

第3図 断面図

## 2) 基本層序

### 1・2区

0層は盛土である。1～4層は水成層で、2・3層は洪水砂であろう。1層は土壌化している。

## 3. まとめ

今回の調査地では、洪水砂等の扇状地性堆積が見られた。このような堆積状況は、西方の第12次調査(KR2011-12)でも確認しており、当地一帯には東西方向の谷が存在していたと推測される。

### 参考文献

- ・原田昌則1999「Ⅲ 郡川遺跡第2次調査(KR90-2)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告64』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2013「X I 郡川遺跡第12次調査(KR2011-12)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』公益財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・米田敏幸1983『八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書—教興寺の調査— 八尾市文化財調査報告9 昭和57年度国庫補助事業』八尾市教育委員会

図版1



1区調査地(西から)



1区機械掘削(西から)



1区全景(東から)



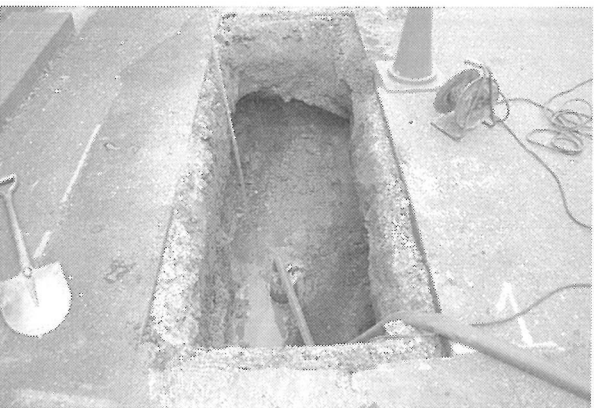
1区南壁



2区調査地(東から)



2区機械掘削(西から)



2区全景(東から)



2区南壁



XVII 郡川遺跡第18次調査(K R 2014-18)  
高安古墳群第8次調査(T 2014-8)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市垣内3丁目地内他で実施した下水道工事(25-32工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第18次調査(K R2014-18)、高安古墳群第8次調査(T2014-8)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年8月7日～8月8日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約7㎡である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・芝崎和美の参加を得た。
1. 内業整理業務は下記が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。  
遺物実測－芝崎  
その他－坪田
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	91
2. 調査概要	92
1) 調査の方法と経過	92
2) 基本層序	92
3) 検出遺構と出土遺物	92
3. まとめ	94

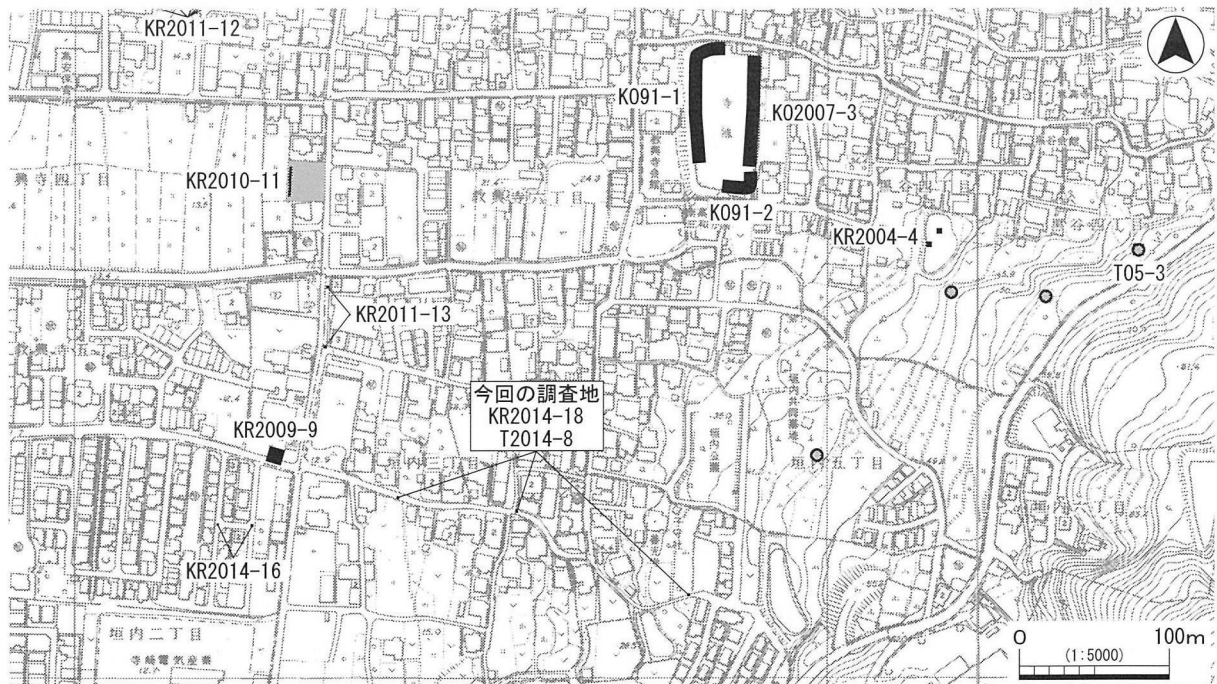
## XVII 郡川遺跡第18次調査 (KR 2014 - 18) 高安古墳群第8次調査 (T 2014 - 8)

### 1. はじめに

郡川遺跡は八尾市の東部に位置し、現在の行政区画の郡川1～5丁目・教興寺1～7丁目・黒谷1～5丁目・垣内1～5丁目にあたる東西約1.1km・南北約1.2kmの範囲が遺跡範囲とされている。生駒山西麓から西に広がる河内平野に続く扇状地上に立地しており、地形的には西半部がT.P. +11～30mを測る緩斜面、東半部が30～70mを測る急斜面となっている。西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で水越遺跡、南側で恩智遺跡と接しており、東側の生駒山地西麓地域一帯には高安古墳群が広がっている他、東部には古代寺院である教興寺跡が存在する。

郡川遺跡では以前から、縄文時代後期とされる磨製石斧や、弥生・古墳時代の土器が採集されており、北の水越遺跡、南の恩智遺跡と同様の遺跡の存在が想定されていた。最初の発掘調査は、昭和63年に実施された八尾市教育委員会による遺構確認調査であり、古墳時代中期～後期の集落が確認された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、南方の生駒山地西麓に位置する恩智遺跡と同様、縄文時代には扇状地末端部に集落が形成され、以降連綿と続く集落遺跡であると認識されている。

一方、高安古墳群では、古墳時代後期を中心として横穴式石室を主体部を持つ小円墳が尾根上に連なって群集墳を形成しており、総数323基が確認されている(平成24年3月現在)。今回の調査地は高安古墳群の中では南部に位置する「教興寺地区」に近い。調査地北部に位置する「寺池」改修工事に伴う教興寺跡第1次調査で検出した教興寺西2号墳(寺池1号墳)は、竪穴式石室を主体部を持つ古墳で、横穴式石室導入期における竪穴式小石室と捉えられるもので注目される。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

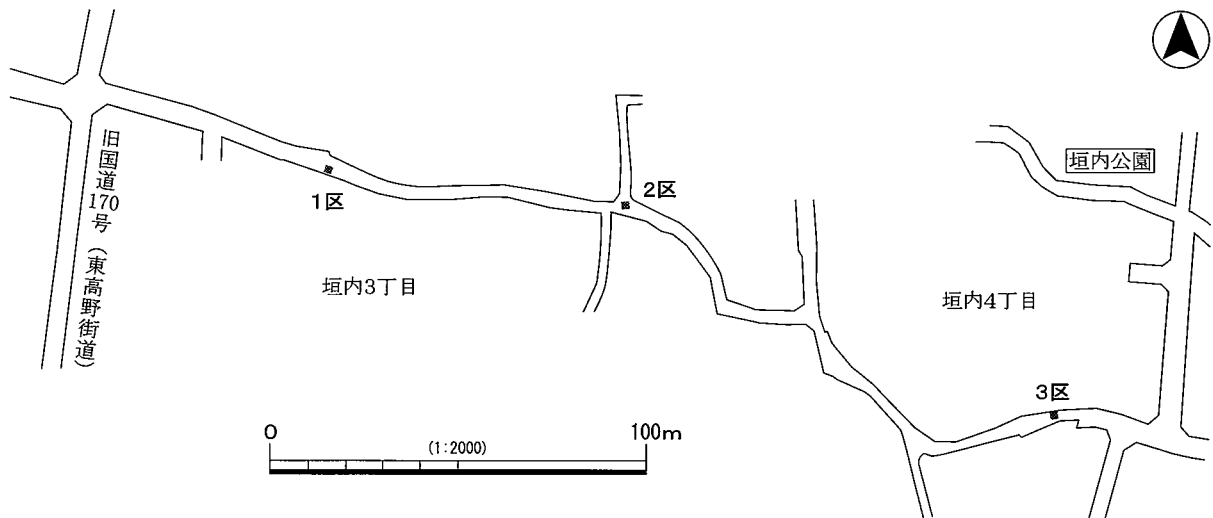
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市垣内3丁目地内他で実施した下水道工事(25-32工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第18次調査(KR2014-18)、及び高安古墳群内で行った第8次調査(T2014-8)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分3箇所(西から1~3区)で、総面積は約7㎡を測る。1・2区が郡川遺跡内、3区が高安古墳群内に位置している。

調査は現地表(T.P.+15.5~36.6m)下2.3~2.5mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では各調査区周辺に位置する工事使用のベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

#### 1区

0層は盛土である。1層はシルト~中粒砂の互層、2層は粘土基調で、共に水成層である。3層以下はいわゆる地山層で、固く締まる層相である。3層は土壌化層で暗色を呈する。

#### 2区

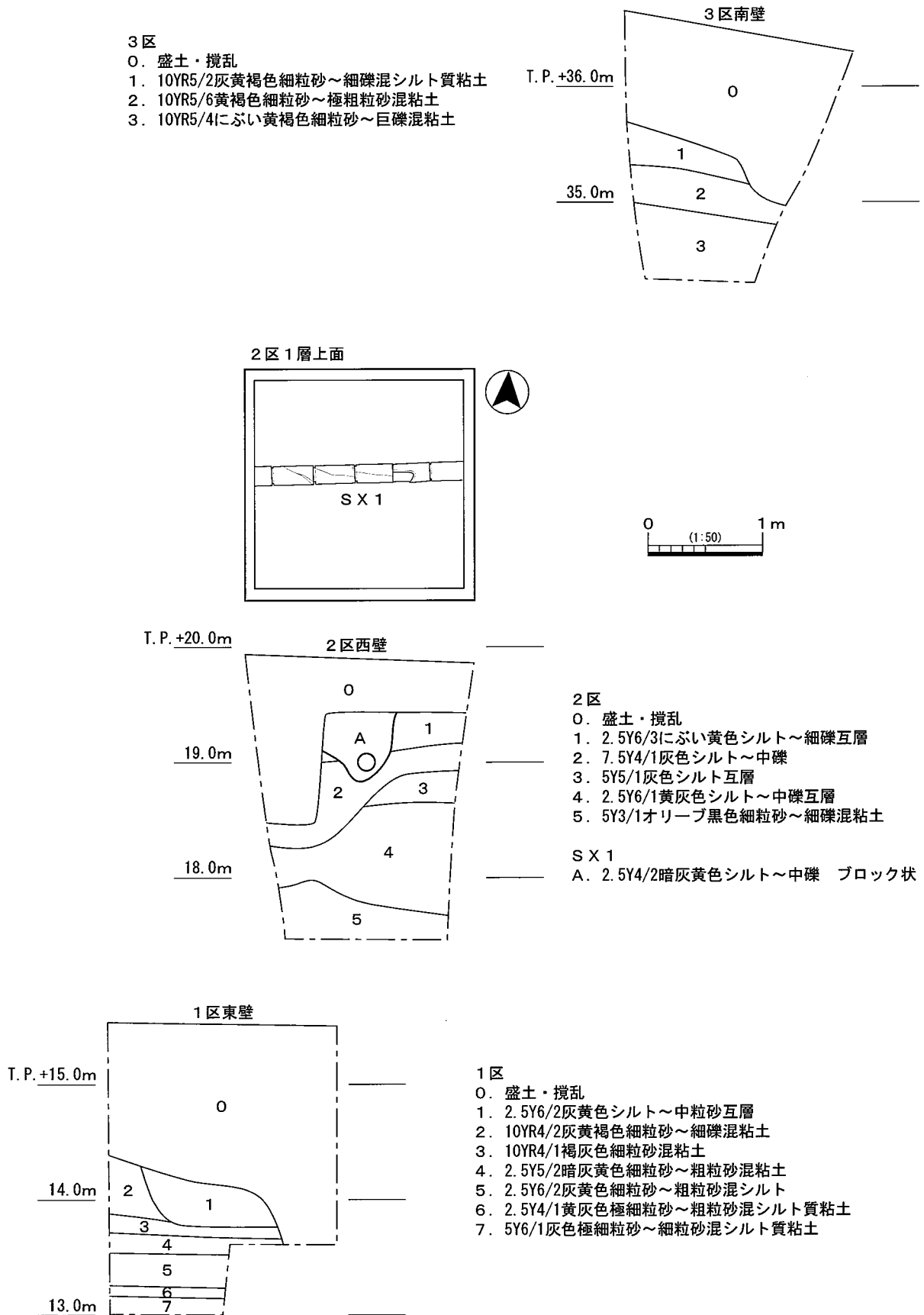
0層は盛土である。1~4層はシルト~中礫の互層からなる水成層である。5層粘土基調の水成層である。

#### 3区

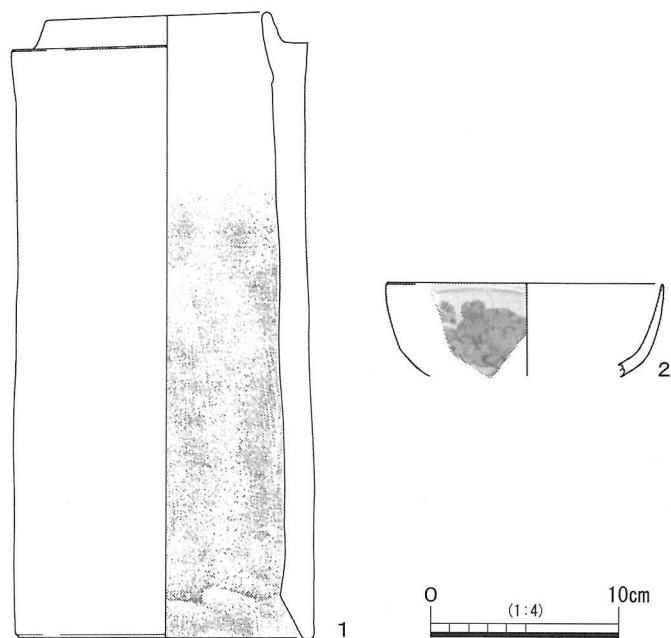
0層は盛土である。1~3層は粘土基調のいわゆる地山層である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

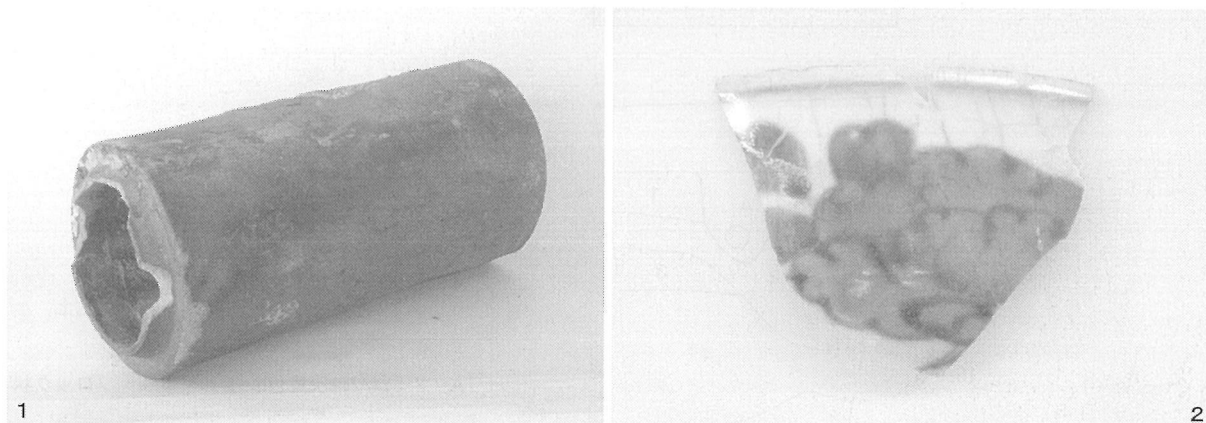
2区1層上面(T.P.+19.4m)で導水施設1基(S X 1)を検出した。東西方向の溝底部に導水管として瓦管(検出部分では6個確認)を連結させたもので、いわゆる暗渠である。溝は幅60cm以上、深さ60cm以上を測り、流水方向は東から西である。瓦管は玉縁付き丸瓦を2枚合わせた形状で、丸瓦製作工程においては模骨を抜いて半裁する前のものといえる。瓦管(1)の法量は長さ33.0cm、直径16.0cmを測る。溝内からは19世紀頃に比定される磁器碗(2)が出土した。



第3図 平断面図



第4図 出土遺物



### 3. まとめ

今回の調査では、2区で近世の導水施設1基(SX1)を検出したほか、全域で扇状地性堆積や地山層を確認した。SX1以外ではいずれの調査区でも遺物や遺物包含層は認められず、居住地にはなっていないものと捉えられる。

#### 参考文献

- ・坪田真一2002『教興寺跡<第1次調査・第2次調査> 財団法人八尾市文化財調査研究会報告72』財団法人八尾市文化財調査研究会



1区機械掘削(東から)



1区東壁



2区S X 1 (東から)



2区S X 1 (南から)



2区S X 1 西壁



2区西壁



3区調査地(西から)



3区南壁





XVIII 郡川遺跡第19次調査(K R 2014-19)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市垣内一丁目地内他で実施した下水道工事(26-21工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第19次調査(KR2014-19)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年12月12日～12月14日(外業実働2日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約7.0㎡である。
1. 現地調査においては、垣内洋平、北垣治男、百々勝弘の参加を得た。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	97
2. 調査概要	98
1) 調査の方法と経過	98
2) 基本層序	98
3) 検出遺構と出土遺物	98
3. まとめ	98

## XVIII 郡川遺跡第19次調査 (KR 2014 - 19)

### 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部に位置する。今回報告する郡川遺跡は、本市の東部、現在の行政区画では、郡川一～五丁目、教興寺一～七丁目、黒谷一～五丁目、垣内一～五丁目の東西約 1.1 km、南北約 1.2 km がその範囲とされている。

地形的には、生駒山地西麓部を西流する小河川により形成された扇状地から扇状地性低地に展開する遺跡で、遺跡の東半分は T.P. +30.0～70.0m を測る急勾配を成し、南北に延びる東高野街道(旧国道 170 号)付近を境に、西半分は T.P. +11.0～30.0m の緩斜面を形成している。遺跡の西側には、国道 170 号大阪外環状線を境に、玉串川、恩智川の氾濫原が広がっている。

本遺跡は、昭和 63(1988)年に行われた八尾市教育委員会による遺構確認調査により、古墳時代中～後期の遺構、遺物が検出され、その存在が明らかになった。以降、八尾市教育委員会や当調査研究会による多次に亘る調査が断続的に行われており、縄文時代中期末～中世にかけての複合遺跡として認識されるようになった。

本遺跡の周辺には、北に水越遺跡、南に恩智遺跡が同地形上において縄文時代～中世の遺跡を形成するほか、東には古墳時代後期以降、爆発的に増加する高安古墳群が広がっている。また遺跡内には、高安古墳群の先駆けと位置づけられる後期前方後円墳である郡川西塚古墳、郡川東塚古墳が東高野街道を挟んで対峙するほか、飛鳥時代創建と推測される教興寺跡が存在する。

今回の調査地は、郡川遺跡の南端に位置する。東西に延びる市道を境に、南は恩智遺跡になる。



第1図 調査地周辺図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市垣内一丁目地内他で実施した下水道工事(26-21工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第19次調査(KR2014-19)にあたる。

調査区は人孔部分2箇所(西から1・2区)である。1区は、平面規模が約2.0×2.0m、面積約4.0㎡の正方形、2区は、平面規模が約1.6×1.6㎡、面積約2.56㎡の正方形を呈する。総面積は約7.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(1区:T.P.+11.87m 2区:T.P.+12.04m)下2.5mまでを人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。

調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

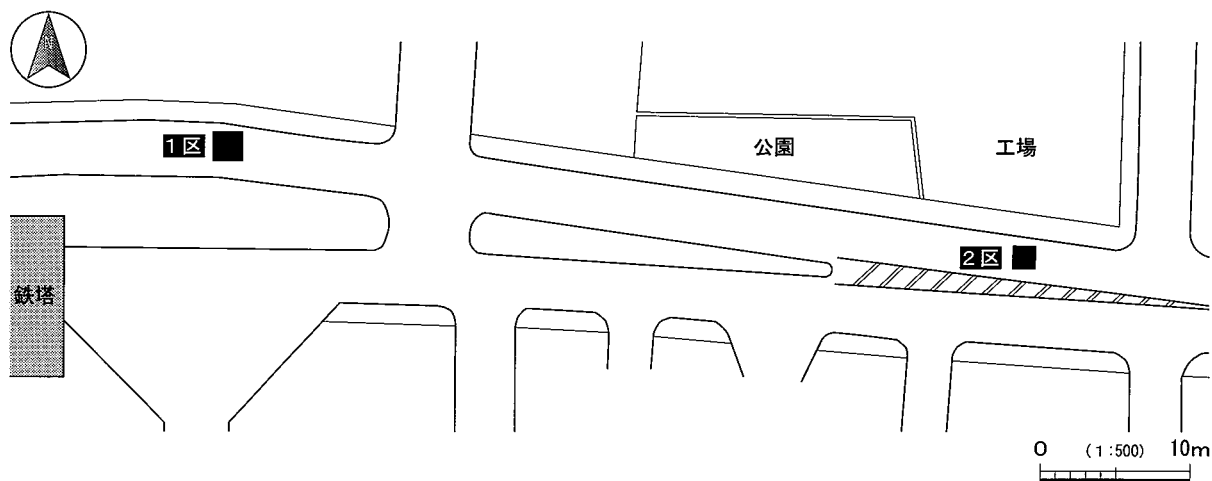
現地表(1区:T.P.+11.87m 2区:T.P.+12.04m)下1.4~1.6mまでは客土・盛土層・攪乱(0層)である。以下現地表下2.5mまでで、4層の基本層序を確認した。1層は2区で確認した土壌化層(T.P.+10.4m)である。作土層の可能性がある。2~4層は河川堆積層(2層:T.P.+10.5m 3層:T.P.+10.1m以下 4層:T.P.+10.2m以下)である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

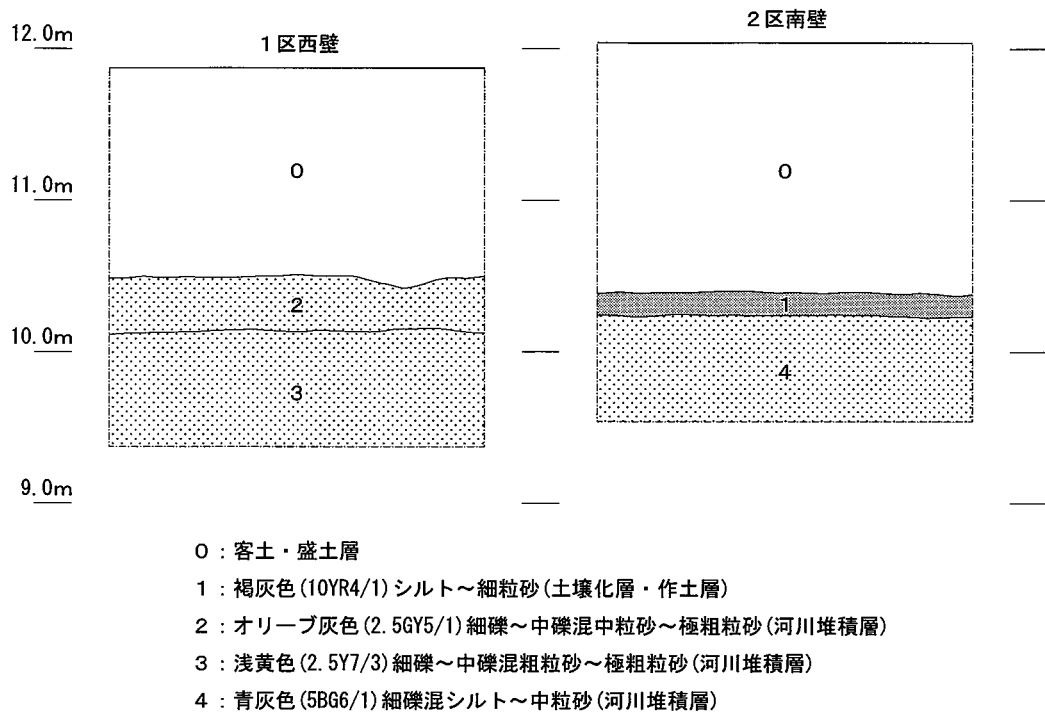
なし。

## 3. まとめ

今回の調査では、1・2区において2~4層河川堆積層が存在するほか、2区では、この上位において作土層(1層)が形成される様相を確認することができた。出土遺物が皆無であるため、各地層の形成時期は不明であるが、概ね本地一帯は、河川域に位置したほか、河川の移動後には生産域として利用されていたことが明らかになった。



第2図 調査区位置図



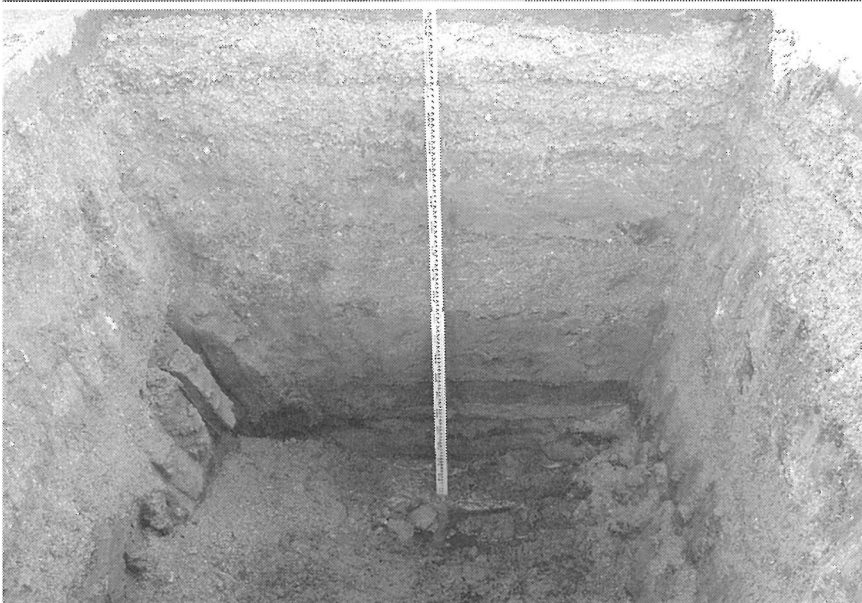
第3図 断面図 (S = 1/50)



調査地周辺状況(南西から)



1区西壁(東から)



2区南壁(北から)

XIX 郡川遺跡第20次調査(K R 2014—20)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市郡川一丁目地内他で実施した下水道工事(25-6工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第20次調査(K R2014-20)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年12月15日(外業実働1日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約3.0㎡である。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本文目次

1. はじめに	101
2. 調査概要	102
1) 調査の方法と経過	102
2) 基本層序	102
3) 検出遺構と出土遺物	102
3. まとめ	102



## XIX 郡川遺跡第20次調査 (KR 2014 - 20)

### 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部に位置する。今回報告する郡川遺跡は、本市の東部、現在の行政区画では、郡川一～五丁目、教興寺一～七丁目、黒谷一～五丁目、垣内一～五丁目の東西約 1.1 km、南北約 1.2 km がその範囲とされている。

地形的には、生駒山地西麓部を西流する小河川により形成された扇状地から扇状地性低地に展開する遺跡で、遺跡の東半分は T.P. +30.0～70.0m を測る急勾配を成し、南北に延びる東高野街道(旧国道 170 号)付近を境に、西半分は T.P. +11.0～30.0m の緩斜面を形成している。遺跡の西側には、国道 170 号大阪外環状線を境に、玉串川、恩智川の氾濫原が広がっている。

本遺跡は、昭和 63(1988)年に行われた八尾市教育委員会による遺構確認調査により、古墳時代中～後期の遺構、遺物が検出され、その存在が明らかになった。以降、八尾市教育委員会や当調査研究会による多次に亘る調査が断続的に行われており、縄文時代中期末～中世にかけての複合遺跡として認識されるようになった。

本遺跡の周辺には、北に水越遺跡、南に恩智遺跡が同地形上において縄文時代～中世の遺跡を形成するほか、東には古墳時代後期以降、爆発的に増加する高安古墳群が広がっている。また遺跡内には、高安古墳群の先駆けと位置づけられる後期前方後円墳である郡川西塚古墳、郡川東塚古墳が東高野街道を挟んで対峙するほか、飛鳥時代創建と推測される教興寺跡が存在する。

今回の調査地は、郡川遺跡の西端に位置する。周辺では、本地の北東約 200m において第 3 次調査が行われ、縄文土器が出土したほか、弥生時代後期～古墳時代初頭に比定される竪穴住居が検出された。続く古墳時代初頭～前期については、周溝墓や土器棺墓が検出されたことにより、当地が居住域から墓域に変貌を遂げたことが明らかになった。一方、中世以降は、耕作溝や島畑が検出されており、生産域として機能していたことが明らかになった。



第 1 図 調査地周辺図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市郡川一丁目地内他で実施した下水道工事(25-6工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第20次調査(KR2014-20)にあたる。

調査区は人孔部分(規模約1.6×1.6m)1箇所、総面積は約3.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(T.P.+10.44m前後)下2.3mまでを人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。なお、調査は夜間に実施された。

調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

現地表(T.P.+10.44m)下0.7mまでは客土・盛土層・攪乱(0層)である。以下現地表下2.3mまでで、2層の基本層序を確認した。1層は、シルト～極粗粒砂優勢の河川堆積層(T.P.+9.75m)である。ラミナ構造を認める。2層は粘土質シルト～シルト優勢の河川堆積層(T.P.+8.8m以下)である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

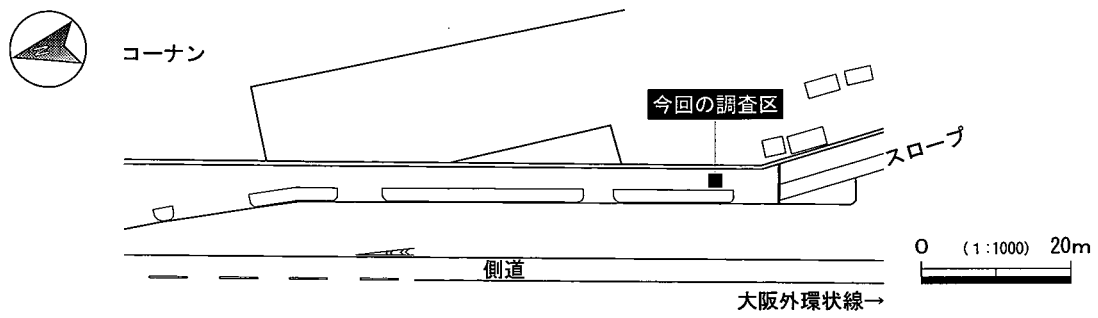
なし。

## 3. まとめ

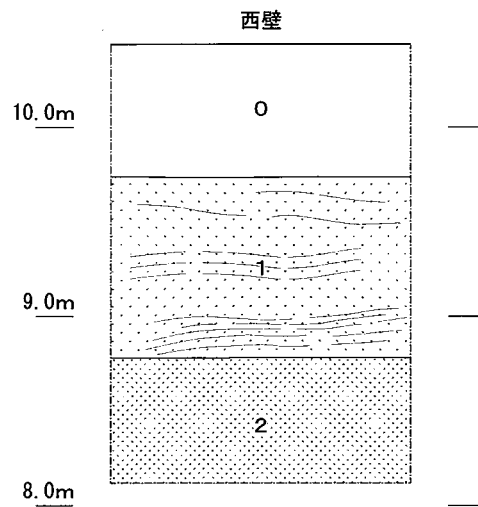
今回の調査では、0層直下において1・2層河川堆積層が存在することを確認した。出土遺物が皆無であったため、地層の形成時期は不明であるが、本地一帯が、一時期河川域に位置したことが明らかになった。

### 【参考文献】

・坪田真一2006「I 郡川遺跡(第3次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告92』財団法人八尾市文化財調査研究会



第2図 調査区位置図



- 0 : 客土・盛土層
- 1 : 明黄褐色 (2.5Y7/6) ~ 灰色 (N6/) シルト ~ 極粗粒砂 (河川堆積層・ラミナ)
- 2 : 灰色 (N4/) 粘土質シルト ~ シルト (河川堆積層)

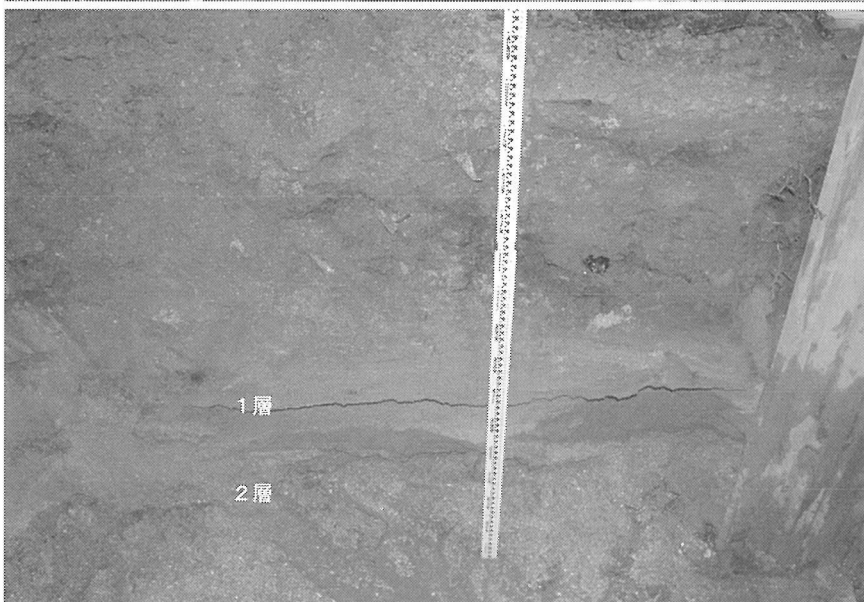
第3図 断面図 (S = 1/40)



調査地周辺状況(南から)



調査区掘削状況(北から)



西壁断面(東から)

XX 郡川遺跡第21次調査(K R 2014-21)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市垣内二丁目地内で実施した下水道工事(26-106工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する郡川遺跡第21次調査(KR2014-21)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成27年1月29日(外業実働1日)に、平田洋司を調査担当者として実施した。調査面積は約2㎡である。
1. 現地調査においては、芝崎和美・百々勝広の参加を得た。
1. 内業整理業務は平田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は平田が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	105
2. 調査概要	106
1) 調査の方法と経過	106
2) 基本層序	106
3. まとめ	106

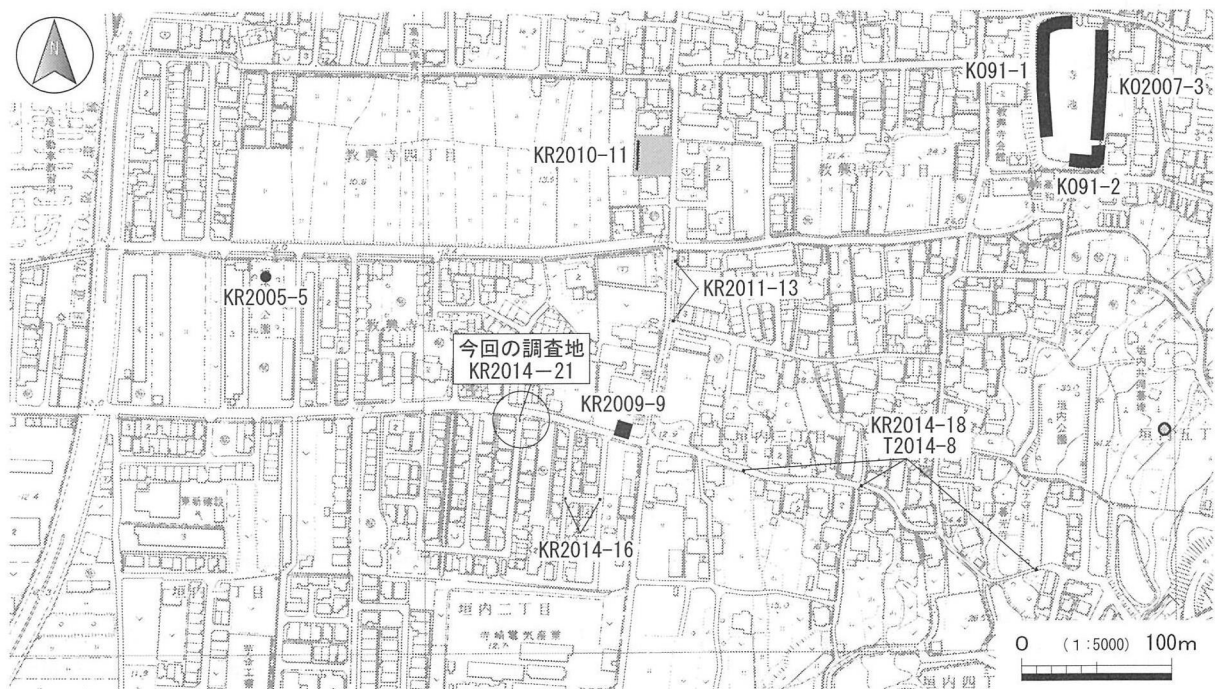
## XX 郡川遺跡第21次調査 (KR 2014 - 21)

### 1. はじめに

郡川遺跡は大阪府八尾市の東部に位置し、現在の行政区画の郡川1～5丁目・教興寺1～7丁目・黒谷1～5丁目・垣内1～5丁目にあたる東西約1.1km・南北約1.2kmの範囲が遺跡範囲とされている。生駒山西麓から西に広がる河内平野に続く扇状地上に立地しており、地形的には西半部がT.P. +11～30mを測る緩斜面、東半部が30～70mを測る急斜面となっている。西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で水越遺跡、南側で恩智遺跡と接しており、東側の生駒山地西麓地域一帯には、古墳時代後期の群集墳を中心とする高安古墳群が広がっている他、東部には古代寺院である教興寺跡が存在する。

当遺跡では以前から、縄文時代後期とされる磨製石斧や、弥生・古墳時代の土器が採集されており、北の水越遺跡、南の恩智遺跡と同様の遺跡の存在が想定されていた。最初の発掘調査は、昭和63年に実施された八尾市教育委員会による遺構確認調査であり、古墳時代中期～後期の集落が確認された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次にわたる発掘調査が行われており、当遺跡は南方の生駒山地西麓に位置する恩智遺跡と同様、縄文時代には扇状地末端部に集落が形成され、以降連続と続く集落遺跡であると認識されている。

今回の調査地付近では、下水道工事に伴う第9・13・16次調査、民間開発に伴う第11次調査など多くの調査を実施している。調査地の北東から南東に位置する第9・13・16次調査では河川堆積・土石流等の扇状地性堆積層を確認しており、谷の内部に位置していることが判明した。一方、これらの調査地より北側に位置する第11次調査では弥生時代前期～古墳時代前期の遺構を検出しており、長期に亘り居住域となっていることを確認している。



第1図 調査地周辺図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市垣内二丁目地内で実施された下水道工事(26-106工区)に伴う調査で、当調査研究会が郡川遺跡内で行った第21次調査(KR2014-21)である。

調査地は道路上に設置される人孔部分1箇所(約1.0×2.0m)で、総面積は約2㎡である。

調査は工事掘削深度となる現地表(T.P.+12.4m)下約2.2mまでについて、機械・人力掘削併用で実施した。調査では八尾市街区多角点10D53(調査地東方交差点:T.P.+13.552m)を標高の基準とした。



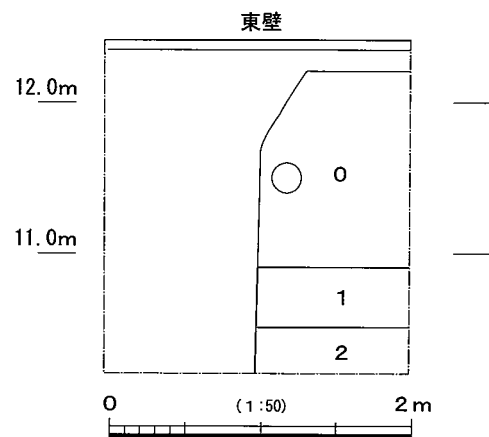
第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

現地表下2.2m(T.P.+10.2m)までの地層を0～2層に細分した。0層は客土・盛土層・攪乱である。埋設管等による攪乱が多く、特に北半ではマンホール敷設時の攪乱が掘削深度まで及んでいる。1層は大礫を多く含む土石流状の扇状地性堆積層(T.P.+10.9m)で層厚は0.4mである。上面は削平を受けている。2層は極細粒砂質シルトからなる扇状地堆積層(T.P.+10.5m)で層厚は0.3m以上である。

### 3. まとめ

今回の調査地では、現代相当層直下において土石流などの扇状地性堆積層を確認した。出土遺物が皆無であったため、地層の形成時期は不明であるが、東方で実施されたこれまでの調査結果と同様に本地一帯が東西方向の谷内であったと推測される。



- 0 : 客土・盛土層・攪乱
- 1 : 暗緑灰色(5G4/1)大礫混りシルト質粗粒砂(扇状地堆積層)
- 2 : オリーブ黒色(7.5Y3/1)極細粒砂質シルト(扇状地堆積層)

第3図 断面図(S=1/50)



参考文献

- ・高萩千秋2011「Ⅵ 郡川遺跡第 9 次調査 ( K R 2009- 9 )」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2011「Ⅱ 郡川遺跡第11次調査 ( K R 2010-11 )」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告135』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋2013「Ⅲ 恩智遺跡第26次調査 ( O J 2012-26 ) ・郡川遺跡第13次調査 ( K R 2012-13 )」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』公益財団法人八尾市文化財調査研究会



調査地周辺状況(北から)



東壁断面北半(西から)



東壁断面南半(西から)

XXI 水越遺跡第16次調査(MK2014-16)

## 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市服部川6丁目地内で実施した下水道工事(25-29工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する水越遺跡第16次調査(MK2014-16)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年4月25日～4月28日(外業実働2日)に、坪田真一を調査担当者として実施した。調査面積は約6㎡である。
1. 現地調査においては、國津玲子・村井俊子・村田知子の参加を得た。
1. 内業整理業務は坪田が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は坪田が行った。

## 本文目次

1. はじめに	109
2. 調査概要	110
1) 調査の方法と経過	110
2) 基本層序	110
3. まとめ	110

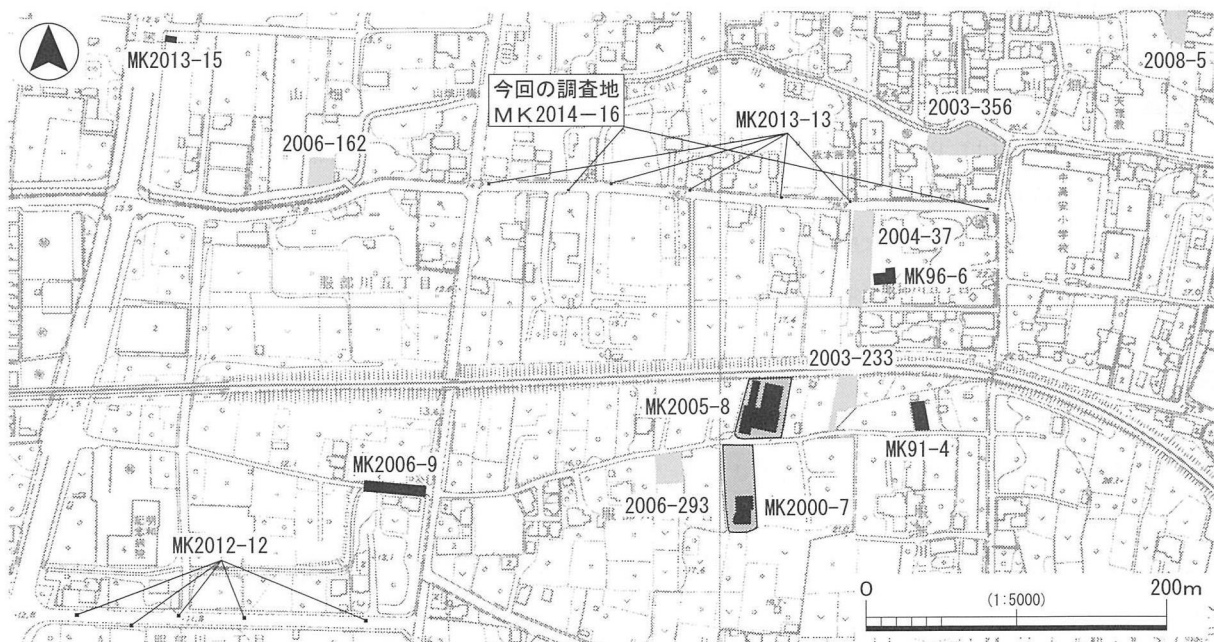
## XXI 水越遺跡第16次調査 (MK2014-16)

### 1. はじめに

水越遺跡は八尾市の北東部に位置し、現在の行政区画では西高安町1丁目、水越2・5・7丁目、千塚1～3丁目、服部川1～7丁目、神立1丁目、及び千塚、大窪、山畑、服部川一帯の約1.2km四方がその範囲とされている。地形的には生駒山西麓から河内平野に続く扇状地上に立地し、西側には旧大和川の主流であった玉串川・恩智川の氾濫原が広がっている。当遺跡は北側で太田川遺跡・大竹遺跡、南側で郡川遺跡・高麗寺跡に接しており、東側には高安古墳群・高安千塚古墳群が広がっている。

当遺跡では大正9年に清原得巖氏により石鏟が採集されて以来、縄文時代の石器や弥生～古墳時代の土器・玉作関係資料が多く採集され、「高安遺跡」・「千塚遺跡」等の名称で遺跡の存在が知られていた。そして昭和53年に最初の発掘調査として、大阪府教育委員会によって大阪府立清友高等学校建設に伴う調査(S53府教委)が実施された。調査では既知の採集資料と同様の成果が得られた他、弥生時代～古墳時代の集落遺構(井戸・溝・方形周溝墓・方墳・土器棺等)、中世の集落遺構(掘立柱建物・井戸等)が検出された。その後、八尾市教育委員会・当調査研究会により多次に亘る発掘調査が行われており、これらの調査成果から、当遺跡は縄文時代中期～近世の複合遺跡であることが認識されている。

今回の調査地は遺跡範囲中心に近い東西道路上にあたる。同道路上では第13次調査を実施している他、周辺では南東部で研究会第4・6・7・8次調査を実施している。これらの調査では弥生時代後期を中心とした遺構・遺物が検出され、この一帯が該期の集落域であったことが確認されている。さらに第7次調査では縄文時代晩期の土器埋納ピットの可能性がある遺構の他、平安時代では土坑や地鎮祭祀を示唆するような土器埋納ピットが検出されており特筆される。



第1図 調査地位置図

## 2. 調査概要

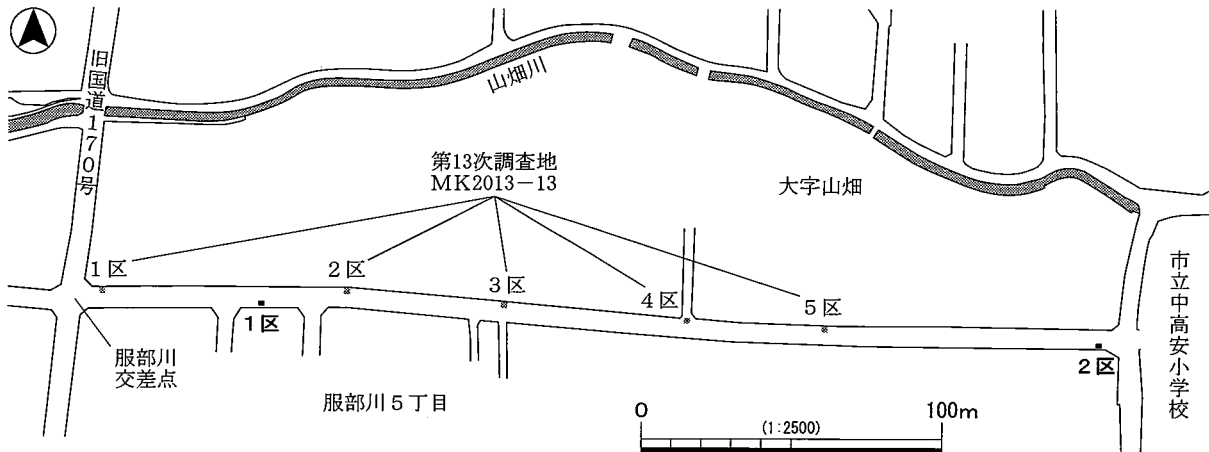
### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は八尾市服部川6丁目地内で実施した下水道工事(25-29工区)に伴う調査で、当調査研究会が水越遺跡内で行った第16次調査(MK2014-16)である。

調査地は人孔部分2箇所(約1.5×2.0m：西から1・2区)で、総面積は約6㎡を測る。

調査は現地表(T.P.+15.1~20.9m)下約3.0mについて、機械・人力掘削併用で実施した。

調査では調査区付近に位置する工事使用のベンチマークを標高の基準とした。



第2図 調査区位置図

### 2) 基本層序

#### 1区

現地表面の標高はT.P.+15.1mである。0層は盛土、及び既設管路・水路等による攪乱である。1層以下は水成層である。1・2層はシルト～細粒砂の互層である。3層はシルト質粘土を基調とする。4層はシルト～粗粒砂の互層で、東部ほどシルト優勢となる。5層は細粒砂～中礫互層からなる洪水層である。6層は湿地性堆積である。

#### 2区

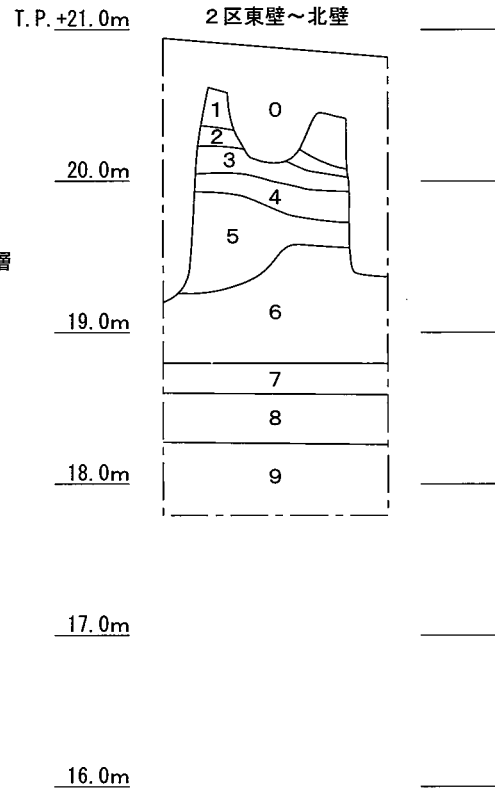
現地表面の標高はT.P.+20.9mである。0層は盛土、及び既設管路・水路等による攪乱である。1層はシルト質粘土～シルトの互層、2・3層は極細粒砂～細礫の互層からなる水成層である。4層はシルト質粘土基調の水成層で、土壌化層と考えられる。5・7層は細粒砂～中礫基調、6・8層は粘土質シルト～極細粒砂基調の水成層である。9層は湿地性堆積である。

### 3. まとめ

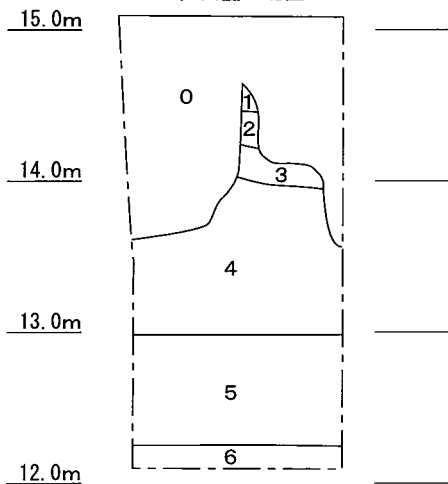
調査では両調査区で水成層の堆積が続くことが確認され、遺構・遺物は見られなかった。2区では4層が土壌化層の可能性があるものの、生活の痕跡は認められなかった。1区の西部にあたる第13次調査1区では、弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物包含層を確認しているが、集落域は本調査地まで広がらないか、あるいは河川・洪水等により当該層は削平されているのかもしれない。

2区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 10YR2/2黒褐色シルト質粘土～シルト互層 水成層
- 2. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂混細粒砂 水成層
- 3. 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂～細礫 水成層
- 4. 10YR2/2黒褐色細粒砂～中礫混シルト質粘土 土壌化層 水成層
- 5. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂～細礫 水成層
- 6. 2.5Y6/2灰黄色粘土質シルト～極細粒砂互層 水成層
- 7. 2.5Y5/1黄灰色細粒砂～中礫 水成層
- 8. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト～極細粒砂 水成層
- 9. 5Y6/1灰色粘土 水成層

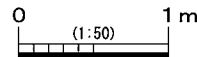


1区西壁～北壁



1区

- 0. 盛土・攪乱
- 1. 7.5GY4/1暗緑灰色シルト～極細粒砂 水成層
- 2. 5Y5/1灰色シルト～細粒砂 水成層
- 3. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土 水成層
- 4. 7.5Y5/1灰色シルト～粗粒砂互層 植物遺体 水成層
- 5. 7.5Y5/1灰色細粒砂～中礫 水成層
- 6. 5GY3/1暗オリーブ灰色細粒砂混粘土質シルト 水成層



第3図 断面図

#### 参考文献

- ・高萩千秋1992「Ⅷ 水越遺跡第4次調査(MK91-4)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 財団法人八尾市文化財調査研究会報告34』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋1998「ⅩⅧ 水越遺跡第6次調査(MK96-6)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子「Ⅱ 水越遺跡第7次調査(MK2000-7)」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告2 平成12年度』八尾市教育委員会・財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一・米井友美2011「Ⅵ 水越遺跡第8次調査(MK2005-8)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告135』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・坪田真一2014「ⅩⅤ 水越遺跡第13次調査(MK2013-13)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告142』公益財団法人八尾市文化財調査研究会





1区調査地(西から)



1区機械掘削(南から)



1区西壁上部



1区北壁下部



1区北壁最下部



2区調査地(東から)



2区東壁上部



2区北壁下部



XXI 水越遺跡第18次調査(MK2014-18)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市水越一丁目地内で実施した下水道工事(26-5工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する水越遺跡第18次調査(MK2014-18)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年11月25日～11月27日(外業実働3日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約3.0㎡である。
1. 現地調査においては、垣内洋平、村井俊子、百々勝弘の参加を得た。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本 文 目 次

1. はじめに	115
2. 調査概要	116
1) 調査の方法と経過	116
2) 基本層序	116
3) 検出遺構と出土遺物	116
3. まとめ	116

## XXII 水越遺跡第18次調査 (MK2014-18)

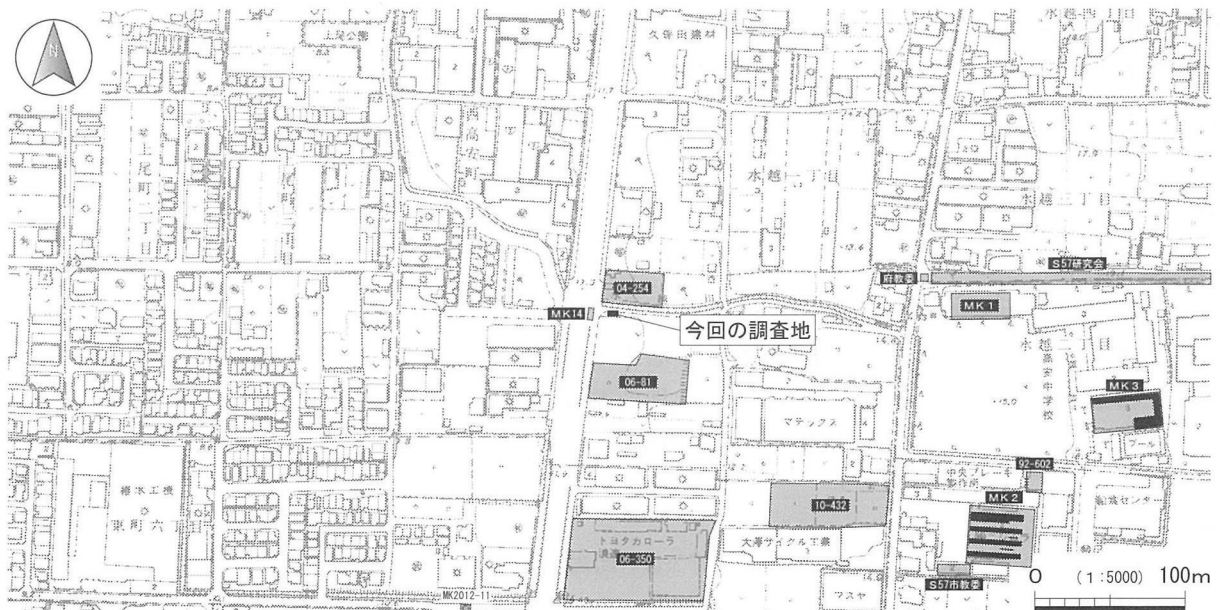
### 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部を占める。今回報告する水越遺跡は、本市の東部、現在の行政区画では、西高安町一丁目、水越二・五・七丁目、千塚一～三丁目、服部川一～七丁目、神立一丁目、及び千塚、大窪、山畑、服部川の東西約1.25km、南北約1.2kmがその範囲とされている。

地形的には、生駒山地西麓部を西流する小河川により形成された扇状地から扇状地性低地に展開する遺跡で、遺跡の東半分は T.P. +30.0～70.0mを測る急勾配を成し、南北に延びる東高野街道(旧国道170号)付近を境に、西半分は T.P. +11.0～30.0mの緩斜面を形成している。遺跡の西側には、国道170号大阪外環状線を境に、玉串川、恩智川の氾濫原が広がっている。

本遺跡は、大正9(1920)年、清原得厳氏によって石鏃が採取されたことに端を発する。その後、昭和5(1930)年には、勾玉研磨用の筋砥石をはじめ、滑石製小玉や管玉の未成品といった石製品が表採されたほか、昭和9(1934)年には、東高野街道(現、旧国道170号線)の改修工事が行われ、弥生時代後期に帰属する土器の出土を見た。昭和53(1978年)、本遺跡内において初となる本格的な調査(府立清友高校新設工事に伴う発掘調査)が大阪府教育委員会により行われ、縄文～鎌倉時代の遺構、遺物が検出された。特に弥生～古墳時代にかけては、方形周溝墓をはじめとする墓域を検出したほか、古墳時代中期には玉作りに関連する遺跡であったことを示唆する滑石製管玉の未成品などの石製品が多く出土した。この内後者については、本遺跡の東部に鎮座する式内社玉祖神社との有機的な関係が注目される。その後、八尾市教育委員会、当調査研究会による多次に亘る調査が行われ、縄文時代中期～近世に至る複合遺跡として認識されるようになってきた。

本遺跡の周辺には多くの遺跡が存在する。北には、弥生時代後期初頭の鑄造鉄剣や古墳時代前



第1図 調査地周辺図

期の瑪瑙製鏃形石製品が出土した大竹西遺跡をはじめ、大竹遺跡、太田川遺跡など縄文時代以降の複合遺跡が展開するほか、古墳時代中期前半に造営された中河内地域最大の前方後円墳である心合寺山古墳(墳丘長160m以上)や、中期後半に比定される鏡塚古墳(径約28mの円墳または前方後円墳と推定される)が知られる。東の生駒山地西麓に発達した尾根上には、古墳時代後期以降に築造された高安古墳群(180基以上)が群集している。南には、高安古墳群にさきがけて横穴式石室を採用し、盟主的な役割を担ったことが推測される郡川西塚古墳・郡川東塚古墳が、南北を貫く東高野街道を挟んで東西に対峙している。時代が下ると、本遺跡の南端付近に郡川廃寺(高麗寺跡：奈良時代前期～鎌倉時代)の建立が推測されるが、詳細は分かっていない。

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

今回の調査は、八尾市水越一丁目地内で実施した下水道工事(26-5工区)に伴う調査で、当調査研究会が水越遺跡内で行った第18次調査(MK2014-18)にあたる。

調査区は立坑部分(規模約7.6×4.0m)1箇所、総面積は約31.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(T.P.+13.37m前後)下2.0mまでを機械で掘削し、以下2.5mを人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。

調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

現地表(T.P.+13.37m)下1.2～2.3mまでは客土・盛土層・攪乱(0層)である。以下現地表下4.5mまでで、7層の基本層序を確認した。1～5層は扇状地性堆積層(1層:T.P.+12.2m 2層:T.P.+11.7m 3層:T.P.+11.25m 4層:T.P.+10.65m 5層:T.P.+10.25m)である。6層は土壌化層(T.P.+9.4m)である。7層は扇状地性堆積層(T.P.+8.95m以下)である。

### 3) 検出遺構と出土遺物

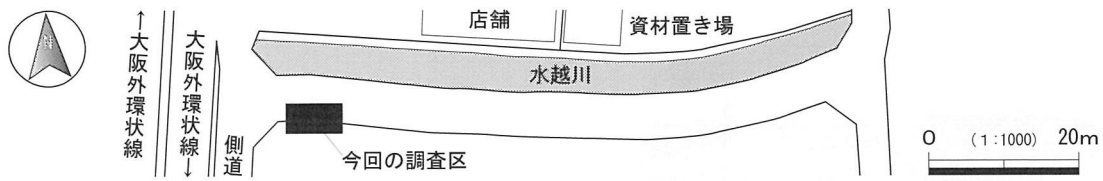
検出遺構はなし。出土遺物は、3層から弥生時代後期～古墳時代初頭に比定される土器細片が少量出土した。

## 3. まとめ

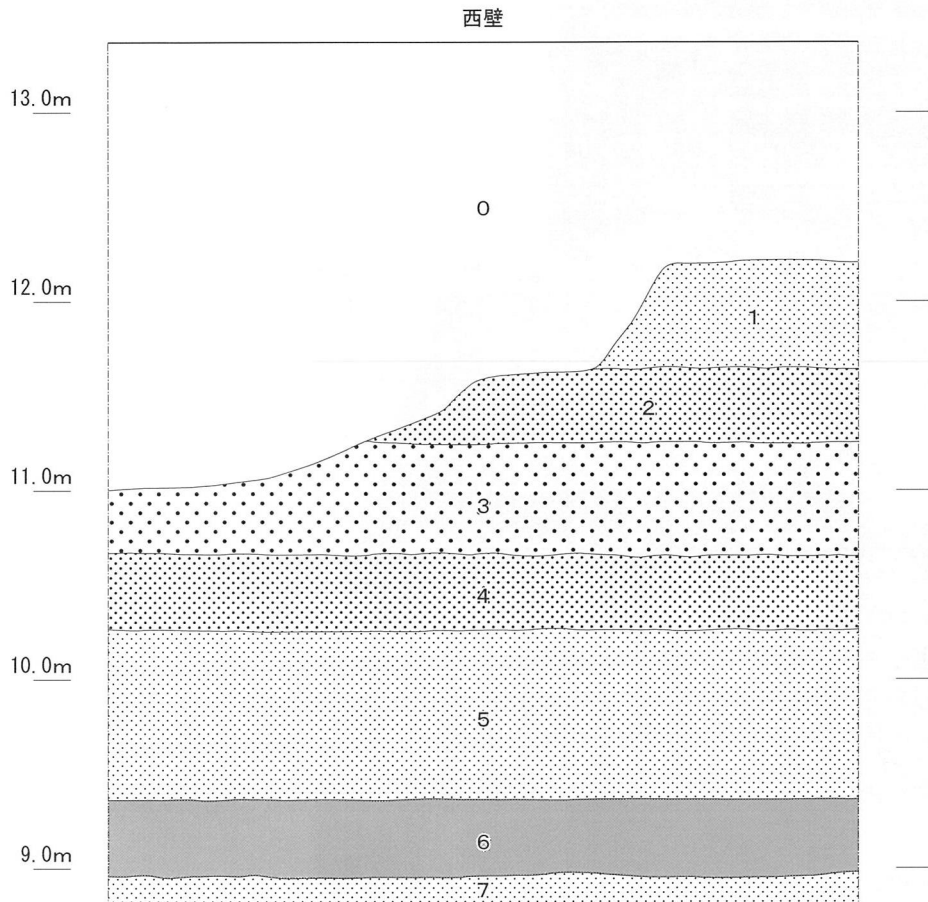
今回の調査では、扇状地性堆積層(1～5層・7層)と、土壌化層(6層)が存在することを確認した。この内、扇状地性堆積層については、本地の北側に西流する水越川が存在することから、この前身河川に伴う砂礫層と考えられる。6層土壌化層については、帰属時期は不明であるが、層厚は40cmを測ることから、一時期安定した地形環境にあったことが推測される。当該深度において遺跡が発見される可能性が考えられ、注意が必要と思われる。

### 【参考文献】

・坪田真一2014「XVI 水越遺跡(第14次調査)」『公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告143』公益財団法人八尾市文化財調査研究会

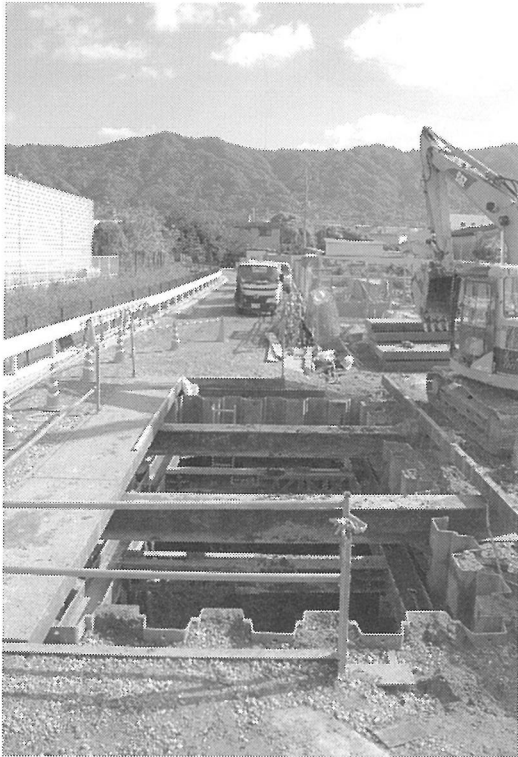


第2図 調査区位置図 (S = 1/1000)



- 0 : 客土・盛土層・攪乱
- 1 : にぶい黄橙 (10YR6/4) 色細粒砂 (扇状地性堆積層)
- 2 : 青灰色 (5BG5/1) シルト～細粒砂 (扇状地性堆積層)
- 3 : にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粗粒砂～中礫 (扇状地性堆積層・ラミナ顕著・弥生後期～古墳前期の土器片を含む)
- 4 : 青灰色 (10BG5/1) 細粒砂～中粒砂 (扇状地性堆積層)
- 5 : 灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト～シルト (扇状地性堆積層)
- 6 : 暗灰色 (N3/) 粗粒砂～細礫混粘土質シルト～シルト (土壌化層)
- 7 : 灰色 (N5/) 細粒砂～中粒砂 (扇状地性堆積層)

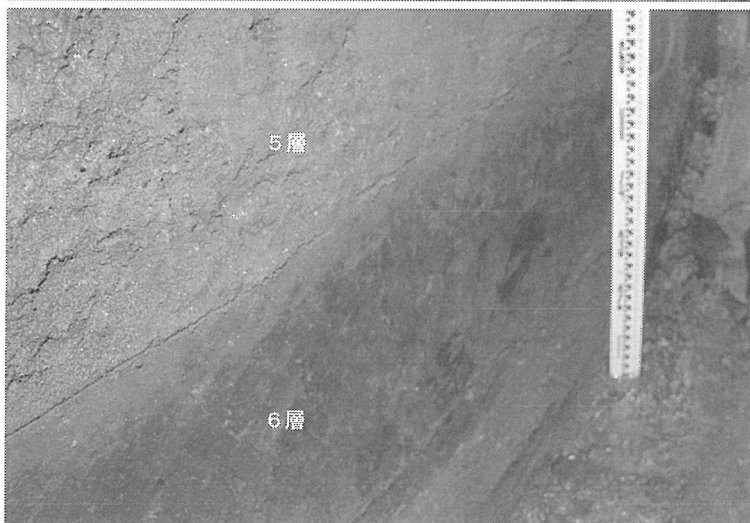
第3図 断面図 (S = 1/40)



調査地周辺状況(西から)



西壁(3層扇状地性堆積層:東から)



西壁(6層土壤化層:南東から)



XXIII 弓削遺跡第19次調査(Y G E 2014-19)

# 例 言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀町南二丁目地内他で実施した下水道工事(25-17工区)に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する弓削遺跡第19次調査(YGE2014-19)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財発掘調査指示書に基づき、公益財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成26年5月13日(外業実働1日)に、樋口 薫を調査担当者として実施した。調査面積は約4.0㎡である。
1. 内業整理業務は樋口が行い、現地調査終了後随時実施し、平成27年3月31日に完了した。
1. 本書の執筆・編集は樋口が行った。

# 本文目次

1. はじめに	119
2. 調査概要	120
1) 調査の方法と経過	120
2) 基本層序	120
3) 検出遺構と出土遺物	121
3. まとめ	121

## XXIII 弓削遺跡第19次調査 (YGE 2014 - 19)

### 1. はじめに

大阪府の東部に所在する八尾市は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川によって区画された河内平野の南東部に位置する。今回報告する弓削遺跡は、本市の南東部、現在の行政区画では、志紀町南二・四丁目、および弓削町三丁目、弓削町南三丁目の一部にあたり、東西約 0.5 km、南北約 0.7 km がその範囲とされている。地形的には、現長瀬川の左岸に形成された沖積地上に位置する。現地表面高を見ると、遺跡南端が最も高く標高 13.3m 前後、北西端が最も低く標高 12.8m で、比高差は約 0.5m を測る。概ね南から北に緩やかに傾斜する地形を有している。

本遺跡では、これまでに大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、当調査研究会により大小の調査が行われており、この結果、弥生時代前期以降の複合遺跡として認識されるようになった。

今回の調査地は、本遺跡の西部に位置する。周辺では、本地の東約 100m の地点で当研究会による第 1 次調査が行われ、弥生時代中期後半～平安時代初頭にかけての遺構・遺物が数多く検出された。特に T.P. +11.3～11.4m 前後の湿地性堆積層上面では、弥生時代後期前半の土器を多量に投棄したと推測される溝が検出された。出土遺物には、北近畿地方から搬入された可能性の高い土器が認められ、当地と北近畿地方との交流を示唆する成果として特筆される。

本遺跡の周辺には、同地形上に多くの遺跡が展開している。北東には長瀬川を挟んで東弓削遺跡が、北西には志紀遺跡や田井中遺跡が、西には木の本遺跡が存在ほか、南には、本遺跡と一連の遺跡と考えられる本郷遺跡(柏原市)が隣接している。



第 1 図 調査地周辺図

## 2. 調査概要

### 1) 調査の方法と経過

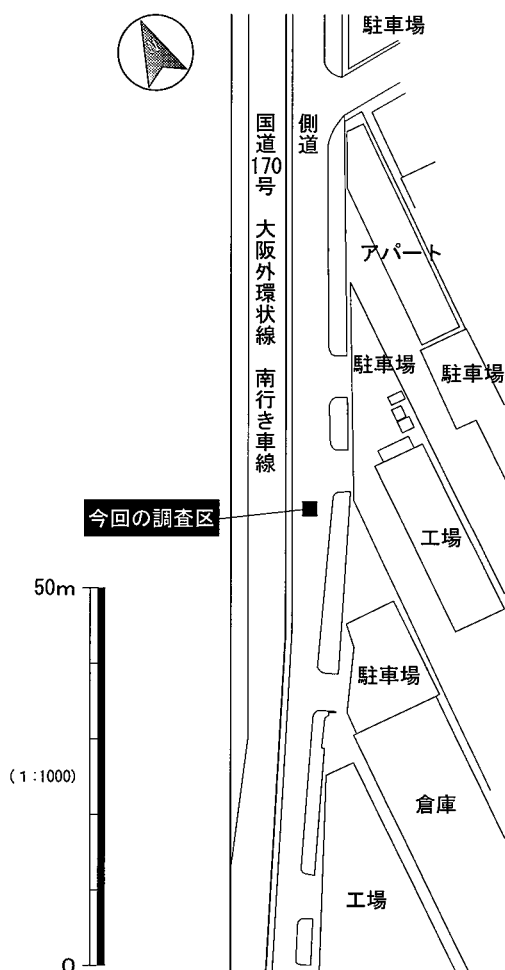
今回の調査は、八尾市志紀町南二丁目地内他で実施した下水道工事(25-17工区)に伴う調査で、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第19次調査(YGE2014-19)にあたる。

調査区は人孔部分(規模約2.0×2.0m)1箇所、総面積は約4.0㎡を測る。調査は、八尾市教育委員会作成の調査指示書に基づき、現地表(T.P.+14.4m前後)下3.2mまでを人力・機械を併用して掘削し、平面的な調査を実施、遺構・遺物の検出に努めた。なお、調査は夜間に実施された。

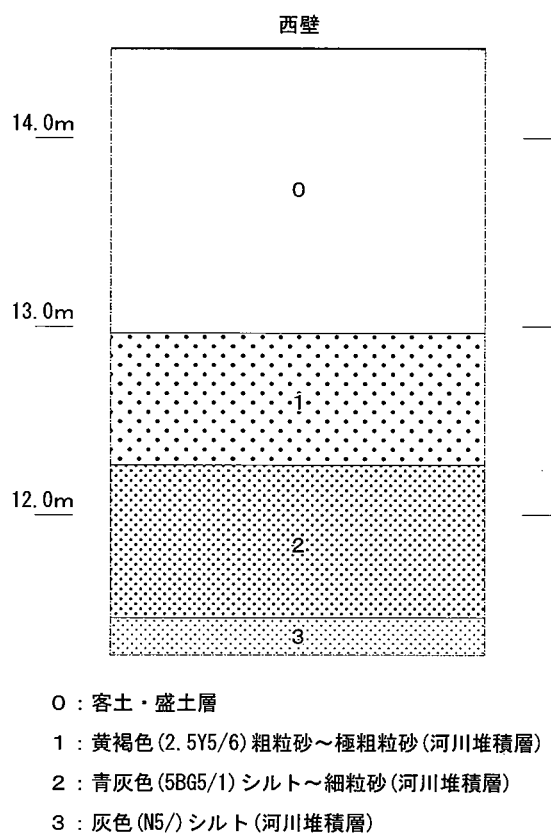
調査では、調査区周辺に点在する工事使用の仮ベンチマークを標高の基準とした。

### 2) 基本層序

現地表(T.P.+14.4m)下1.5mまでは客土・盛土層(0層)である。以下現地表下3.2mまでの1.7m間において、3層の基本層序を確認した。1層は粗粒砂～極粗粒砂優勢の河川堆積層(T.P.+13.0m)である。2層はシルト～細粒砂優勢の河川堆積層(T.P.+12.2m)である。3層はシルト優勢の河川堆積層(T.P.+11.5m以下)である。



第2図 調査区位置図



第3図 断面図(S=1/40)

### 3) 検出遺構と出土遺物

なし。

### 3. まとめ

今回の調査地では、0層直下において1～3層河川堆積層が存在することを確認した。出土遺物が皆無であったため、各地層の形成時期は不明であるが、本地一帯が一時期、河川域に位置したことが明らかになった。なお、第1次調査で検出された弥生時代後期の遺構群については、今回の調査では対応する深度まで掘削が及んでいない可能性が高く、詳細を明らかにすることはできなかった。

#### 参考文献

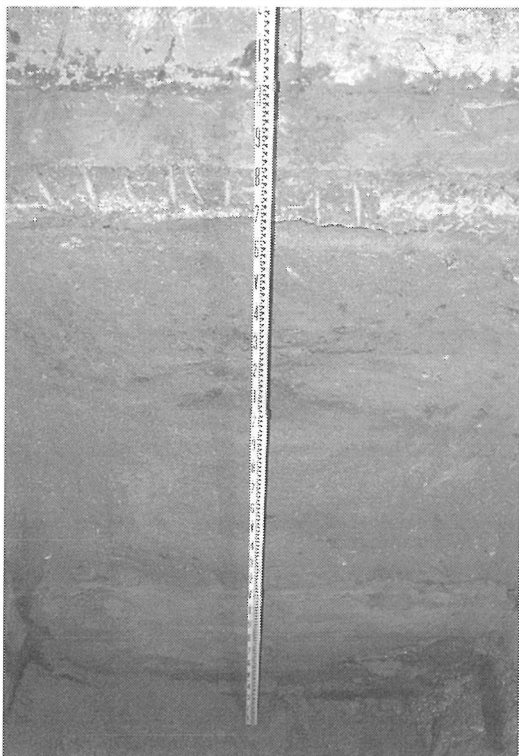
- ・西村公助・原田昌則2013『弓削遺跡 第1次調査 (公財)八尾市文化財調査研究会報告142』(公財)八尾市文化財調査研究会



調査区周辺状況(南から)



掘削状況(東から)



西壁断面(東から)

# 報告書抄録

ふりがな	おおたいせき おおたがわいせき おんぢいせき がくおんじいせき きのもといせき きゅうほうじいせき こおりがわいせき たかやすこふんぐん みずこしいせき ゆげいせき				
書名	太田遺跡 太田川遺跡 恩智遺跡 楽音寺遺跡 木の本遺跡 久宝寺遺跡 郡川遺跡 高安古墳群 水越遺跡 弓削遺跡				
副書名	下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査				
シリーズ名	公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告				
シリーズ番号	146				
編集者名	坪田真一(編) 西村公助 樋口 薫 平田洋司 大塚 隆				
編集機関	公益財団法人八尾市文化財調査研究会				
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2 TEL・FAX 072-994-4700				
発行年月日	西暦2015年3月31日				

所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おおたいせき 太田遺跡 (第18次調査)	おおさかふやおおたしんまち3ちようめ 大阪府八尾市太田新町3丁目	27212	68	34度 35分 35秒	135度 35分 14秒	20141113	約4	記録保存調査 公共下水道工事 (25-205工区)
おおたがわいせき 太田川遺跡 (第4次調査)	おおさかふやおしみずこし4ちようめほか 大阪府八尾市水越4丁目他	27212	55	34度 38分 06秒	135度 38分 18秒	20140507 ～ 20140730	約12	記録保存調査 公共下水道工事 (25-34工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第32次調査)	おおさかふやおんぢなままち5ちようめ 大阪府八尾市恩智中町5丁目	27212	30	34度 36分 21秒	135度 38分 01秒	20130930 ～ 20140318	約20	記録保存調査 公共下水道工事 (24-20工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第33次調査)	おおさかふやおんぢなままち4ちようめ 大阪府八尾市恩智南町4丁目	27212	30	34度 36分 19秒	135度 37分 56秒	20140519 ～ 20140726	約13	記録保存調査 公共下水道工事 (25-35工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第34次調査)	おおさかふやおんぢきたまち2ちようめ 大阪府八尾市恩智北町2丁目	27212	30	34度 36分 43秒	135度 37分 44秒	20140722 ～ 20140804	約8	記録保存調査 公共下水道工事 (25-8工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第35次調査)	おおさかふやおんぢきたまち2ちようめ 大阪府八尾市恩智北町2丁目	27212	30	34度 36分 37秒	135度 37分 50秒	20140723 ～ 20140725	約40	記録保存調査 公共下水道工事 (25-40工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第36次調査)	おおさかふやおんぢなままち2ちようめ 大阪府八尾市恩智中町2丁目	27212	30	34度 36分 32秒	135度 37分 53秒	20140728 ～ 20140822	約40	記録保存調査 公共下水道工事 (25-10工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第38次調査)	おおさかふやおんぢきたまち4ちようめ 大阪府八尾市恩智北町4丁目	27212	30	34度 36分 34秒	135度 38分 04秒	20140926	約8	記録保存調査 公共下水道工事 (25-33工区)
おんぢいせき 恩智遺跡 (第39次調査)	おおさかふやおんぢきたまち2ちようめ 大阪府八尾市恩智北町2丁目	27212	30	34度 36分 40秒	135度 37分 46秒	20141010	約4	記録保存調査 公共下水道工事 (25-9工区)
がくおんじいせき 楽音寺遺跡 (第5次調査)	おおさかふやしがくおんじ1ちようめ 大阪府八尾市楽音寺1丁目	27212	53	34度 38分 36秒	135度 38分 10秒	20140916 ～ 20140917	約22	記録保存調査 公共下水道工事 (25-201工区)
きのもといせき 木の本遺跡 (第27次調査)	おおさかふやおしみなまきのもとりちようめ 大阪府八尾市南木の本9丁目	27212	35	34度 36分 08秒	135度 35分 44秒	20140620	約3	記録保存調査 公共下水道工事 (25-18工区)
きのもといせき 木の本遺跡 (第28次調査)	おおさかふやおしみなまきのもとりちようめ 大阪府八尾市南木の本9丁目	27212	35	34度 35分 59秒	135度 35分 33秒	20141114 ～ 20150116	約6	記録保存調査 公共下水道工事 (25-203工区)
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第88次調査)	おおさかふやおしみなまきゅうほうじ2ちようめ 大阪府八尾市南久宝寺2丁目	27212	23	34度 37分 21秒	135度 35分 26秒	20140623 ～ 20140818	約37	記録保存調査 公共下水道工事 (25-15工区)
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第15次調査)	おおさかふやおしきょうこうじ1ちようめ 大阪府八尾市教興寺1丁目	27212	60	34度 37分 13秒	135度 37分 59秒	20131128 ～ 20140328	約24	記録保存調査 公共下水道工事 (25-106工区)
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第16次調査)	おおさかふやおしかいち2ちようめ 大阪府八尾市垣内2丁目	27212	60	34度 36分 55秒	135度 37分 59秒	20140530 ～ 20140624	約7	記録保存調査 公共下水道工事 (25-107工区)
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第17次調査)	おおさかふやおしきょうこうじ7ちようめ 大阪府八尾市教興寺7丁目	27212	60	34度 37分 07秒	135度 38分 07秒	20140617	約6	記録保存調査 公共下水道工事 (25-31工区)
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第18次調査)	おおさかふやおしかいち3ちようめちないほか 大阪府八尾市垣内3丁目地内他	27212	60	34度 36分 55秒	135度 38分 07秒	20140807 ～ 20140808	約7	記録保存調査 公共下水道工事 (25-32工区)
たかやすこふんぐん 高安古墳群 (第8次調査)			12					
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第19次調査)	おおさかふやおしかいち1ちようめちないほか 大阪府八尾市垣内1丁目地内他	27212	60	34度 36分 49秒	135度 37分 49秒	20141212 ～ 20141214	約7	記録保存調査 公共下水道工事 (26-21工区)
こおりがわいせき 郡川遺跡 (第20次調査)	おおさかふやおしこおりがわ1ちようめ 大阪府八尾市郡川1丁目	27212	60	34度 37分 26秒	135度 37分 54秒	20141215	約3	記録保存調査 公共下水道工事 (25-6工区)

こおりがわいせき 郡川遺跡 (第21次調査)	おおさかふやおしかいち2ちょうめ 大阪府八尾市垣内2丁目	27212	60	34度 36分 57秒	135度 37分 57秒	20150129	約2	記録保存調査 公共下水道工事 (26-106工区)
みづこしいせき 水越遺跡 (第16次調査)	おおさかふやおしほつりがわ6ちょうめ 大阪府八尾市服部川6丁目	27212	42	34度 37分 43秒	135度 38分 17秒	20140425 ～ 20140428	約6	記録保存調査 公共下水道工事 (25-29工区)
みづこしいせき 水越遺跡 (第18次調査)	おおさかふやおしみずこし1ちょうめ 大阪府八尾市水越1丁目	27212	42	34度 38分 03秒	135度 38分 02秒	20141125 ～ 20141127	約31	記録保存調査 公共下水道工事 (26-5工区)
ゆいせき 弓削遺跡 (第19次調査)	おおさかふやおしきちょうみなみ2ちょうめほか 大阪府八尾市志紀町南2丁目他	27212	71	34度 35分 48秒	135度 36分 55秒	20140513	約4	記録保存調査 公共下水道工事 (25-17工区)

収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
太田遺跡 (第18次調査)	集落				
太田川遺跡 (第4次調査)	集落	縄文時代後期 弥生時代後期	包含層 溝 自然河川	縄文土器 弥生土器 須恵器	
恩智遺跡 (第32次調査)	集落	近世	自然河川	土師器、陶磁器	
恩智遺跡 (第33次調査)	集落				
恩智遺跡 (第34次調査)	集落		自然河川	弥生土器、石器	
恩智遺跡 (第35次調査)	集落		自然河川	縄文土器、弥生土器	
恩智遺跡 (第36次調査)	集落		自然河川	縄文土器、弥生土器、中国製白磁	
恩智遺跡 (第38次調査)	集落				
恩智遺跡 (第39次調査)	集落		自然河川		
楽音寺遺跡 (第5次調査)	集落				
木の本遺跡 (第27次調査)	集落		作土層		
木の本遺跡 (第28次調査)	集落	古代～近世	作土層		
久宝寺遺跡 (第88次調査)	集落		作土層 自然河川		
郡川遺跡 (第15次調査)	集落		作土層 自然河川		
郡川遺跡 (第16次調査)	集落		作土層 自然河川		
郡川遺跡 (第17次調査)	集落		扇状地性堆積		
郡川遺跡 (第18次調査) 高安古墳群 (第8次調査)	集落 古墳	近世	導水施設	瓦管、磁器	
郡川遺跡 (第19次調査)	集落		作土層 自然河川		
郡川遺跡 (第20次調査)	集落		自然河川		
郡川遺跡 (第21次調査)	集落		扇状地性堆積		
水越遺跡 (第16次調査)	集落		自然河川		
水越遺跡 (第18次調査)	集落		扇状地性堆積		
弓削遺跡 (第19次調査)	集落		自然河川		

要約	太田川遺跡第4次調査では縄文時代後期の遺物包含層から遺存状態の良い土器が出土しており、該期の居住域と捉えられる。また西部の調査地で確認している弥生時代後期の遺構や遺物包含層が見られ、集落域が東に広がることが確認された。恩智遺跡では自然河川から縄文土器、弥生土器等が出土している。郡川遺跡第18次調査では近世の導水施設を検出した。
----	--



公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告146

I 太田遺跡(第18次調査)	XIII 久宝寺遺跡(第88次調査)
II 太田川遺跡(第4次調査)	XIV 郡川遺跡(第15次調査)
III 恩智遺跡(第32次調査)	XV 郡川遺跡(第16次調査)
IV 恩智遺跡(第33次調査)	XVI 郡川遺跡(第17次調査)
V 恩智遺跡(第34次調査)	XVII 郡川遺跡(第18次調査)
VI 恩智遺跡(第35次調査)	高安古墳群(第8次調査)
VII 恩智遺跡(第36次調査)	XVIII 郡川遺跡(第19次調査)
VIII 恩智遺跡(第38次調査)	XIX 郡川遺跡(第20次調査)
IX 恩智遺跡(第39次調査)	XX 郡川遺跡(第21次調査)
X 楽音寺遺跡(第5次調査)	XXI 水越遺跡(第16次調査)
XI 木の本遺跡(第27次調査)	XXII 水越遺跡(第18次調査)
XII 木の本遺跡(第28次調査)	XXIII 弓削遺跡(第19次調査)

発行 平成27年3月  
編集 公益財団法人八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821  
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の2  
TEL・FAX (072) 994-4700

印刷 古賀印刷株式会社  
表紙 レザック66 <260kg>  
本文 マットコート <70kg>  
図版 マットコート <70kg>

